

## ビデオウォール設定ツール

# Videowall Configuration Tool

DFS-01UHD / DFS-01HD  
FDX-S08 / FDX-S16 / FDX-S32 / FDX-S64  
FDX-S08U / FDX-S16U / FDX-S32U / FDX-S64U

取扱説明書 Ver.3.4.0



## 商標について

- HDMI、High-Definition Multimedia Interface、および HDMI ロゴ は、米国およびその他の国における HDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または、登録商標です。
- Microsoft, Windows 10, および Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Microsoft® .NET は、お客様、情報、システムおよびデバイスを繋ぐソフトウェアです。
- 本書中の弊社で提供するソフトウェアは、Microsoft .NET Framework に基づくアプリケーションです。
- PJLink 商標は、日本、米国その他の国や地域における登録又は出願商標です。
- その他、記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。  
なお、本文中において、®マークや™マークを省略している場合があります。

# この取扱説明書をお読みいただく前に

- この取扱説明書の無断転載を禁じます。
- お客様がお持ちの製品のバージョンによっては、この取扱説明書に記載される画面構成、メニューおよび画面表示などが一部異なる場合がありますのでご了承ください。
- 取扱説明書は改善のため、事前の予告なく変更することがあります。

## 著作権について

本ソフトウェアの著作権は、株式会社アイ・ディ・ケイが保有します。お客様は、いかなる理由においても本ソフトウェアの改造や譲渡、販売および再配布はできません。

## 保証の範囲について

弊社から提供する設定ソフトウェアは、無償でご利用いただけます。ただし、これらの設定ソフトウェアには製品保証が付帯しません。また、設定ソフトウェアの更新・問い合わせの対応をしておらず、弊社都合により提供を停止することがあります。万一、問題が起きても弊社では一切の責任を負いかねます。

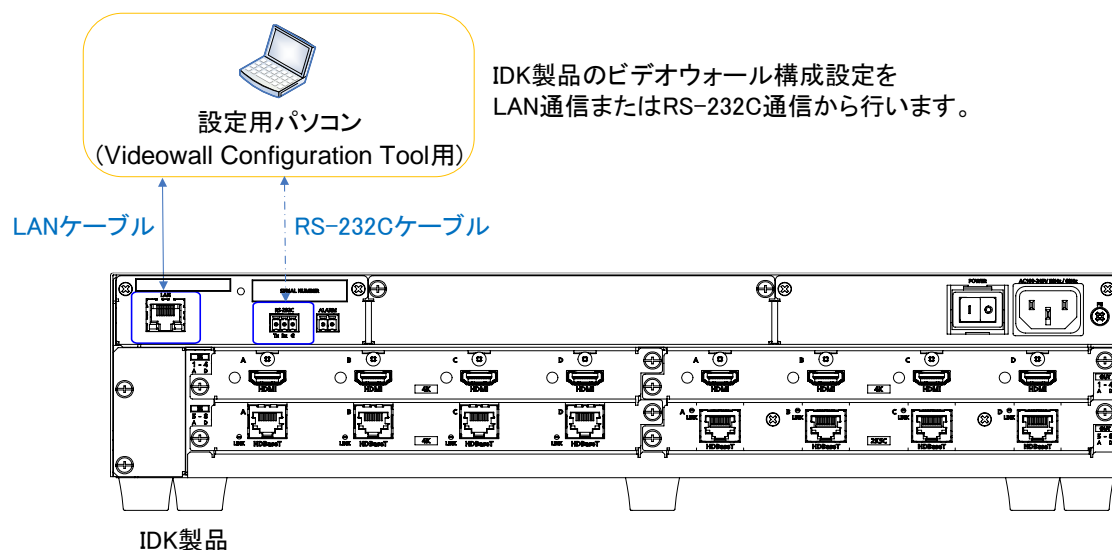
# 目次

1. Videowall Configuration Tool とは .....	6
1.1 特長 .....	6
1.2 動作環境 .....	7
2. はじめに .....	8
2.1 準備するもの .....	8
2.2 環境設定 .....	8
2.2.1 インストール方法 .....	8
2.2.2 アンインストール方法 .....	11
2.3 DFS Series の準備 .....	11
3. Videowall Configuration Tool の画面構成 .....	12
3.1 起動方法 .....	12
3.2 画面構成 .....	12
4. ビデオウォールシステムの準備 .....	13
4.1 Pattern Editor .....	13
4.2 Pattern Editor の設定 .....	14
4.3 起動時の操作 .....	19
4.4 ビデオウォールシステムの構築 .....	25
4.4.1 パターン名の変更 / グループ数の変更 .....	28
4.4.2 設定するビデオウォールグループの変更 .....	29
4.4.3 DFS Series の IP アドレスの取得 .....	30
4.4.4 FDX-S Series との接続設定を行う .....	31
4.4.5 ビデオウォールの分割数設定 .....	33
4.4.6 ベゼル幅補正の設定を行う .....	34
4.4.7 ベゼル幅補正の設定のコピー .....	38
4.4.8 ビデオウォール上の画面と IP アドレスの割り付け .....	39
4.4.9 ビデオウォール上の画面と出力チャンネルの割り付け .....	42
4.4.10 ディスプレイを縦に配置してビデオウォールを設定する .....	45
4.4.11 ビデオウォールのディスプレイに単画面表示する .....	45
4.4.12 FDX-S Series の映像同期設定を行う .....	46
4.4.13 マルチウィンドウ設定を行う .....	47
4.4.14 ビデオウォールにテストパターンを出力する .....	62
4.4.15 ビデオウォールの入力映像を設定する .....	62
4.4.16 入力映像のアスペクト比の設定を行う .....	62
4.4.17 出力映像のアスペクト比の設定を行う .....	63
4.4.18 ビデオウォール共通設定を行う .....	64
4.4.19 位置・サイズ・音声出力の設定を行う .....	67
4.4.20 ビデオウォールのアスペクトモードを変更する .....	70
4.4.21 その他 DFS Series の設定を行う .....	72
4.4.22 DFS Series の設定のコピー .....	93
4.4.23 IDK 製品のステータスを表示する .....	95
4.4.24 ビデオウォールパターンを新規作成する .....	97
4.5 表示パターンの保存 .....	98
4.6 Excel ファイル出力 .....	99
4.7 パターンリスト .....	102
4.7.1 パターンリストを新規作成する .....	102
4.7.2 登録先のパターンリストを変更する .....	103
4.8 バックアップ / リストア .....	104

4.8.1	DFS Series の全設定をバックアップする .....	104
4.8.2	パソコンに保存したバックアップデータを DFS Series にリストアする .....	107
4.8.3	FDX-S Series の全設定をバックアップする .....	108
4.8.4	パソコンに保存したバックアップデータを FDX-S Series にリストアする .....	108
5.	ビデオウォールシステムの表示パターン切換 .....	109
5.1	Pattern Switcher.....	109
6.	Videowall Configuration Tool のバージョン情報表示 .....	111

# 1. Videowall Configuration Tool とは

Videowall Configuration Tool とは、LAN 通信または RS-232C 通信を使って、パソコンから IDK 製品を制御することでビデオウォールを構築するソフトウェアです。



[図 1.1] Videowall Configuration Tool からの制御

## 1.1 特長

Videowall Configuration Tool の特長は次のとおりです。

- ・ 単純な操作で IDK 製品のビデオウォール構築が可能
- ・ 複数のビデオウォールを使用するビデオウォールシステムの一括管理が可能
- ・ IDK 製品の設定をパソコンへバックアップが可能
- ・ ビデオウォールシステムの表示パターン保存・切替が可能

## 1.2 動作環境

---

Videowall Configuration Tool を操作するためのパソコンの動作環境は次のとおりです。

**[表 1.1] パソコンの動作環境**

項目	内容
OS	Windows 10 (32 ビット版 / 64 ビット版)
CPU	1 GHz 以上
ハードディスク	500 MB 以上
メモリ	500 MB 以上
ディスプレイ解像度	XGA (1024x768) 以上
Microsoft .NET Framework	4.6.2 以上

---

【参考】Microsoft .NET Framework については、日本マイクロソフト株式会社のサポートページをご覧ください。

---

## 2. はじめに

### 2.1 準備するもの

次のものを準備してください。

- ・ Videowall Configuration Tool
- ・ パソコン
- ・ IDK 製品
- ・ LAN ケーブルまたは RS-232C ケーブル (クロスケーブル)

【参考】 Videowall Configuration Tool は、弊社ホームページよりダウンロードができます。  
対象製品の詳細ページをご覧ください。  
[www.idk.co.jp/products](http://www.idk.co.jp/products)

### 2.2 環境設定

本章では、Videowall Configuration Tool のインストールとアンインストールの方法について説明します。

【注意】 Videowall Configuration Tool をインストールまたはアンインストールするときは、パソコンから管理者権限のあるアカウントで実行してください。

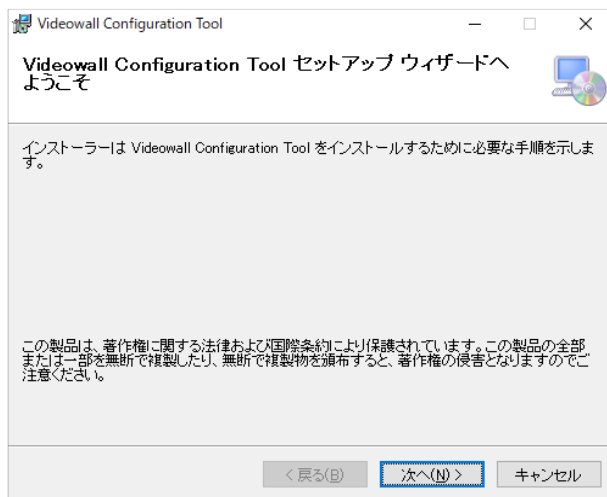
#### 2.2.1 インストール方法

Videowall Configuration Tool のインストール方法について説明します。

次の手順に従い、パソコンに Videowall Configuration Tool をインストールしてください。

手順 1 : “VideowallConfigurationTool\_vxxx<sup>\*</sup>Jp.msi” を実行します。(xxx<sup>\*</sup>= 数値 3 桁で表されるソフトウェアバージョン)

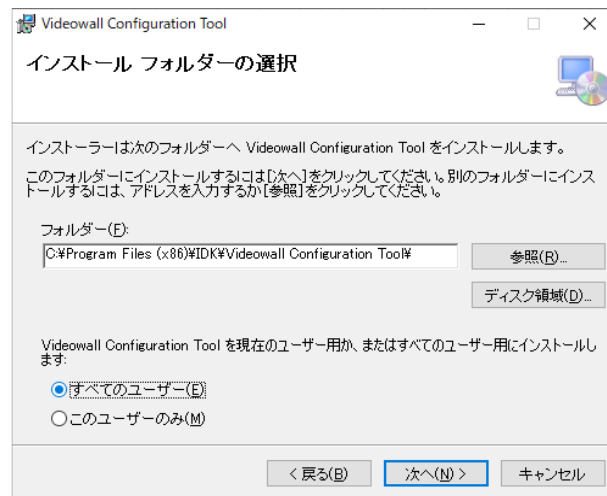
次の画面が表示されたら、[次へ] ボタンをクリックしてください。



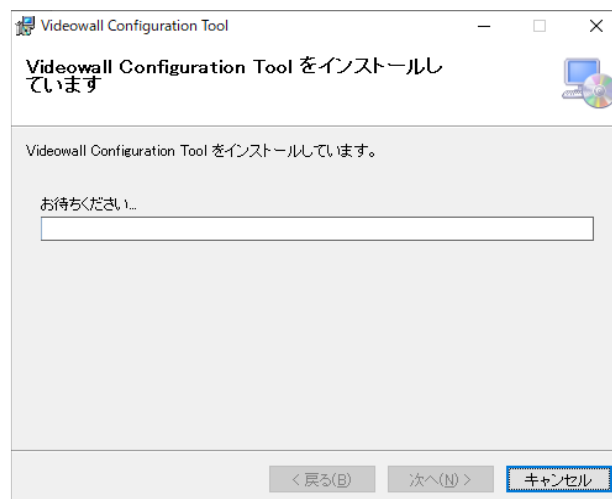
【図 2.1】 セットアップウィザードの開始



次の画面が表示されたら、任意のインストールフォルダを選択して、[次へ] ボタンをクリックしてください。

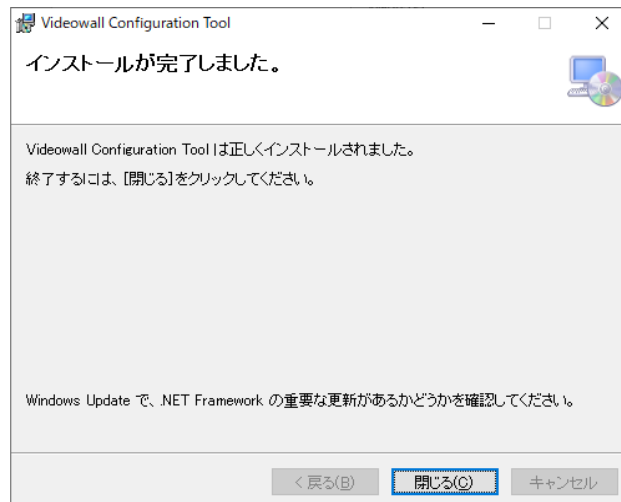


[図 2.2] インストールフォルダの選択



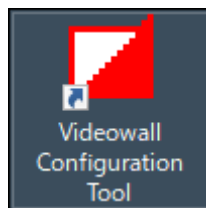
[図 2.3] インストールの開始

次の画面が表示されたら、[閉じる] ボタンをクリックしてください。



**[図 2.4] インストールの完了**

手順 2 : パソコンに Videowall Configuration Tool が正常にインストールされると、デスクトップ画面上に [Videowall Configuration Tool] アイコンが表示されます。



**[図 2.5] [Videowall Configuration Tool] アイコン**

## 2.2.2 アンインストール方法

Videowall Configuration Tool をアンインストールするときは、パソコンの [コントロールパネル] - [プログラム] - [プログラムと機能] から “Videowall Configuration Tool” を選択し、[アンインストール] ボタンをクリックしてください。



[図 2.6] Videowall Configuration Tool のアンインストール

## 2.3 DFS Series の準備

DFS Series を使ったビデオウォールを構築する場合、事前に DFS Series の LAN 設定が必要です。Videowall Configuration Tool は、同一ネットワーク上で DFS Series の制御を行うため、それぞれ異なる IP アドレスを設定する必要があります。なお、TCP ポート番号は共通の番号を設定してください。設定方法は、DFS Series の取扱説明書をご参照ください。

### 3. Videowall Configuration Tool の画面構成

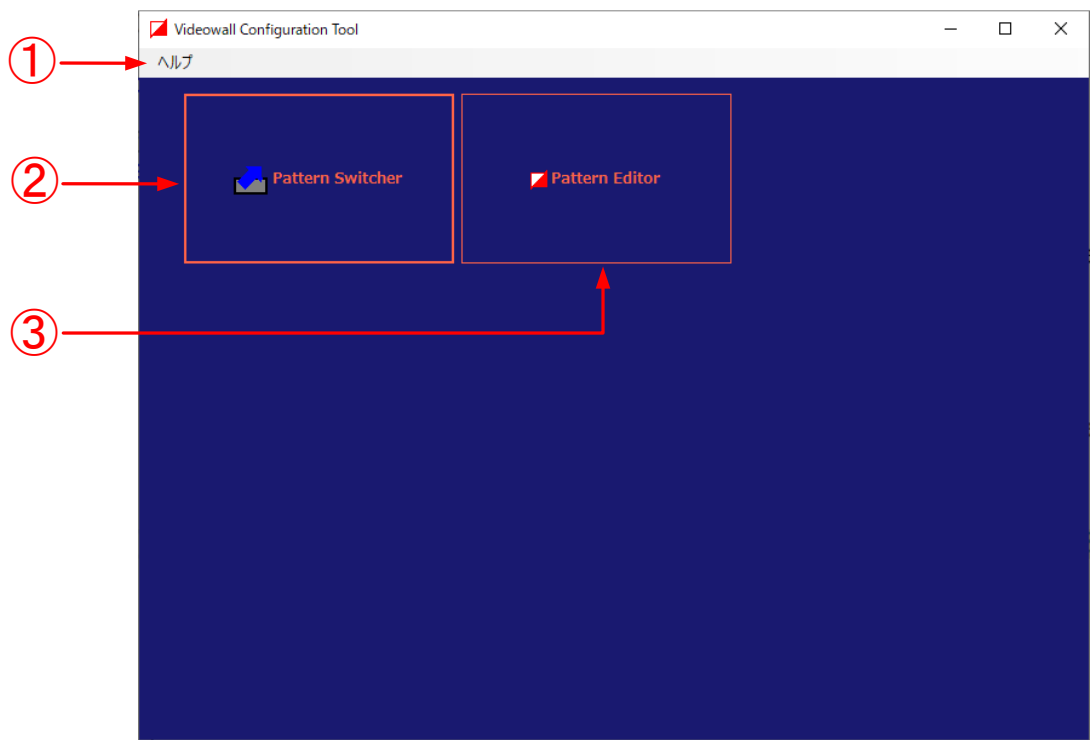
本章では、Videowall Configuration Tool の起動方法と画面構成について説明します。

#### 3.1 起動方法

デスクトップ画面上の [Videowall Configuration Tool] アイコンをダブルクリックし、Videowall Configuration Tool を起動してください。  
なお、Videowall Configuration Tool はスタートメニューからも起動することができます。

#### 3.2 画面構成

Videowall Configuration Tool のメインパネルは、ヘルプ、[Pattern Switcher] ボタン、[Pattern Editor] ボタンから構成されます。



[図 3.1] 画面構成

[表 3.1] メインパネルの説明

番号	名前	説明
①	ヘルプ	Videowall Configuration Tool のバージョン情報を表示します。 【参照：6 Videowall Configuration Tool のバージョン情報表示 (P.111)】
②	[Pattern Switcher] ボタン	ビデオウォールシステムの表示パターン切替用ソフトウェア「Pattern Switcher」を起動します。 【参照：5.1 Pattern Switcher (P.109)】
③	[Pattern Editor] ボタン	ビデオウォールシステムの設定用ソフトウェア「Pattern Editor」を起動します。 【参照：4.1 Pattern Editor (P.13)】

## 4. ビデオウォールシステムの準備

---

本章では、次の方法について説明します。

- ・ ビデオウォールシステムの設定
- ・ ビデオウォールシステムの表示パターン保存
- ・ IDK 製品の設定を Excel ファイルとして出力
- ・ 表示パターンのリストに対する操作
- ・ IDK 製品の設定をバックアップ / リストア

### 4.1 Pattern Editor

---

Pattern Editor はビデオウォールシステムの設定を行うためのソフトウェアです。

ネットワーク上の IDK 製品を設定することで、ビデオウォールシステムを構築します。また、ビデオウォールシステムの設定を保存することで、様々なビデオウォールの表示パターンを使用することができます。保存したビデオウォールの表示パターンに切り換えるには、「Pattern Switcher」を使用してください。

【参照 : 5.1 Pattern Switcher (P.109) 】

---

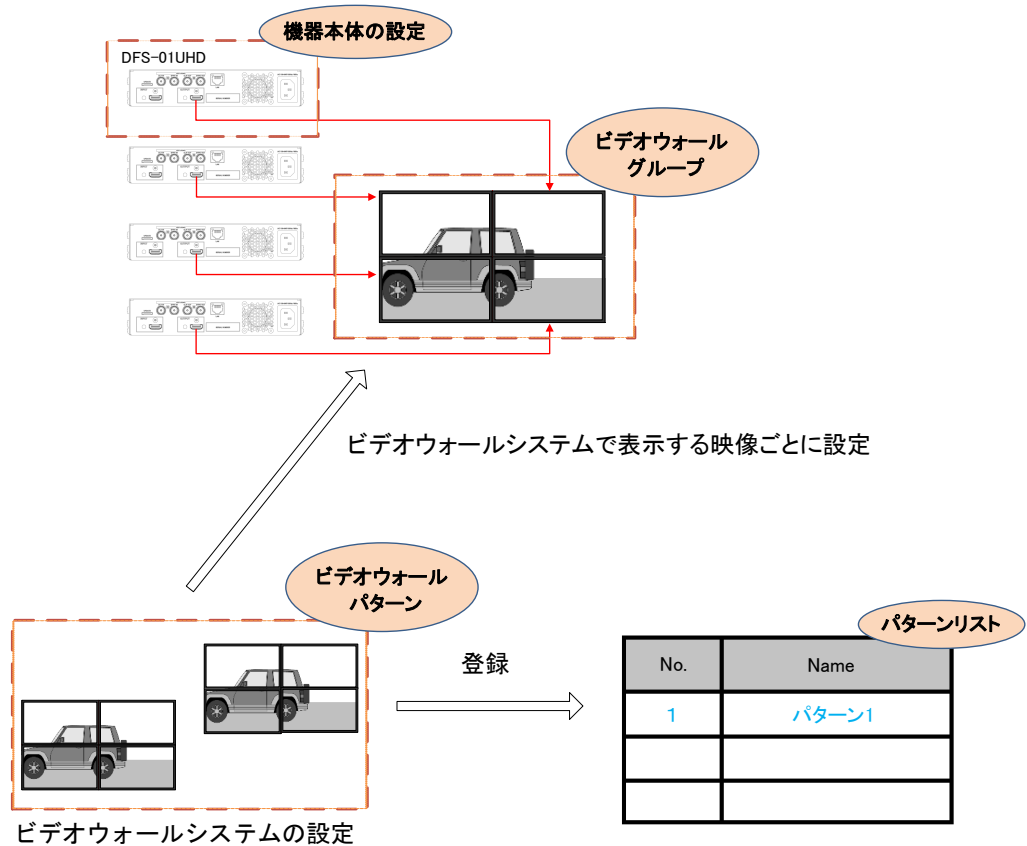
【注意】 ビデオウォールの表示パターンは、IDK 製品のプリセットメモリに保存されます。IDK 製品の初期化やプリセットメモリの保存内容を変更すると、保存した内容を読み出せなくなります。

---

## 4.2 Pattern Editor の設定

Pattern Editor では、以下の設定を行います。

### ■ DFS Series の場合



[図 4.1] Pattern Editor の設定の種類

[表 4.1] Pattern Editor の設定の種類

設定の種類	内容
機器本体の設定	機器本体の設定は、DFS Series の設定です。 【参照：[表 4.2] Pattern Editor で設定・取得可能な DFS Series の設定 (P.15)】
ビデオウォールグループ	ビデオウォールグループは、ビデオウォールの分割数、ベゼル（ディスプレイの枠）幅とその補正の有無、ビデオウォール上の各画面位置と構築に使用する各 DFS Series の割り付け状態からなる設定です。
ビデオウォールパターン	ビデオウォールパターンは、Pattern Editor におけるビデオウォールシステムの設定です。この設定は、ビデオウォールグループと機器本体の設定から構成されます。
パターンリスト	パターンリストは、ビデオウォールパターンを登録するリストです。登録する際、DFS Series 自身の設定が一部保存されます。保存した設定は、表示パターンとして任意のタイミングで呼び出すことができます。 表示パターンは、一つのパターンリストに最大 16 パターン登録することができます。  【参照：4.5 表示パターンの保存 (P.98)】 【参照：5 ビデオウォールシステムの表示パターン切替 (P.109)】

[表 4.2] Pattern Editor で設定・取得可能な DFS Series の設定

設定	項目
出力タイミング設定 (P.74)	出力解像度、シンク機器のアスペクト比、テストパターン出力、 回転、反転、blankカラー、バックカラー、コントラスト調整 値、ブライトネス調整値
出力設定 (P.77)	出力モード、シンク機器 EDID チェック、HDCP 出力、 ホットプラグ オフ マスク、Deep Color
入力タイミング (P.79)	取り込み開始位置、取り込みサイズ、アスペクト比、 シャープネス、コントラスト、ブライトネス、色相、彩度、ガンマ
入力設定 (P.81)	映像信号の無入力監視時間、HDCP 入力の許可 / 禁止
ビデオウォール設定 (P.83)	分割数※1、ビデオウォール上の画面位置※2、表示サイズ※3、 表示位置※3、外部同期
音声設定 (P.85)	音声出力レベル※3、音声出力ミュート※3、リップシンク、 マルチチャンネル音声出力、テストトーン
EDID 設定 (P.87)	EDID の解像度、Audio フォーマット、Deep Color 入力、 スピーカー構成
プリセットメモリ設定 (P.91)	プリセットメモリの名前※4、プリセットメモリの内容※4
その他の設定 (P.92)	オペレーションロック

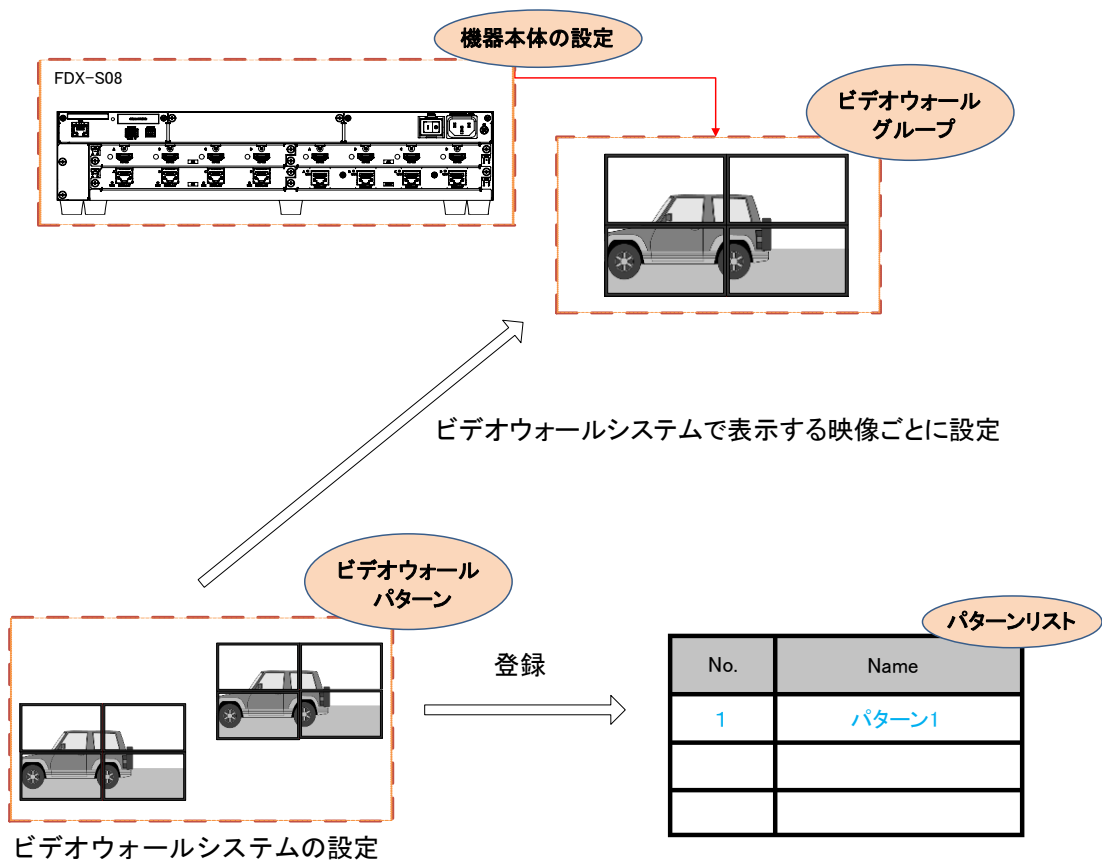
※1 4.4.5 ビデオウォールの分割数設定 (P.33) で設定される項目です。

※2 4.4.8 ビデオウォール上の画面と IP アドレスの割り付け (P.39) で設定される項目です。

※3 4.4.19 位置・サイズ・音声出力の設定を行う (P.67) で設定される項目です。

※4 ■ プリセットメモリ設定 (P.91) では取得のみ可能です。4.5 表示パターンの保存 (P.98) で表示パターンを保存したときに、プリセットメモリの名前とプリセットメモリの内容が変更されます。プリセットメモリの名前は、パターンリストで登録先にした番号に変更されます。

■ FDX-S Series の場合



[図 4.2] Pattern Editor の設定の種類

[表 4.3] Pattern Editor の設定の種類

設定の種類	内容
機器本体の設定	機器本体の設定は、FDX-S Series の設定です。 【参照：[表 4.4] Pattern Editor で設定・取得可能な FDX-S Series の設定 (P.17)】
ビデオウォールグループ	ビデオウォールグループは、ビデオウォールの分割数、ベゼル（ディスプレイの枠）幅とその補正の有無、ビデオウォール上の各画面位置と構築に使用する FDX-S Series の各出力チャンネルの割り付け状態からなる設定です。
ビデオウォールパターン	ビデオウォールパターンは、Pattern Editor におけるビデオウォールシステムの設定です。この設定は、ビデオウォールグループと機器本体の設定から構成されます。
パターンリスト	パターンリストは、ビデオウォールパターンを登録するリストです。登録する際、FDX-S Series 自身の設定が一部保存されます。保存した設定は、表示パターンとして任意のタイミングで呼び出すことができます。 表示パターンは、一つのパターンリストに最大 32 パターン登録することができます。  【参照：4.5 表示パターンの保存 (P.98)】 【参照：5 ビデオウォールシステムの表示パターン切替 (P.109)】



[表 4.4] Pattern Editor で設定・取得可能な FDX-S Series の設定

設定	項目
映像を出力する	入力チャンネルの選択※1
出力画角設定	出力解像度※2、シンク機器のアスペクト比※2、 テストパターン出力※2、バックカラー※2、分割数※3、 ビデオウォール上の画面位置※4、表示サイズ※5、表示位置※5、 同期モード設定※6、映像同期処理※6
画質調整	出力コントラスト※2、出力ブライトネス※2、出力ガンマ※2
プリセットメモリ設定	プリセットメモリの内容※7
マルチウィンドウ設定	ウィンドウ表示位置※8、ウィンドウ表示サイズ※8、映像表示位置※8、 映像表示サイズ※8、背景色※8、ウィンドウ優先順位※8、映像切換効果※8、 ウィンドウ非表示※8、オーバーレイテキスト表示位置※8、 オーバーレイテキストサイズ※8、ウィンドウ枠サイズ※8、ウィンドウ枠色※8

※1 4.4.15 ビデオウォールの入力映像を設定する (P.62) で設定される項目です。

※2 4.4.18 ビデオウォール共通設定を行う (P.64) で設定される項目です。

※3 4.4.5 ビデオウォールの分割数設定 (P.33) で設定される項目です。

※4 4.4.9 ビデオウォール上の画面と出力チャンネルの割り付け (P.42) で設定される項目です。

※5 4.4.19 位置・サイズ・音声出力の設定を行う (P.67) で設定される項目です。

※6 4.4.12 FDX-S Series の映像同期設定を行う (P.46) で設定される項目です。

※7 4.5 表示パターンの保存 (P.98) で表示パターンを保存したときに、プリセットメモリの名前とプリセットメモリの内容が変更されます。プリセットメモリの名前は、パターンリストで登録先にした番号に変更されます。

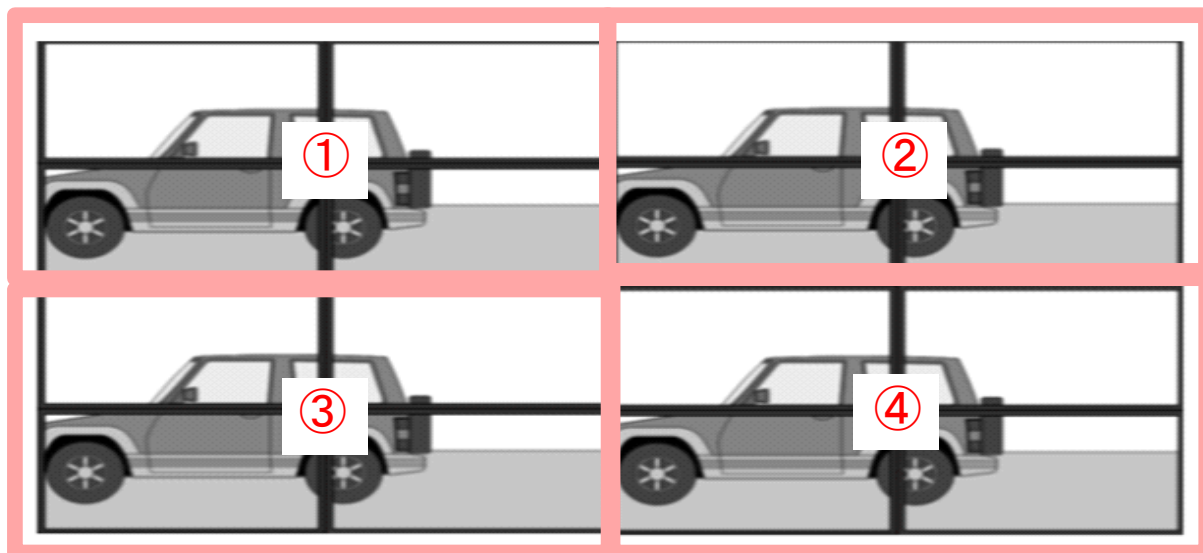
※8 4.4.13 マルチウィンドウ設定を行う (P.47) で設定される項目です。

Pattern Editor では、ビデオウォールシステムを設定するとき、ビデオウォールグループを作成します。ビデオウォールグループは、ビデオウォールシステム上に表示する映像 1 つに対して 1 グループ作成してください。

例として、以下のようなビデオウォールシステムを設定するときは、ビデオウォールグループは 4 グループ作成します。

2×2の映像を4つ表示するビデオウォールシステム。

この場合は、①～④にそれぞれビデオウォールグループを作成する。



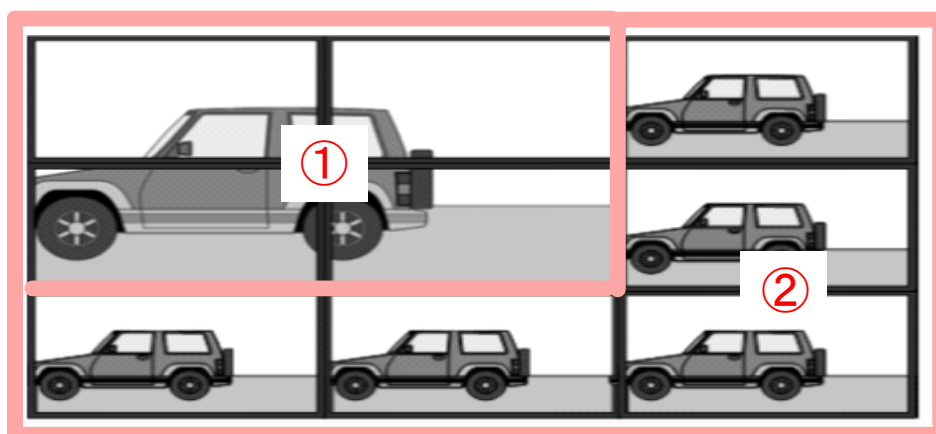
【図 4.3】ビデオウォールシステムに応じたビデオウォールグループの作成例

ただし、単面表示の部分はその全体に対してビデオウォールグループを 1 グループ作成してください。

例として、以下のようなビデオウォールシステムに設定するときは、ビデオウォールグループは 2 グループ作成します。

2×2の映像と、複数の単面の映像を表示するビデオウォールシステム。

この場合は、①～②にそれぞれビデオウォールグループを作成する。

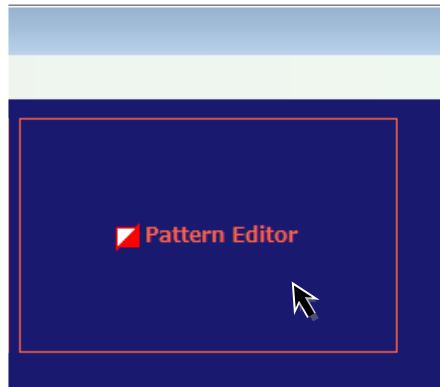


【図 4.4】ビデオウォールシステムの単面表示の部分に対するビデオウォールグループの作成例

【注意】ビデオウォールグループは、ビデオウォールシステム設定中に使用する設定単位です。設定後、保存することはできません。

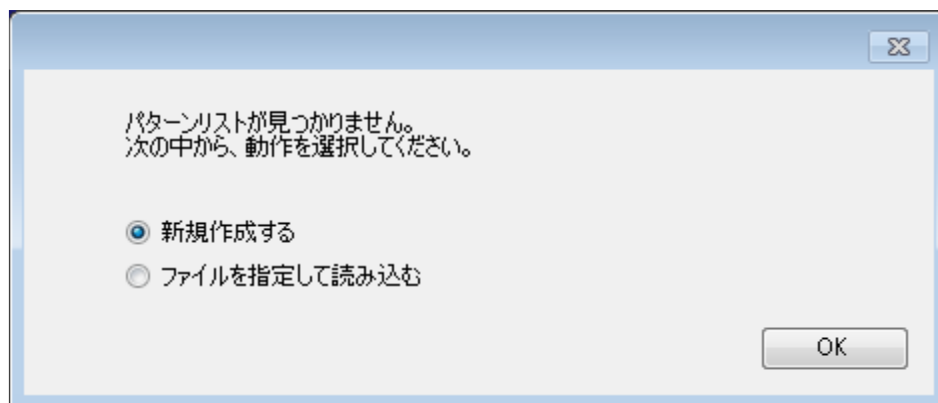
## 4.3 起動時の操作

Pattern Editor を起動するには、Videowall Configuration Tool の [Pattern Editor] ボタンをクリックします。



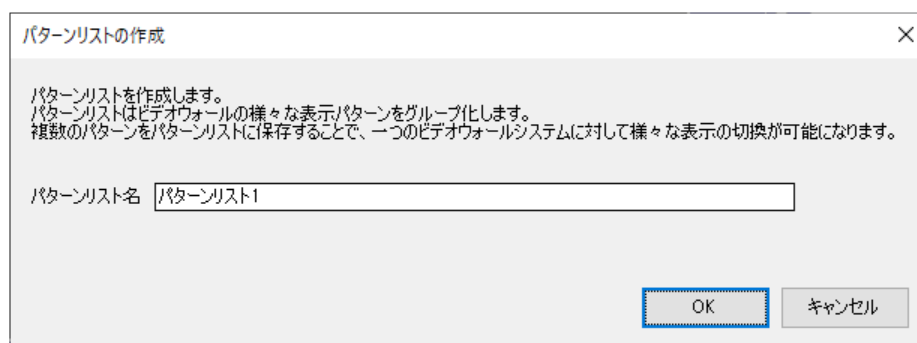
【図 4.5】 [Pattern Editor] ボタン

インストール後、Pattern Editor を初めて起動する際は以下のようにパターンリストのファイル指定を要求されます。パターンリストのファイルがない場合は、“新規作成する”を選択して [OK] ボタンを押します。



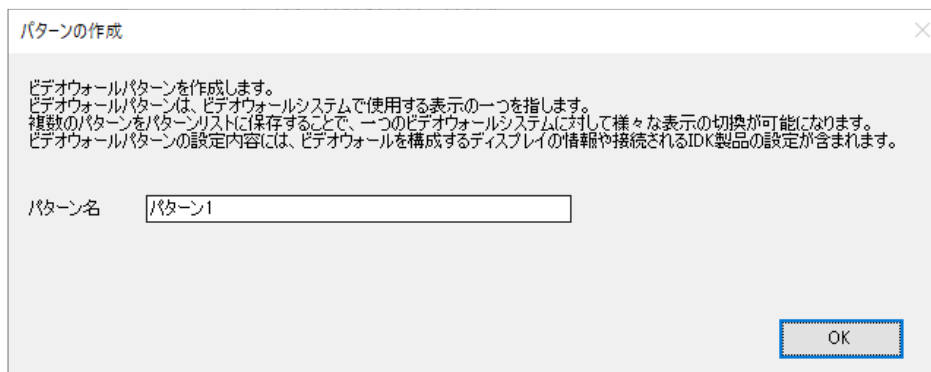
【図 4.6】 初回起動時の画面

[パターンリストの作成] 画面が表示されます。[パターンリスト名] に任意の名前を入力して [OK] ボタンを押します。



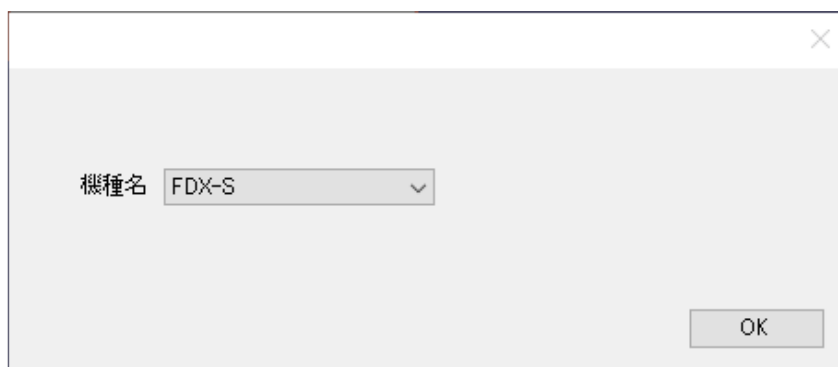
【図 4.7】 パターンリストの作成

次に [パターン名の作成] 画面が表示されます。この画面は Pattern Editor の起動時毎回表示されます。  
[パターン名] に任意の名前を入力して [OK] ボタンを押します。



[図 4.8] ビデオウォールパターンの作成

次に [機種名] を選択する画面が表示されます。ビデオウォールの構築に使用する機種を選択して、[OK] ボタンを押します。

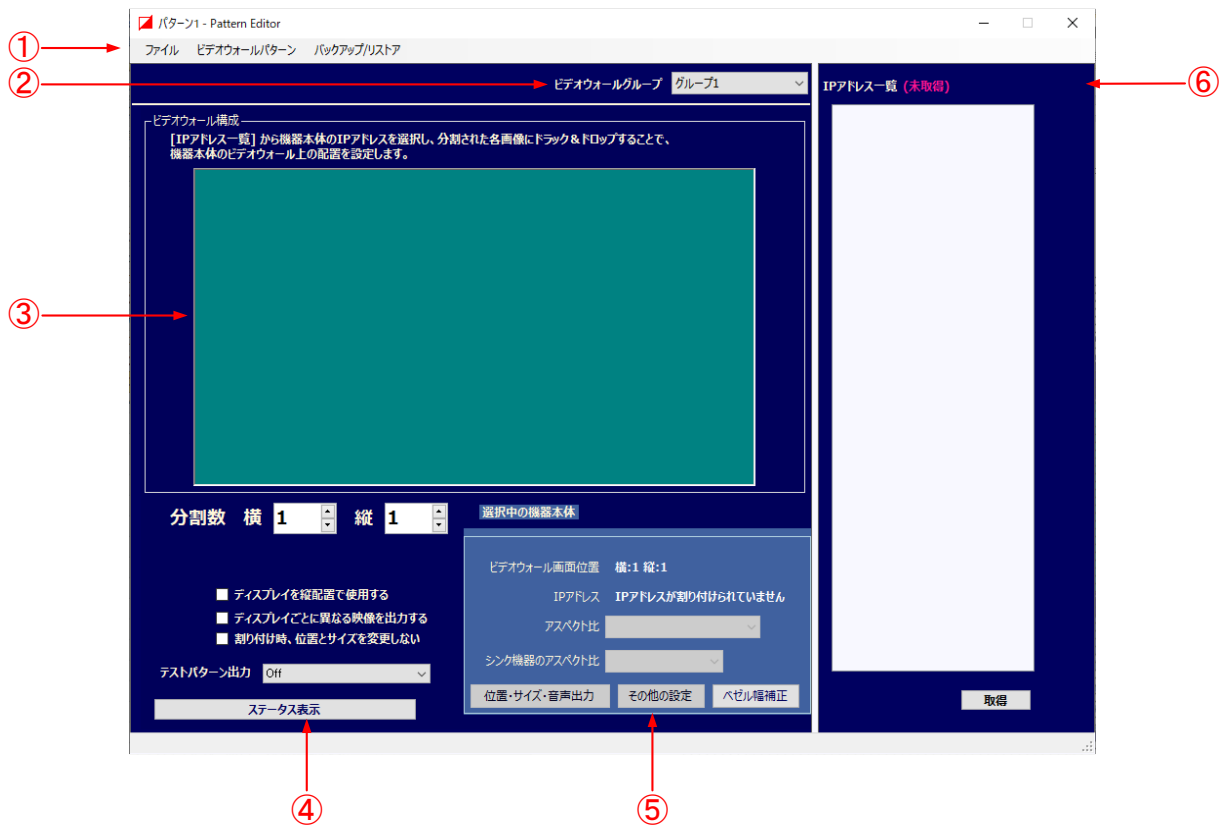


[図 4.9] 機種名を選択

Pattern Editor が起動します。

## ■ DFS Series の場合

Pattern Editor のメインパネルは、メニューバー、ビデオウォールグループの選択、ビデオウォール構成画面、ビデオウォールの設定、選択中の機器本体、IP アドレス一覧から構成されます。



[図 4.10] Pattern Editor の画面構成

[表 4.5] メインパネルの説明

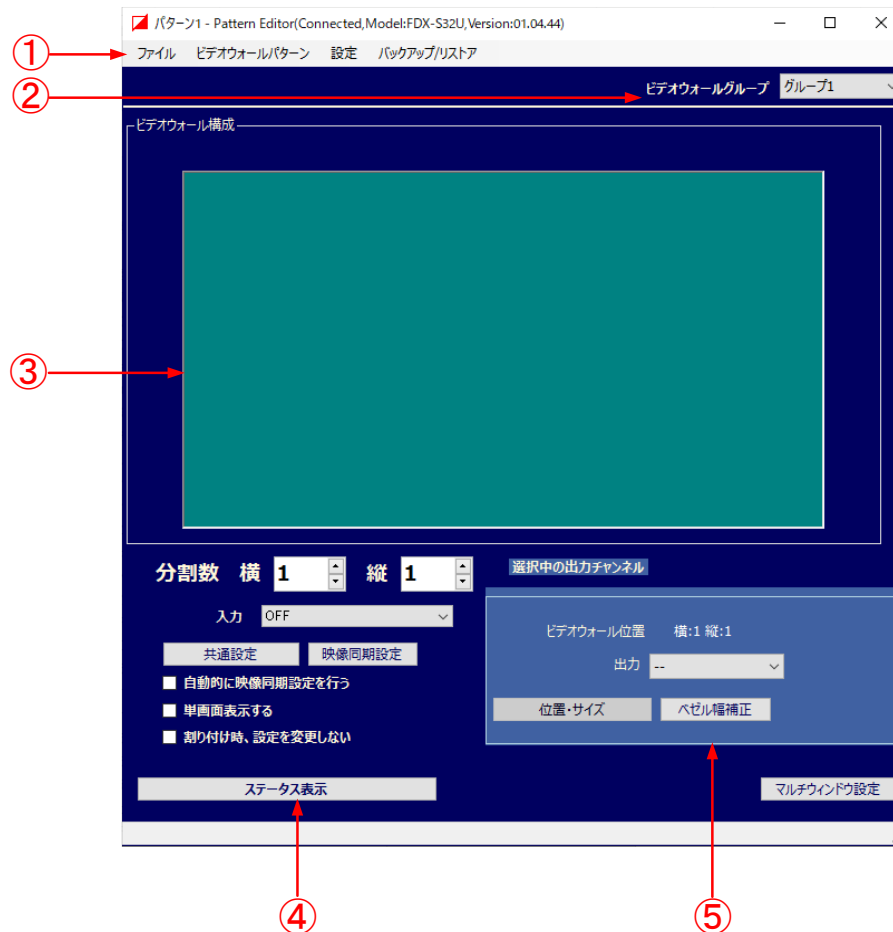
番号	名前	説明
①	メニューバー	機器本体の設定を Excel ファイルに書き出したり、表示パターンの保存などを行うメニューです。 【参照：[表 4.6] メニューバーについて (P.22)】
②	ビデオウォールグループの選択	設定するビデオウォールグループを選択します。
③	ビデオウォール構成画面	設定するビデオウォールを表示します。 【参照：4.4.5 ビデオウォールの分割数設定 (P.33)】
④	ビデオウォールの設定	設定するビデオウォールに対して、各種設定を行います。 【参照：4.4.8 ビデオウォール上の画面と IP アドレスの割り付け (P.39)】 【参照：4.4.10 ディスプレイを縦に配置してビデオウォールを設定する (P.45)】 【参照：4.4.11 ビデオウォールのディスプレイに単画面表示する (P.45)】 【参照：4.4.14 ビデオウォールにテストパターンを出力する (P.62)】 【参照：4.4.23 IDK 製品のステータスを表示する (P.95)】
⑤	選択中の機器本体	機器本体の設定を表示します。 ビデオウォール構成で表示したい DFS Series を選択します。
⑥	IP アドレス一覧	取得した DFS Series の IP アドレスを一覧表示します。 【参照：4.4.3 DFS Series の IP アドレスの取得 (P.30)】

[表 4.6] メニューバーについて

メニュー			説明	参照ページ
ファイル	新規	パターン	ビデオウォールパターンを初期化します。	97
		パターンリスト	パターンリストを新規に作成します。	102
	読込	パターンリスト	パターンリストをファイルから読み込んで、ビデオウォールパターンの更新を行います。	103
	書出		機器本体の設定を Excel ファイルに書き出します。	99
ビデオウォールパターン	パターン名の変更 / グループ数の変更		ビデオウォールパターンの名称を変更します。ビデオウォールグループに追加・削除を行います。	28
	パターンリストへの保存		設定中のビデオウォールパターンを保存します。	98
バックアップ / リストア	バックアップ		DFS Series の設定可能な全項目を、パソコンにファイルとしてバックアップします。Pattern Editor で設定していない項目も含めて、バックアップを行います。	104
	リストア		バックアップした設定ファイルを、DFS Series にリストアします。	107

## ■ FDX-S Series の場合

Pattern Editor のメインパネルは、メニューバー、ビデオウォールグループの選択、ビデオウォール構成画面、ビデオウォールの設定、選択中の出力チャンネルから構成されます。



[図 4.11] Pattern Editor の画面構成

[表 4.7] メインパネルの説明

番号	名前	説明
①	メニューバー	表示パターンの保存などを行うメニューです。 【参照：[表 4.6] メニューバーについて (P.22)】
②	ビデオウォール グループの選択	設定するビデオウォールグループを選択します。
③	ビデオウォール 構成画面	設定するビデオウォールを表示します。 【参照：4.4.5 ビデオウォールの分割数設定 (P.33)】
④	ビデオウォールの 設定	設定するビデオウォールに対して、各種設定を行います。 【参照：4.4.11 ビデオウォールのディスプレイに単画面表示する (P.45)】 【参照：4.4.12 FDX-S Series の映像同期設定を行う (P.46)】 【参照：4.4.15 ビデオウォールの入力映像を設定する (P.62)】 【参照：4.4.18 ビデオウォール共通設定を行う (P.64)】 【参照：4.4.23 IDK 製品のステータスを表示する (P.95)】
⑤	選択中の 出力チャンネル	ビデオウォール構成で表示したい FDX-S Series の出力チャンネルを選択します。

[表 4.8] メニューバーについて

メニュー			説明	参照 ページ
ファイル	新規	パターン	ビデオウォールパターンを初期化します。	97
		パターン リスト	パターンリストを新規に作成します。	102
	読込	パターン リスト	パターンリストをファイルから読み込んで、ビデオウォールパターンの更新を行います。	103
ビデオウォール パターン	パターン名の変更 / グループ数の変更		ビデオウォールパターンの名称を変更します。ビデオウォールグループに追加・削除を行います。	28
	パターンリストへの保存		設定中のビデオウォールパターンを保存します。	98
設定	接続設定		FDX-S Series との接続設定を行います。	31
バックアップ /リストア	バックアップ		FDX-S Series の設定可能な全項目を、パソコンにファイルとしてバックアップします。Pattern Editor で設定していない項目も含めて、バックアップを行います。	108
	リストア		バックアップした設定ファイルを、FDX-S Series にリストアします。	108



## 4.4 ビデオウォールシステムの構築

---

本項では、Pattern Editor によるビデオウォールシステムを構築する方法を説明します。  
下記は、DFS Series と FDX-S Series の基本フローです。

### ■ DFS Series の場合

1. 設定するビデオウォールシステムに必要な数のビデオウォールグループを追加します。  
【参照：4.4.1 パターン名の変更 / グループ数の変更 (P.28)】
2. ビデオウォールに割り付ける DFS Series の IP アドレスを一覧に追加します。ネットワーク上に使用する各 DFS Series が存在することを確認してください。  
【参照：4.4.3 DFS Series の IP アドレスの取得 (P.30)】
3. 設定するビデオウォールグループを選択します。  
【参照：4.4.2 設定するビデオウォールグループの変更 (P.29)】
4. ビデオウォールの分割数、ベゼル幅補正の設定をします。  
【参照：4.4.5 ビデオウォールの分割数設定 (P.33)】  
【参照：4.4.6 ベゼル幅補正の設定を行う (P.34)】
5. ビデオウォール上の各画面位置と各 DFS Series の IP アドレスを割り付けします。
6. 割り付けられた各 DFS Series に対して、表示位置や表示サイズ、その他設定を行います。同じ設定を他の DFS Series にも反映する場合は、設定のコピーを行います。  
【参照：4.4.19 位置・サイズ・音声出力の設定を行う (P. 67)】  
【参照：4.4.21 その他 DFS Series の設定を行う (P. 72)】  
【参照：4.4.22 DFS Series の設定のコピー (P. 93)】
7. 3 ～ 6 をすべてのビデオウォールグループに行い、ビデオウォールシステムの設定を完了します。

## ■ FDX-S Series の場合

1. 設定するビデオウォールシステムに必要な数のビデオウォールグループを追加します。  
【参照：4.4.1 パターン名の変更 / グループ数の変更 (P.28) 】
2. FDX-S Series との接続を確認します。接続が確立されていない場合、ネットワーク上に使用する FDX-S Series が存在することを確認して、接続を行ってください。  
【参照：4.4.4 FDX-S Series との接続 (P.31) 】
3. 設定するビデオウォールグループを選択します。  
【参照：4.4.2 設定するビデオウォールグループの変更 (P.29) 】
4. ビデオウォールの分割数、ベゼル幅補正の設定をします。  
【参照：4.4.5 ビデオウォールの分割数設定 (P.33) 】  
【参照：4.4.6 ベゼル幅補正の設定を行う (P.34) 】
5. ビデオウォール上の各画面位置と各出力チャンネルを割り付けします。  
【参照：4.4.9 ビデオウォール上の画面と出力チャンネルの割り付け (P. 42) 】
6. 表示位置や表示サイズの設定を行います。  
【参照：4.4.19 位置・サイズ・音声出力の設定を行う (P. 67) 】
7. 3 ～ 6 をすべてのビデオウォールグループに行い、ビデオウォールシステムの設定を完了します。

[表 4.9] 機種ごとの可能な操作

可能な操作	機種	
	DFS Series	FDX-S Series
パターン名の変更 / グループ数の変更 (P.28)	○	○
設定するビデオウォールグループの変更 (P.29)	○	○
DFS Series の IP アドレスの取得 (P.30)	○	×
FDX-S Series との接続 (P.31)	×	○
ビデオウォールの分割数設定 (P.33)	○	○
ベゼル幅補正の設定を行う (P.34)	○	○
ベゼル幅補正の設定のコピー (P.38)	○	○
ビデオウォール上の画面と IP アドレスの割り付け (P.39)	○	×
ビデオウォール上の画面と出力チャンネルの割り付け (P.42)	×	○
ディスプレイを縦に配置してビデオウォールを設定する (P.45)	○	×
ビデオウォールのディスプレイに単画面表示する (P.45)	○	○
FDX-S Series の映像同期設定を行う (P.46)	×	○
マルチウィンドウ設定を行う (P.47)	×	○
ビデオウォールにテストパターンを出力する (P.62)	○	×
ビデオウォールの入力映像を設定する (P.62)	×	○
入力映像のアスペクト比の設定を行う (P.62)	○	×
出力映像のアスペクト比の設定を行う (P.63)	○	×
ビデオウォール共通設定を行う (P.64)	×	○
位置・サイズ・音声出力の設定を行う (P.67)	○	△※
ビデオウォールのアスペクトモードを変更する (P.70)	○	○
その他 DFS Series の設定を行う (P.72)	○	×
DFS Series の設定のコピー (P.93)	○	×
IDK 製品のステータスを表示する (P.95)	○	○
ビデオウォールパターンを新規作成する (P.97)	○	○

【記号】○：可能な操作、△：一部可能な操作、×：不可能な操作

※FDX-S Series の場合は、位置・サイズのみ設定可能です。

#### 4.4.1 パターン名の変更 / グループ数の変更

【DFS Series / FDX-S Series 共通】

設定中のビデオウォールパターンに対して、パターン名の変更やビデオウォールグループの追加・削除・グループ名の変更を行います。

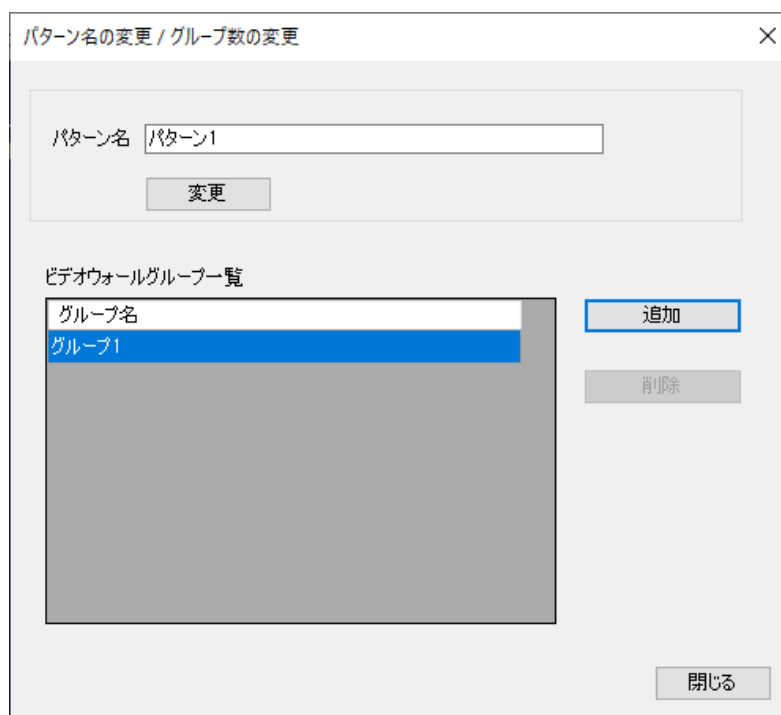
[ビデオウォールパターン] メニュー - [パターン名の変更 / グループ数の変更] を選択することで、編集画面が開きます。

パターン名を変更する場合は、[パターン名] に任意の名前を入力して [変更] ボタンを押してください。

[追加] ボタンをクリックすることで、新規にビデオウォールグループが追加されます。

[削除] ボタンをクリックすることで、選択したビデオウォールグループを削除します。

グループ名を編集する場合は編集するビデオウォールグループのグループ名を選択して、任意の名前を入力してください (最大 30 文字) 。



【図 4.12】 [パターン名の変更 / グループ数の変更] 画面

【参考】 Pattern Editor の初期状態では“グループ 1”が登録されています。

## 4.4.2 設定するビデオウォールグループの変更

【DFS Series / FDX-S Series 共通】

設定対象のビデオウォールグループを変更します。

設定対象のビデオウォールグループは、[ビデオウォールグループ] コンボボックスから切り換えることができます。

ビデオウォールグループ: グループ1



ビデオウォールグループ: グループ2

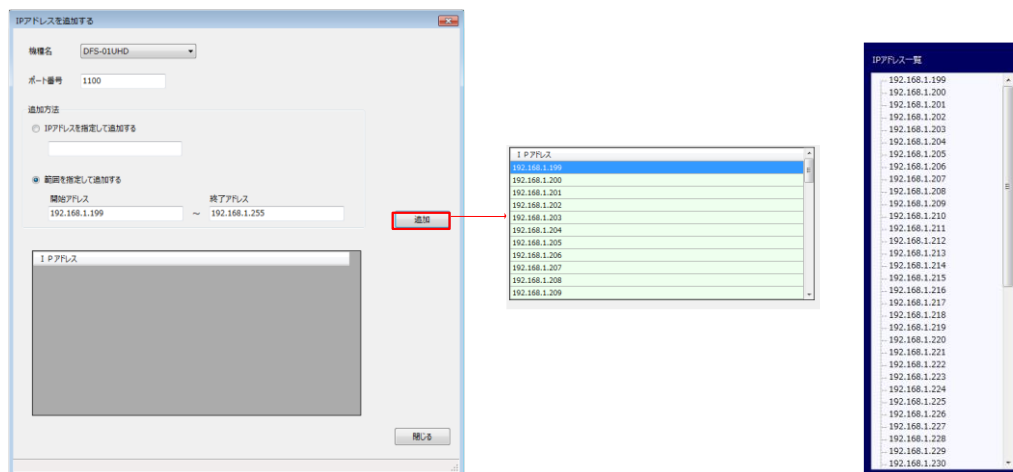


【図 4.13】 設定するビデオウォールグループの変更

### 4.4.3 DFS Series の IP アドレスの取得

#### 【DFS Series 対象】

ビデオウォールに割り付ける DFS Series の IP アドレスを取得し、一覧に追加します。  
メインパネルの [取得] ボタンをクリックし、[IP アドレスを追加する] 画面を開きます。



【図 4.14】DFS Series の IP アドレスの取得

ビデオウォールに使用する DFS Series の機種を [機種名] から選択し、ポート番号を入力してください。  
IP アドレスを個々に追加するときは [IP アドレスを指定して追加する] を選択し、任意の IP アドレスを入力します。

指定する範囲内の IP アドレスを持つネットワーク上の DFS Series を追加するときは、[範囲を指定して追加する] を選択し、[開始アドレス] と [終了アドレス] に入力します。[追加] ボタンをクリックすることでメインパネルの [IP アドレス一覧] に追加されます。

#### 4.4.4 FDX-S Series との接続設定を行う

##### 【FDX-S Series 対象】

接続設定を行います。

この設定により、ビデオウォールを構築する FDX-S Series と Pattern Editor の通信が確立します。

[設定] メニュー - [接続設定] を選択します。設定画面が開きます。

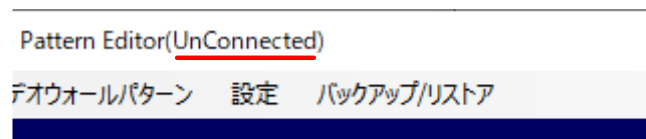
[OK] ボタンをクリックすることで、通信が確立します。



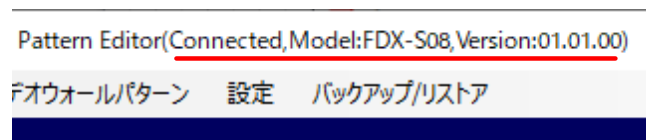
【図 4.15】 接続設定

通信が確立されると、Pattern Editor のタイトルバーに接続先の機種名とファームウェアバージョンが表示されます。

##### ● 通信が確立されていない場合

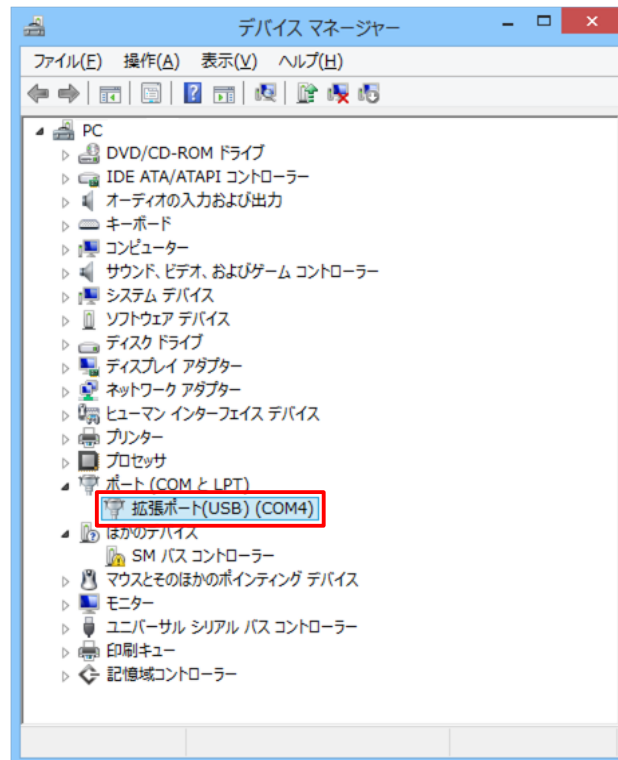


##### ● 通信が確立された場合



【図 4.16】 通信状態

【参考】RS-232C 通信設定のポート番号は、[コントロールパネル] の [デバイスマネージャー] から [ポート] を選択し、ポート番号を確認してから設定してください。



[図 4.17] [デバイスマネージャー]



## 4.4.5 ビデオウォールの分割数設定

【DFS Series / FDX-S Series 共通】

ビデオウォールのディスプレイの面数を設定します。

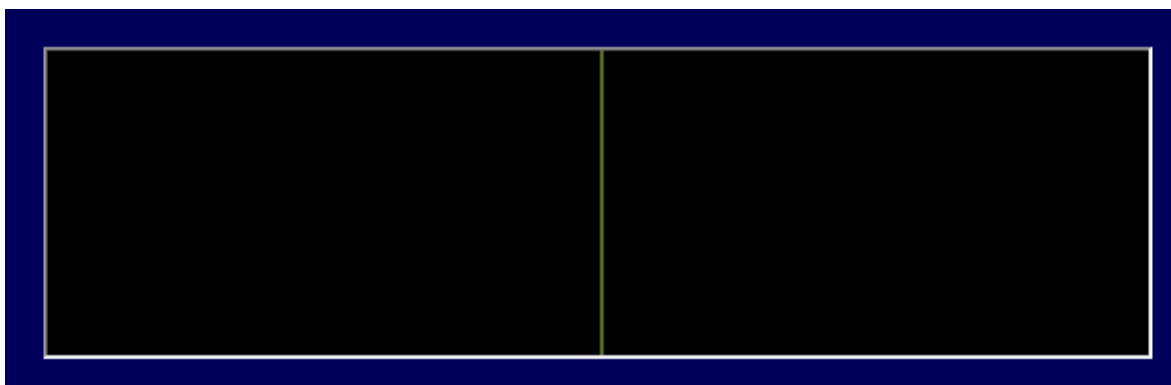
[分割数] を横・縦それぞれ選択することで、[ビデオウォール構成] の表示が変更されます。

分割数:横1、縦1



分割数 横 1 縦 1

分割数:横2、縦1



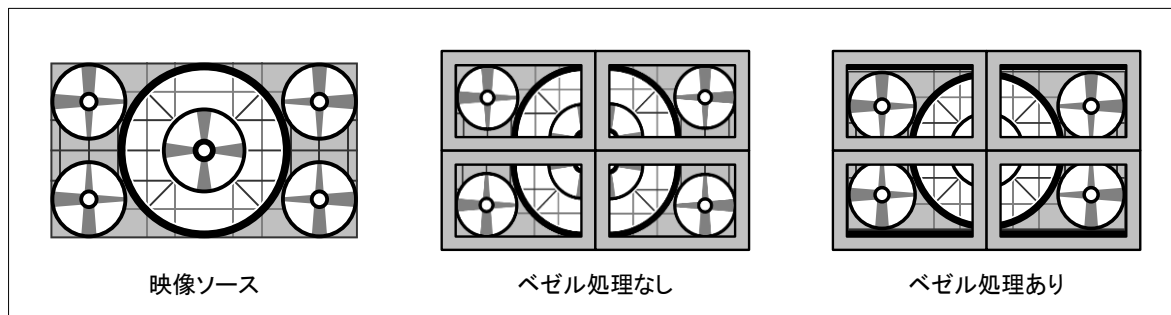
分割数 横 2 縦 1

[図 4.18] ビデオウォールの分割数設定

## 4.4.6 ベゼル幅補正の設定を行う

【DFS Series / FDX-S Series 共通】

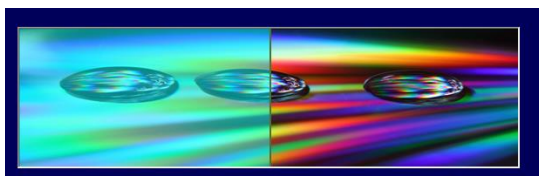
ベゼルや施工上に生ずる隙間などの実測値を設定することで、表示位置や表示サイズを変更したときにベゼル処理に対応した表示ができます。



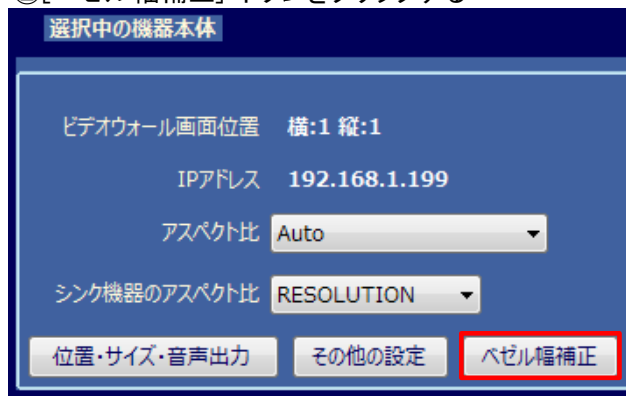
【図 4.19】 ベゼル処理

設定画面を呼び出すには [ビデオウォール構成] の画面位置を選択します。[選択中の機器本体] または [選択中の出力チャンネル] の [ベゼル幅補正] ボタンを押すことで、設定画面が開きます。

### ①設定する画面位置を選択する



### ②[ベゼル幅補正] ボタンをクリックする



### ③[ベゼル幅補正] 設定画面が開く



【図 4.20】 ベゼル幅補正の設定

ベゼル幅補正

☒ ベゼル処理を利用する

ディスプレイの実寸値  
横 550 mm  
縦 550 mm

ディスプレイのベゼル幅  
単位 ☒ dot ☐ mm  
出力解像度 1920x1080p@59

水平方向 10 dot 最大値:96dot  
☒ 左右別々に設定する

左 10 dot 最大値:96dot  
右 10 dot 最大値:96dot

垂直方向 10 line 最大値:54line  
☒ 上下別々に設定する

上 10 line 最大値:54line  
下 10 line 最大値:54line

開じる

[図 4.21] [ベゼル幅補正] 設定画面

[表 4.10] ベゼル幅補正の設定項目 (1/2)

項目	内容	設定範囲
ベゼル処理を利用する	ビデオウォールに対して、ベゼル処理を行うかどうかを選択します。この設定はビデオウォール内の全ディスプレイ共通です。	<input type="checkbox"/> ベゼル処理を利用する ベゼル処理を行わない ※初期値 <input checked="" type="checkbox"/> ベゼル処理を利用する ベゼル処理を行う
ディスプレイの実寸値	ビデオウォールを構築する際に使用するディスプレイの幅を設定します。	横:1 mm ~ 9999 mm 縦:1 mm ~ 9999 mm ※初期値 550 mm
ディスプレイのベゼル幅	ビデオウォールを構築する際に使用するディスプレイのベゼル幅を設定します。 単位を“dot”で選択した場合、ベゼル幅の計算に解像度の指定が必要になります。このディスプレイにIDK製品が実際に出力する解像度を、[出力解像度]で選択してください。	水平方向:1 ~ 99999 (ただし [最大値] の [横] の 5%以下) ※初期値 10 単位:dot、mm 垂直方向:1 ~ 99999 (ただし [最大値] の [縦] の 5%以下) ※初期値 10

[表 4.11] ベゼル幅補正の設定項目 (2/2)

項目	内容	設定範囲
出力解像度 (単位:dot 選択時のみ)	<p>ディスプレイに IDK 製品が実際に出力する映像の解像度を選択します。</p> <p><b>DFS Series の場合</b></p> <p>■ 出力タイミング設定 (P.74) で [出力解像度] に “AUTO” を設定した場合、<b>4.4.23 IDK 製品のステータスを表示する(P.95)</b> で、ディスプレイに実際に DFS Series が出力する解像度を確認してください。</p> <p>■ 出力タイミング設定 (P.74) で [出力解像度] に “AUTO” 以外を設定した場合、この項目でも同一の解像度を選択してください。</p> <p><b>FDX-S Series の場合</b></p> <p><b>ビデオウォール共通設定を行う (P.64)</b> で [出力解像度] に “AUTO” を設定した場合、<b>4.4.23 IDK 製品のステータスを表示する(P.95)</b> から、ディスプレイに FDX-S Series が実際に出力する解像度を確認してください。</p> <p><b>ビデオウォール共通設定を行う (P.64)</b> で [出力解像度] に “AUTO” 以外を設定した場合、この項目でも同一の解像度を選択してください。</p> <p>この設定は、ベゼル幅の計算のために行います。ディスプレイに IDK 製品が実際に出力する映像の解像度を変更するものではありません。</p>	※

※ 出力解像度の設定範囲は以下のとおりです。

#### ■ DFS Series の場合

- ・ 640x480@60                      ・ 1680x1050@60                      ・ 1920x1080p@59
- ・ 800x600@60                      ・ 1920x1080@60                      ・ 2048x1080p@60
- ・ 1024x768@60                      ・ 1920x1200@60                      ・ 3840x2160p@23
- ・ 1280x768@60                      ・ 2048x1152@60                      ・ 3840x2160p@29
- ・ 1280x800@60                      ・ 2560x1440@60                      ・ 3840x2160p@59
- ・ 1280x960@60                      ・ 2560x1600@60                      ・ 4096x2160p@23
- ・ 1280x1024@60                      ・ 1680x1050@60                      ・ 4096x2160p@29
- ・ 1360x768@60                      ・ 720x480p@59                      ・ 4096x2160p@59
- ・ 1366x768@60                      ・ 720x576p@50                      ・ 3840x2160p@25
- ・ 1400x1050@60                      ・ 1280x720p@50                      ・ 3840x2160p@50
- ・ 1440x900@60                      ・ 1280x720p@59                      ・ 4096x2160p@25
- ・ 1600x900@60                      ・ 1920x1080i@50                      ・ 4096x2160p@50
- ・ 1600x1200@60                      ・ 1920x1080i@59
- ・ 1920x1080p@50

※初期値 1080p@59

## ■ FDX-S Series の場合

- ・ 4096x2160p@59
- ・ 4096x2160p@50
- ・ 4096x2160p@29
- ・ 4096x2160p@25
- ・ 4096x2160p@23
- ・ 4096x2160p@23
- ・ 3840x2160p@59
- ・ 3840x2160p@50
- ・ 3840x2160p@29
- ・ 3840x2160p@25
- ・ 3840x2160p@23
- ・ 1920x1080p@59
- ・ 1920x1080p@50
- ・ 1920x1080i@59
- ・ 1920x1080i@50
- ・ 1280x720p@59
- ・ 1280x720p@50
- ・ 720x576p@50
- ・ 720x480p@59
- ・ 2560x1600@60
- ・ 2560x1440@60
- ・ 2048x1152@60
- ・ 1920x1200@60
- ・ 1920x1080@60
- ・ 1680x1050@60
- ・ 1600x1200@60
- ・ 1600x900@60
- ・ 1440x900@60
- ・ 1400x1050@60
- ・ 1366x768@60
- ・ 1360x768@60
- ・ 1280x1024@60
- ・ 1280x960@60
- ・ 1280x800@60
- ・ 1280x768@60
- ・ 1024x768@60
- ・ 640x480@60

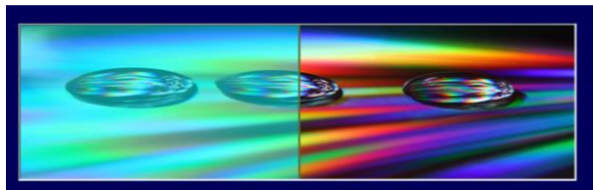
※初期値 1080p@59

## 4.4.7 ベゼル幅補正の設定のコピー

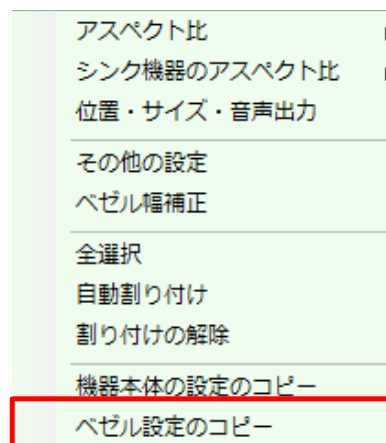
【DFS Series / FDX-S Series 共通】

選択したディスプレイのベゼル幅補正の設定を、ビデオウォール上の他のディスプレイにコピーします。  
[ビデオウォール構成] からコピー元にするディスプレイの画面位置を選択し、右クリックを行います。ショートカットメニューが開くので、[ベゼル設定のコピー] をクリックします。画面が開きます。

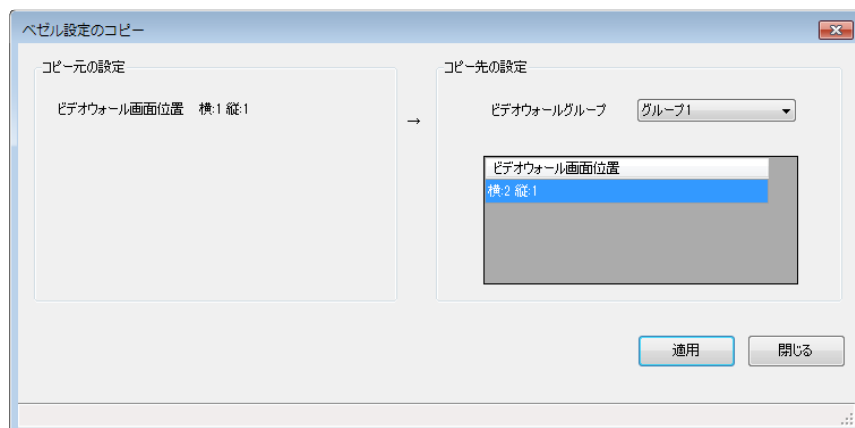
①設定する画面位置を選択する



②右クリックでショートカットメニューを開き、  
[ベゼル設定のコピー] をクリックする



③[ベゼル設定のコピー] 画面が開く



[図 4.22] ベゼル幅補正の設定をコピーする

設定のコピー先となるディスプレイを [ビデオウォール画面位置] から選択して、[適用] ボタンを押してください。[Ctrl] キーを押しながら選択することで、複数のコピー先に設定をコピーすることができます。また、[ビデオウォールグループ] を変更することで、コピー元が割り付けられたものとは異なるビデオウォールグループのディスプレイに対しても、設定をコピーすることができます。

## 4.4.8 ビデオウォール上の画面と IP アドレスの割り付け

### 【DFS Series 対象】

ビデオウォール上の各画面位置と DFS Series の IP アドレスを対応させます。

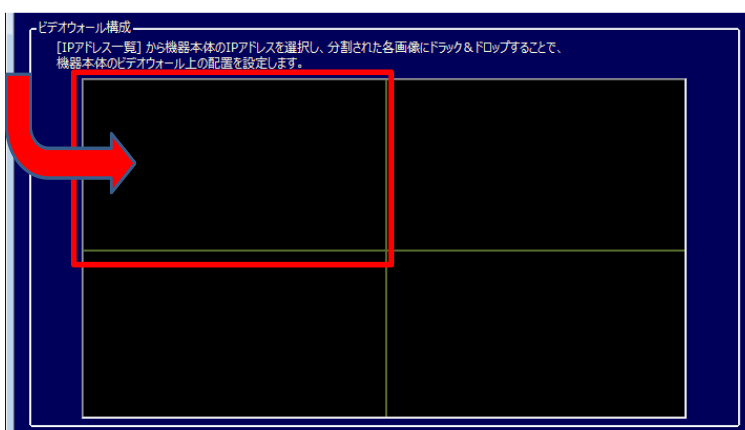
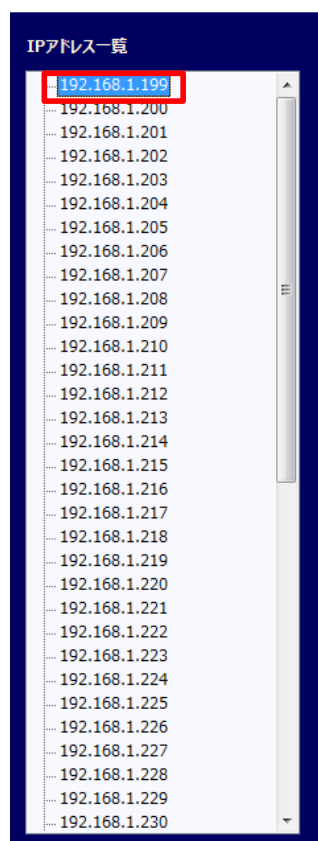
[IP アドレス一覧] からビデオウォールに使用する DFS Series の IP アドレスを選択します。

分割された画像から割り付けたいビデオウォール上の画面位置まで、IP アドレスをドラッグ&ドロップすることで、割り付けが完了します。

割り付け時に指定された IP アドレスの DFS Series には以下の設定が反映されます。

- ・ 4.4.5 ビデオウォールの分割数設定 (P.33) の分割数
- ・ 4.4.8 ビデオウォール上の画面と IP アドレスの割り付け (P.39) のビデオウォール上の画面位置
- ・ 4.4.10 ディスプレイを縦に配置してビデオウォールを設定する (P.45) の回転
- ・ 4.4.11 ビデオウォールのディスプレイに単画面表示する (P.45)
- ・ 4.4.14 ビデオウォールにテストパターンを出力する (P.62) のテストパターン

- ①IPアドレスを選択する      ②IPアドレスを割り付ける画面位置にドラッグ & ドロップする



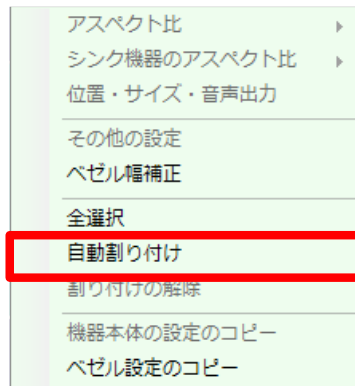
- ②割り付けが完了すると、画面の表示が変更される



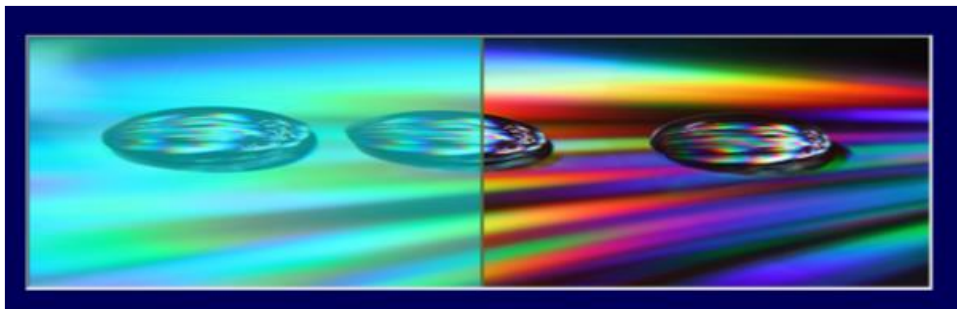
[図 4.23] IP アドレスの割り付け

自動で割り付けを行う場合は、右クリックでショートカットメニューを呼び出して [自動割り付け] をクリックすると、割り付けが完了します。割り付けは、左上を始点に各行左から横方向に行われます。割り付けの順番は、IP アドレス一覧の取得順です。

①右クリックでショートカットメニューを呼び出し、[自動割り付け] をクリックする



②割り付けが完了すると、画面の表示が変更される

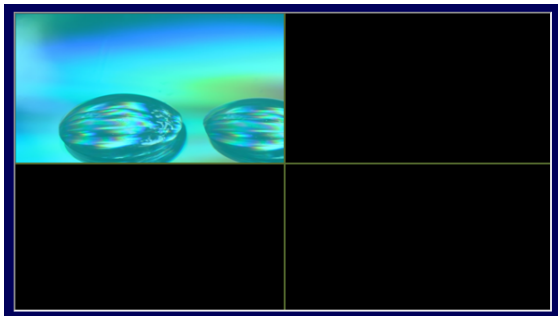


[図 4.24] IP アドレスの自動割り付け

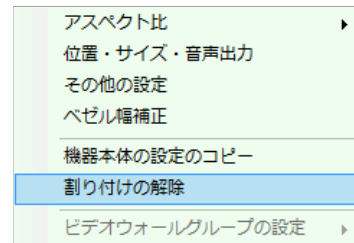


割り付けを解除する場合は、まず解除するビデオウォール上の画面位置を選択します。右クリックでショートカットメニューを呼び出して [割り付けの解除] をクリックすると、解除が完了します。

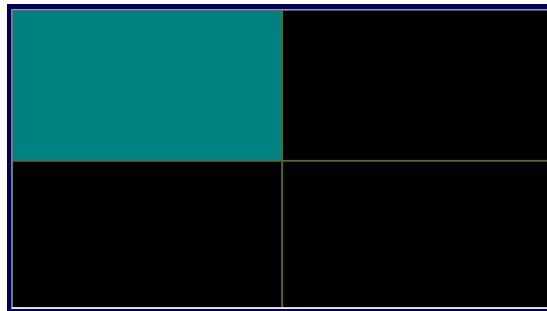
①画面位置を選択する



②右クリックでショートカットメニューを呼び出し、  
[割り付けの解除] をクリックする



③割り付けが解除され、画面の表示が変更される



[図 4.25] IP アドレスの割り付けの解除

映像信号の表示位置と表示サイズはそのビデオウォールにおける原点と出力解像度の 100 % に設定されます。既に表示位置や表示サイズの設定を行ったビデオウォールに対して割り付けを行うとき、[割り付け時、位置とサイズを変更しない] にチェックを入れて割り付けを行うことで、表示位置や表示サイズの変更は無効となります。

☒ 割り付け時、位置とサイズを変更しない

[図 4.26] 表示位置や表示サイズの変更を防止する

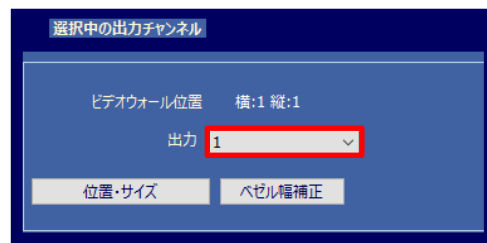
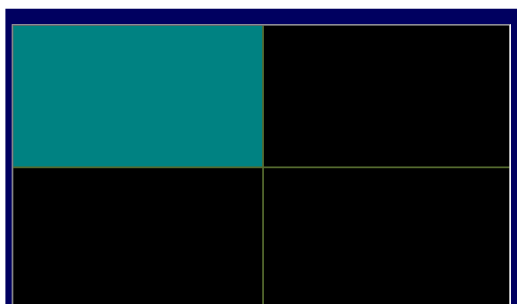
## 4.4.9 ビデオウォール上の画面と出力チャンネルの割り付け

【FDX-S Series 対象】

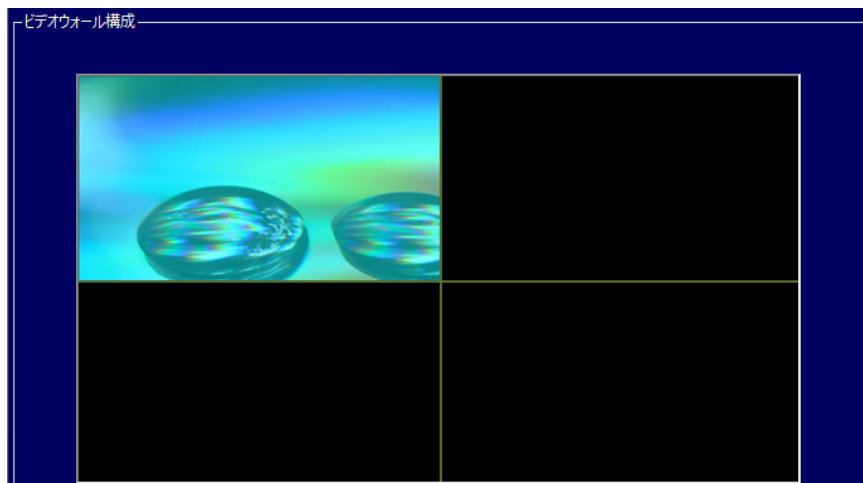
ビデオウォール上の各画面位置と FDX-S Series の出力チャンネルを対応させます。  
割り付け時に指定された出力チャンネルは以下の設定が反映されます。

- ・ 4.4.5 ビデオウォールの分割数設定 (P.33) の分割数
- ・ 4.4.9 ビデオウォール上の画面と出力チャンネルの割り付け (P.39) のビデオウォール上の画面位置
- ・ 4.4.11 ビデオウォールのディスプレイに単画面表示する (P.45)
- ・ 4.4.15 ビデオウォールの入力映像を設定する (P.62) の入力チャンネル
- ・ 4.4.18 ビデオウォール共通設定を行う (P.64) の出力解像度、アスペクト比、テストパターン、バックカラー、出力コントラスト、出力ブライトネス、出力ガンマ

①出力チャンネルを割り付ける画面位置を選択する      ②出力チャンネルを選択する



③割り付けが完了すると、画面の表示が変更される



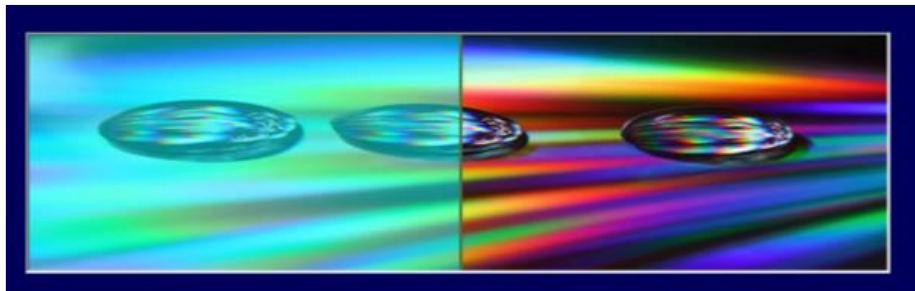
[図 4.27] 出力チャンネルの割り付け

自動で割り付けを行う場合は、右クリックでショートカットメニューを呼び出して [自動割り付け] をクリックすると、割り付けが完了します。割り付けは、左上を始点に各行左から横方向に行われます。割り付けの順番は、IP アドレス一覧の取得順です。

- ① 右クリックでショートカットメニューを呼び出し、[自動割り付け] をクリックする



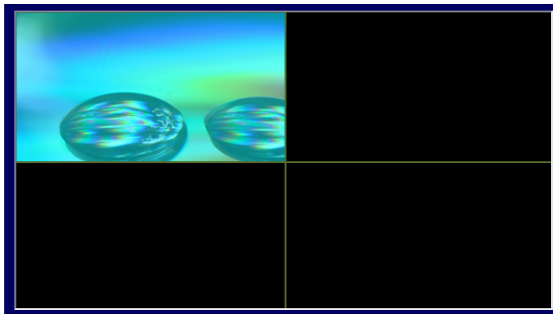
- ② 割り付けが完了すると、画面の表示が変更される



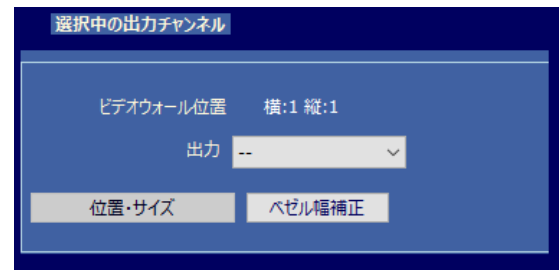
[図 4.28] IP アドレスの自動割り付け

割り付けを解除する場合は、まず解除するビデオウォール上の画面位置を選択します。[選択中の出力チャンネル] の [出力] で “--” を選択すると、解除が完了します。

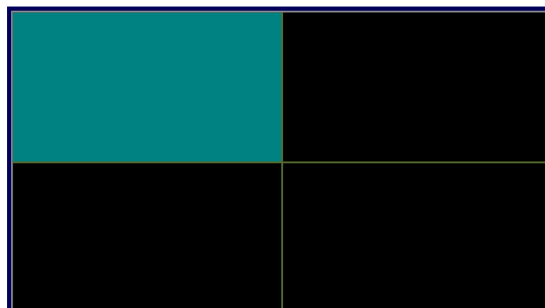
①画面位置を選択する



②出力チャンネルで “--” を選択する



③割り付けが解除され、画面の表示が変更される



[図 4.29] IP アドレスの割り付けの解除

映像信号の表示位置と表示サイズはそのビデオウォールにおける原点と出力解像度の 100 %に設定されます。既に表示位置や表示サイズの設定を行ったビデオウォールに対して割り付けを行うとき、[割り付け時、位置とサイズを変更しない] にチェックを入れて割り付けを行うことで、表示位置や表示サイズの変更は無効となります。



[図 4.30] 表示位置や表示サイズの変更を防止する

#### 4.4.10 ディスプレイを縦に配置してビデオウォールを設定する

【DFS Series 対象】

ディスプレイを縦方向に配置してビデオウォールを構築する場合に使用します。

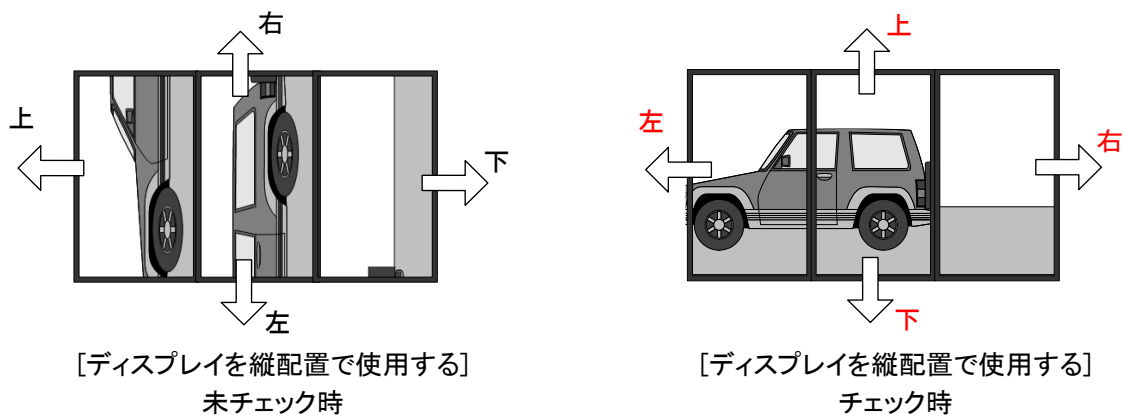
[ディスプレイを縦配置で使用する] にチェックを入れることで、映像が時計回りに 90° 回転します。

また、構築したビデオウォールに合わせて、映像を移動することができます。

【参照：4.4.19 位置・サイズ・音声出力の設定を行う (P.67)】

☒ ディスプレイを縦配置で使用する

[図 4.31] ディスプレイを縦配置で使用する



[図 4.32] [ディスプレイを縦配置で使用する]による映像表示と移動方向の補正

#### 4.4.11 ビデオウォールのディスプレイに単画面表示する

【DFS Series / FDX-S Series 共通】

ビデオウォールのディスプレイから 1×1 の映像を表示する場合に使用します。

通常、Pattern Editor でビデオウォールを構築した場合、4.4.5 ビデオウォールの分割数設定 (P.33) で設定された分割数によって映像を移動・拡大して表示します。

##### ■ DFS Series の場合

[ディスプレイごとに異なる映像を出力する] にチェックを入れることで、映像を移動・拡大せず出力することができます。

##### ■ FDX-S Series の場合

[単画面表示する] にチェックを入れることで、映像を移動・拡大せず出力することができます。

☒ ディスプレイごとに異なる映像を出力する

☐ 単画面表示する

[図 4.33] ディスプレイごとに異なる映像を出力する (DFS Series) / 単画面表示する (FDX-S Series)

## 4.4.12 FDX-S Series の映像同期設定を行う

### 【FDX-S Series 対象】

FDX-S Series の映像同期処理の有無やビデオウォールの構築に必要な出力映像の基準同期信号と、スロットボードの動作を設定します。

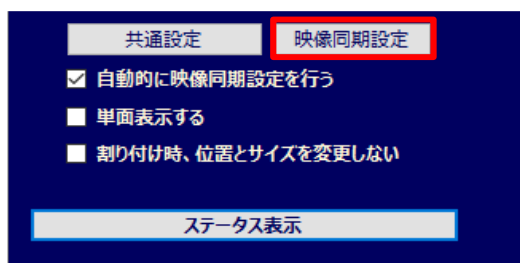
[自動的に映像同期設定を行う] にチェックを入れることで構築したビデオウォールから自動で映像同期設定を行います。

☒ 自動的に映像同期設定を行う

[図 4.34] 自動的に映像同期設定を行う

任意の映像同期設定を行う場合は、設定画面から行います。[映像同期設定] ボタンをクリックすることで、設定画面が開きます。

#### ①[映像同期設定] ボタンをクリックする



#### ②[映像同期設定] 画面が開く



[図 4.35] 映像同期設定

## 4.4.13 マルチウィンドウ設定を行う

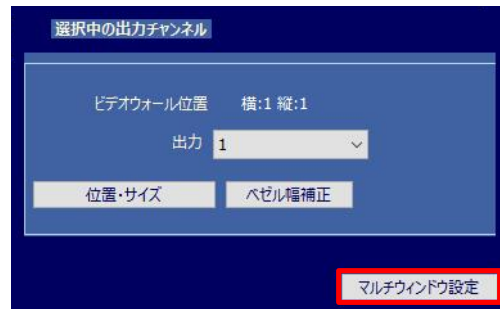
【FDX-S Series 対象】

マルチウィンドウに関する設定をします。

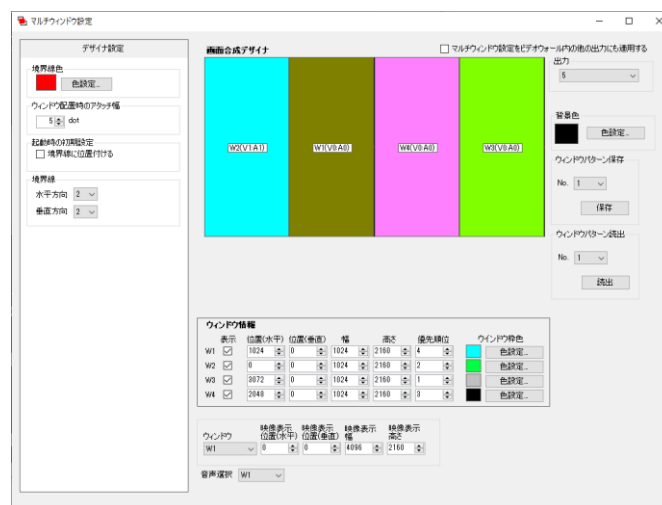
4K@60 対応スキャンコンバータ画面合成出力スロットボードでは最大 4 入力の映像信号を 1 画面に合成し表示することが可能です。

合成出力は、最大 4 つの合成ウィンドウにより構成されます。

①[マルチウィンドウ設定] ボタンをクリックする



②[マルチウィンドウ設定] 画面が開く

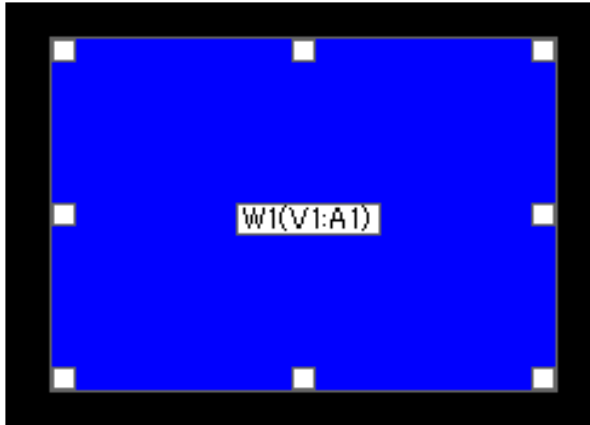


[図 4.36] [マルチウィンドウ設定] 画面

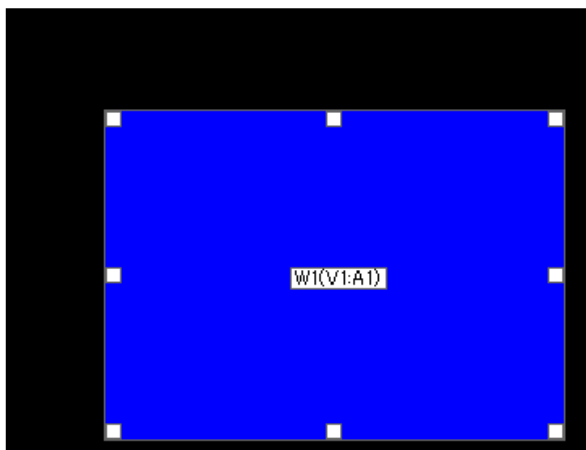
## ■ 画面合成デザイナー

例) ウィンドウ 1 の表示位置を変更する

手順 1 : ウィンドウ 1 (=W1) を選択します。W1 と表示されたラベルのある四角形の領域がウィンドウ 1 です。

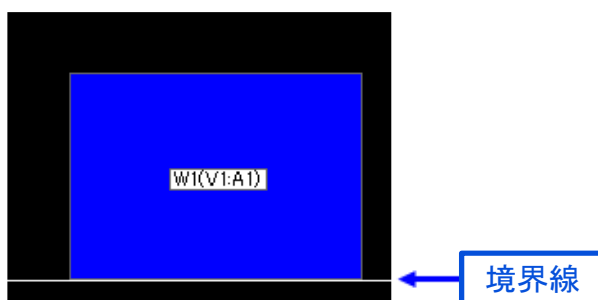


手順 2 : 左クリックしたままウィンドウをドラッグして移動します。



例) ウィンドウ 1 を境界線に位置付ける

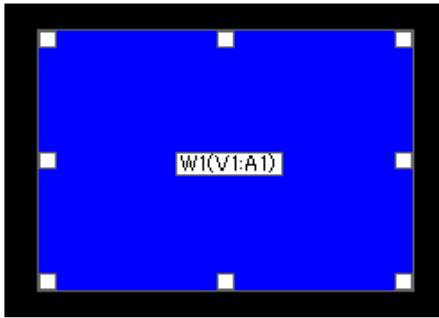
境界線の付近にウィンドウを配置します。ウィンドウ 1 の境界線側の端が境界線と重なるようにウィンドウ 1 の位置が修正されます。



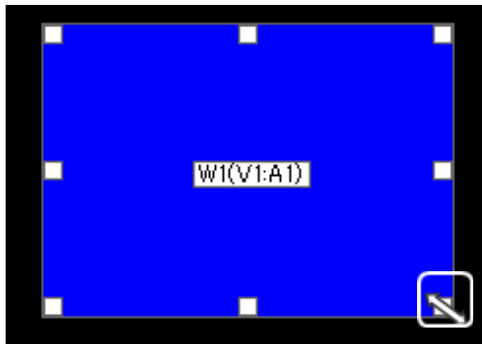


例) ウィンドウ 1 の表示サイズを変更する

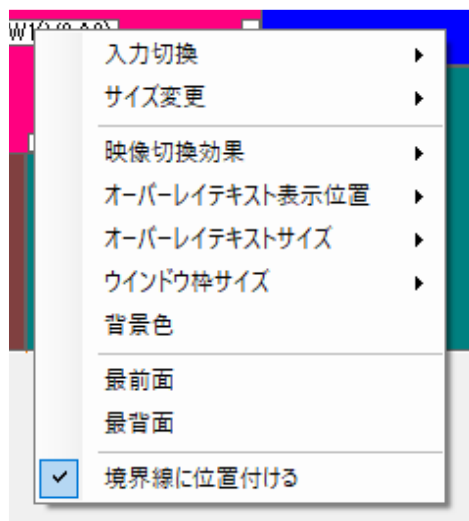
手順 1 : ウィンドウ 1 をクリックします。



手順 2 : 白い四角形を左クリックしたままドラッグすると、ウィンドウ 1 の表示サイズが変更できます。左上・右上・左下・右下方向へのサイズ変更は、縦横比が維持されます。



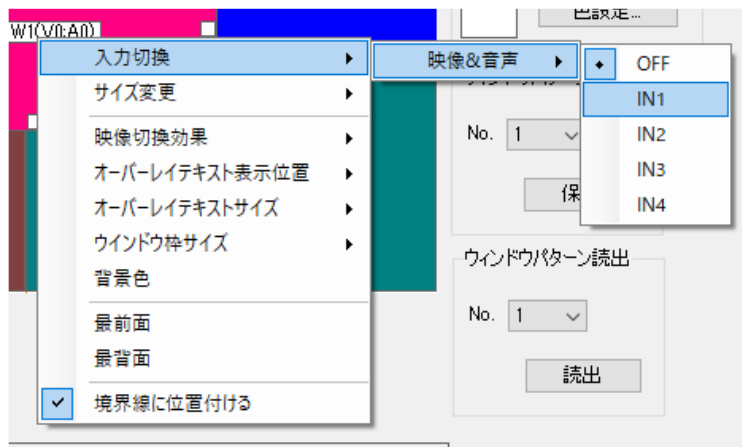
ウィンドウを選択し右クリックすると、プルダウンメニューが表示されます。



入力切換	ウィンドウの映像・音声の入力を切り換えます。 合成画面の音声の切り換えは、本体側で行ってください。
サイズ変更	ウィンドウの表示サイズを変更します。
映像切換効果	映像入力チャンネルを切り換えるときのウィンドウ画面の切換効果（フェード）を設定します。
オーバーレイテキスト表示位置	ウィンドウに表示するオーバーレイテキストの位置の表示 / 非表示を設定します。
オーバーレイテキストサイズ	ウィンドウに表示するオーバーレイテキストのサイズを設定します。
ウィンドウ枠サイズ	各ウィンドウ枠の幅を設定します。上下左右同じ幅でウィンドウの外側に表示されます。
背景色	映像表示位置と映像表示サイズを設定したときに出力される出力映像の背景色を設定します。
最前面	選択したウィンドウを最前面に表示させます。
最背面	選択したウィンドウを最背面に表示させます。
境界線に位置付ける	境界線の近くにウィンドウがある場合、ウィンドウの位置を境界線に合わせて配置します。設定を変更する場合は再度クリックしてください。 (チェックあり：境界線に位置付ける、チェックなし：境界線に位置付けしない)

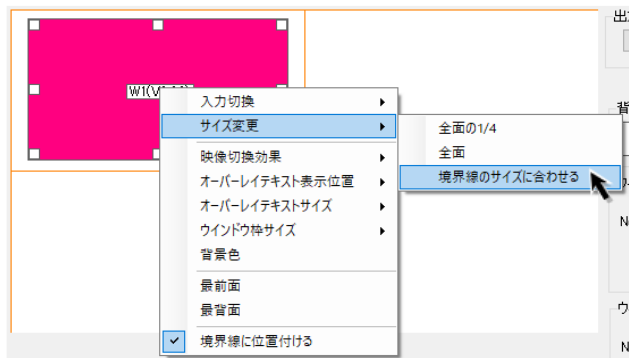
例) ウィンドウ 1 の映像・音声出力に入力 1 を選択する

ウィンドウ 1 を選択し、右クリックしてプルダウンメニューで“入力切換”→“映像&音声”→“入力 1”を選択します。ウィンドウ 1 の入力チャンネルが入力 1 になります。



例) ウィンドウ 1 の表示を境界線のサイズに合わせる

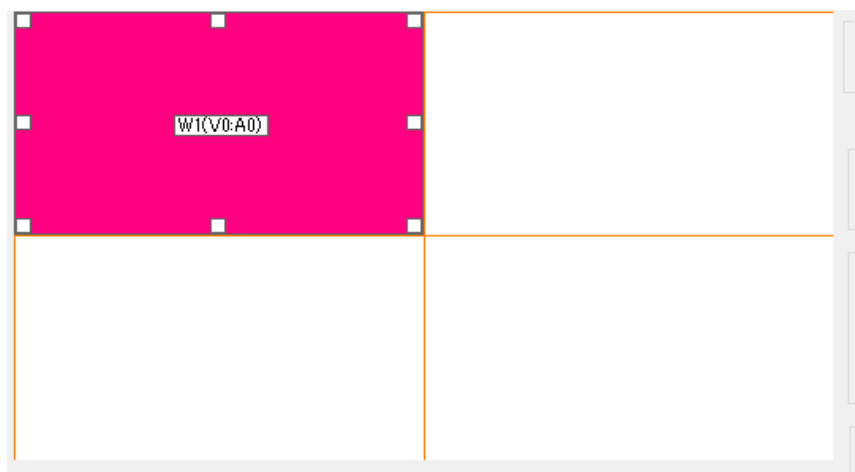
手順 1: ウィンドウ 1 を選択し、右クリックしてプルダウンメニューで“サイズ変更” → “境界線のサイズに合わせる”を選択します。



### ●サイズ変更

全面の 1/4	全体の 1/4 の画面サイズに変更する。
全面	全体の画面サイズに変更する。
境界線のサイズに合わせる	現在のウィンドウを囲む境界線のサイズに合わせる。

手順 2: 境界線に合わせてサイズ変更されます。



※ウィンドウは境界線の内側に配置してください。境界線上にウィンドウを配置している場合（その境界線を含む）境界線の外側の境界線に合わせてウィンドウサイズが変更されてしまう場合があります。ご注意ください。

例) ウィンドウ 1 を最前面 (最背面) に表示する

ウィンドウ 1 を選択し、右クリックしてプルダウンメニューで“最前面”(“最背面”)を選択します。

ウィンドウ 1 が最前面 (最背面) に表示されます。



## ■ ウィンドウ情報

ウィンドウ情報には、現在の各ウィンドウの座標位置 (水平、垂直) / サイズ (幅、高さ)、優先順位が表示されます。

ウィンドウ情報							ウィンドウ枠色	
	表示	位置(水平)	位置(垂直)	幅	高さ	優先順位		
W1	<input checked="" type="checkbox"/>	0	0	960	540	1		色設定...
W2	<input checked="" type="checkbox"/>	965	5	960	537	2		色設定...
W3	<input checked="" type="checkbox"/>	0	542	960	537	4		色設定...
W4	<input checked="" type="checkbox"/>	960	540	960	540	3		色設定...

↑ ①
↑ ②
↑ ③
↑ ④
↑ ⑤
↑ ⑥
↑ ⑦
↑ ⑧

- |           |   |
|-----------|---|
| ① W1 ~ W4 | ウィンドウ番号 (W1 : ウィンドウ 1、W2 : ウィンドウ 2、W3 : ウィンドウ 3、W4 : ウィンドウ 4) |
| ② 表示      | ウィンドウの表示状態を設定します。(チェックあり : 表示、チェックなし : 非表示)                   |
| ③ 位置 (水平) | ウィンドウの水平位置を設定します。   |
| ④ 位置 (垂直) | ウィンドウの垂直位置を設定します。   |
| ⑤ 幅       | ウィンドウの水平サイズを設定します。  |
| ⑥ 高さ      | ウィンドウの垂直サイズを設定します。  |
| ⑦ 優先順位    | ウィンドウ表示の順番を設定します。<br>数値が低いウィンドウから前面に表示されます。                   |
| ⑧ ウィンドウ枠色 | ウィンドウ枠の色を設定します。   |

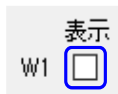
---

【注意】本ソフトウェアで設定した座標位置やサイズと、実際に出力される映像とで 1 dot 異なることがあります。Web ブラウザから実際に出力される映像の座標位置やサイズを確認することができます。

---

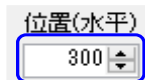
例) ウィンドウ 1 を非表示にする

ウィンドウを非表示にする場合は、“表示”のチェックを外します。ウィンドウを表示する場合は再度“表示”をチェックしてください。



例) ウィンドウ 1 の位置 (水平) を 300 dot にする

ウィンドウ 1 の位置 (水平) に“300”と入力します。



例) ウィンドウ 2 の優先順位を 1 (最前面) にする

ウィンドウ 2 の優先順位に“1”と入力します。

ウィンドウ情報							ウィンドウ枠色	
	表示	位置(水平)	位置(垂直)	幅	高さ	優先順位		色設定...
W1	<input checked="" type="checkbox"/>	588	58	1251	700	2		色設定...
W2	<input checked="" type="checkbox"/>	965	5	960	537	1		色設定...
W3	<input checked="" type="checkbox"/>	0	542	960	537	3		色設定...
W4	<input checked="" type="checkbox"/>	960	540	960	540	4		色設定...

## ■ 映像表示位置・サイズ

ウインドウ内の映像の位置やサイズを設定します。

- |               |   |
|---------------|---|
| ① ウィンドウ       | ウインドウ番号 (W1 : ウインドウ 1、W2 : ウインドウ 2、W3 : ウインドウ 3、W4 : ウインドウ 4) |
| ② 映像表示位置 (水平) | ウインドウ内の映像の水平位置を設定します。   |
| ③ 映像表示位置 (垂直) | ウインドウ内の映像の垂直位置を設定します。   |
| ④ 映像表示幅       | ウインドウ内の映像の水平サイズを設定します。  |
| ⑤ 映像表示高さ      | ウインドウ内の映像の垂直サイズを設定します。  |

例) ウインドウ 1 の映像表示位置 (水平) を 300 dot にする  
ウインドウで “W1” を選択して、映像表示位置 (水平) に “300” と入力します。

---

【注意】本ソフトウェアで設定した映像の位置やサイズと、実際に出力される映像とで 1 dot 異なることがあります。Web ブラウザから実際に出力される映像の座標位置やサイズを確認することができます。

---



**■ 音声選択**

4K@60 対応スキャンコンバータ画面合成出力スロットボードから出力する音声を選択します。

音声選択 W4 ▼

例) 出力する音声をウインドウ 1 の音声にする  
“W1” を選択します。

音声選択 W1 ▼

---

【注意】この設定は、オーディオエンベデッドで“DIGITAL”を選択した場合、有効に機能します。  
FDX-S Series のフロントパネルまたは Web ブラウザからご確認ください。

---

## ■ 背景色

例) 画面合成時の背景色を変更する

手順 1 : 背景色の“色設定”をクリックします。

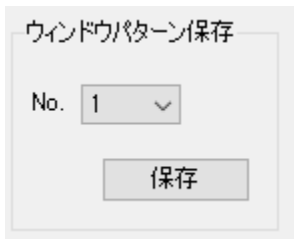


手順 2 : 色の設定が表示されます。変更したい色を選択し、“OK”をクリックしてください。



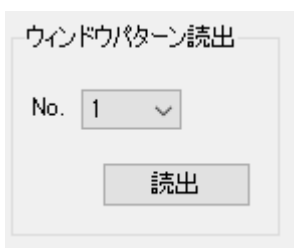
## ■ ウィンドウパターン保存

現在のウィンドウパターン設定をマルチウィンドウメモリに保存します。


 ウィンドウパターン保存ダイアログボックス。No. 1 が選択された状態で「保存」ボタンが表示されています。

## ■ ウィンドウパターン読込

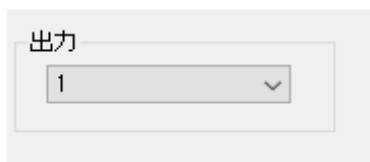
マルチウィンドウメモリに保存されている設定を読み出します。


 ウィンドウパターン読込ダイアログボックス。No. 1 が選択された状態で「読出」ボタンが表示されています。

## ■ 出力

例) [画面合成デザイナー] で設定する出力を出力 1 に変更する

出力 1 を選択します。[画面合成デザイナー] の表示が出力 1 の画面合成の設定に変更されます。


 出力設定ダイアログボックス。出力 1 が選択された状態で「1」が表示されています。

## ■ マルチウィンドウ設定+ビデオウォール

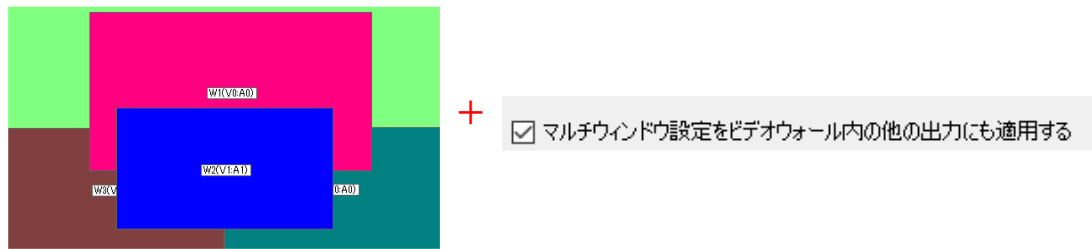
ビデオウォールに合成出力を行う場合、「マルチウィンドウ設定をビデオウォール内の他の出力にも適用する」にチェックを入れます。

**4.4.9 ビデオウォール上の画面と出力チャンネルの割り付け (P.39)** で同一のビデオウォール上に割り付けられた出力チャンネルに設定を適用します。

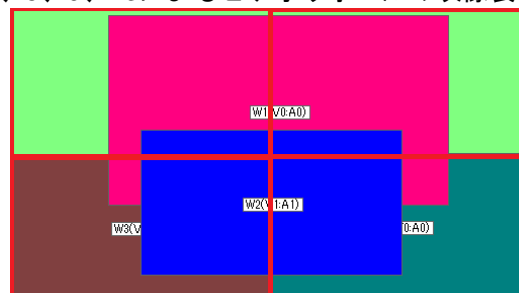
☒ マルチウィンドウ設定をビデオウォール内の他の出力にも適用する

(例) 4K@60対応スキャンコンバータ画面合成出力スロットボード4枚 (出力1、5、9、13)  
使用によるビデオウォールの設定

出力1に設定したマルチウィンドウ設定



出力1、5、9、13によるビデオウォールの映像表示 (2×2)



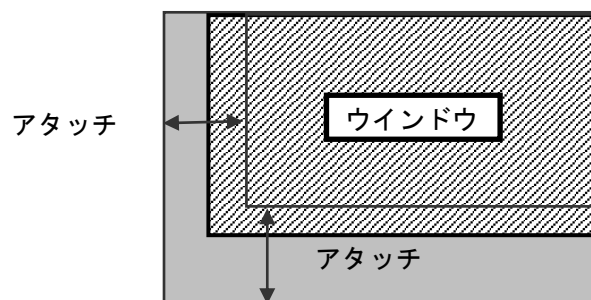
## ■ デザイン設定

### ① 境界線色

境界線の色を設定します。

### ② ウィンドウ配置時のアタッチ幅

ウィンドウを位置付ける時の幅を設定します。



### ③ 境界線に位置付ける

アタッチ幅にウィンドウの表示位置が含まれる場合、境界線にウィンドウを位置付けます。

ウィンドウレイアウトのとき、境界線および隣接するウィンドウにウィンドウを位置付けます。

(チェックあり：境界線に位置付ける、チェックなし：境界線に位置付けない)

### ④ 境界線

境界線の分割数を設定します。

#### 4.4.14 ビデオウォールにテストパターンを出力する

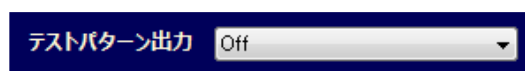
【DFS Series 対象】

ビデオウォールへのテストパターン出力を変更します。

設定項目は、■ **出力タイミング設定 (P.74)** の [テストパターン出力] と同様です。

OUTPUT FRAME のテストパターンは、ビデオウォール構築用のテストパターンです。OUTPUT FRAME は以下の設定と連動します。

- ・ 4.4.5 ビデオウォールの分割数設定 (P.33) の分割数
- ・ 4.4.8 ビデオウォール上の画面と IP アドレスの割り付け (P.39) のビデオウォール上の画面位置
- ・ 4.4.19 位置・サイズ・音声出力の設定を行う (P.67) の映像の位置とサイズ



[図 4.37] [テストパターン出力]

#### 4.4.15 ビデオウォールの入力映像を設定する

【FDX-S Series 対象】

ビデオウォールへ出力する映像の入力チャンネルを変更します。



[図 4.38] [入力]

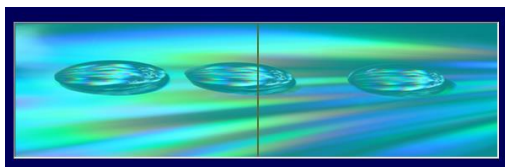
#### 4.4.16 入力映像のアスペクト比の設定を行う

【DFS Series 対象】

入力映像のアスペクト比を設定します。

[Ctrl] キーを押した状態で [ビデオウォール構成] から複数の画面位置を選択することで、同時に設定を変更することができます。

- ① 設定するDFS Seriesが割り付けられた画面位置を選択する



- ② [アスペクト比] を変更する



[図 4.39] 入力映像のアスペクト比の設定

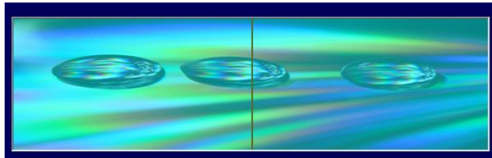
#### 4.4.17 出力映像のアスペクト比の設定を行う

##### 【DFS Series 対象】

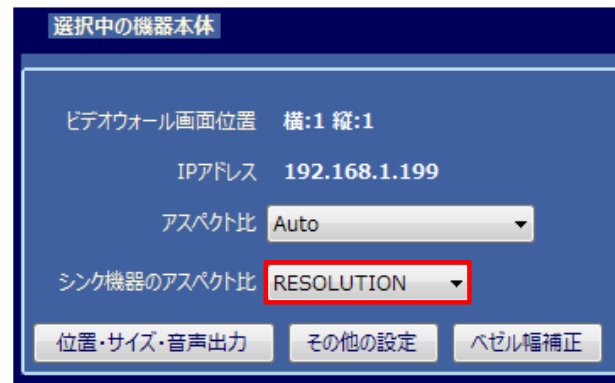
出力映像のアスペクト比を設定します。

[Ctrl] キーを押した状態で [ビデオウォール構成] から複数の画面位置を選択することで、同時に設定を変更することができます。

- ①設定するDFS Seriesが割り付けられた画面位置を選択する



- ②[シンク機器のアスペクト比] を変更する



[図 4.40] 出力映像のアスペクト比の設定

## 4.4.18 ビデオウォール共通設定を行う

【FDX-S Series 対象】

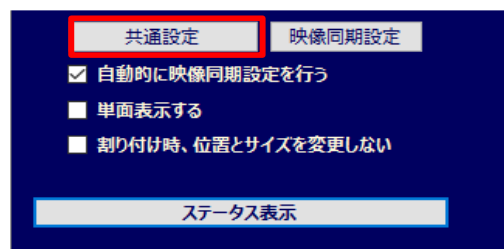
ビデオウォールのグループに割り付けられた出力チャンネルの設定を、一括または個別で行います。

[出力] で“ALL”が選択されている場合、一括で設定を行います。個別の出力チャンネルに設定を行う場合は、[出力] で対象となる出力チャンネルを設定してください。

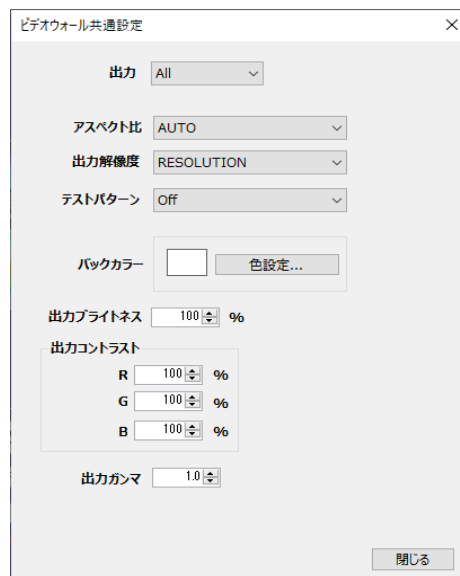
設定可能な項目は、アスペクト比、出力解像度、テストパターン、バックカラー、出力コントラスト、出力ブライトネスおよび出力ガンマです。

【参照：4.4.1 パターン名の変更 / グループ数の変更 (P.28)】

①[共通設定] ボタンをクリックする



②[ビデオウォール共通設定] 画面が開く



【図 4.41】 ビデオウォール共通設定



[表 4.12] ビデオウォール共通設定の設定項目

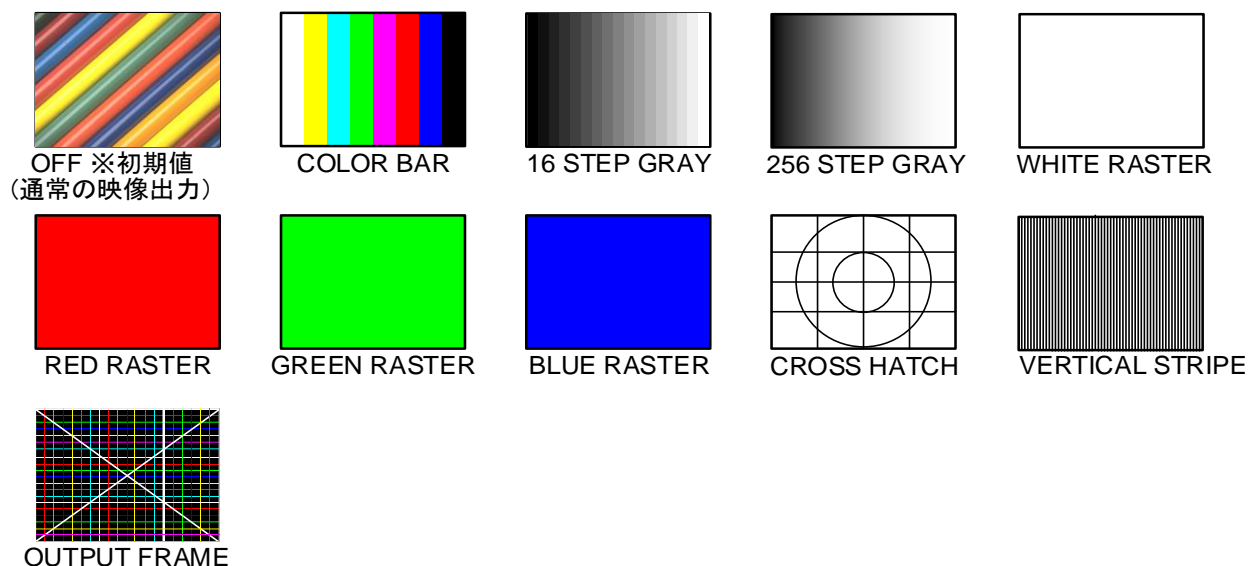
項目	内容	設定範囲
アスペクト比	接続するシンク機器のアスペクト比を設定します。	RESOLUTION ※初期値 4:3 5:3 5:4 16:9 16:10 256:135
出力解像度	出力解像度を設定します。	※1
テストパターン	映像出力に、テストパターンを出力します。	※2
バックカラー	映像信号が未入力の際の出力映像の背景色、映像余白部分の背景色を設定します。	黒※初期値 ~ 白
出力コントラスト	出力映像の明暗比 (%) を調整します。	R:0 % ~ 200 % G:0 % ~ 200 % B:0 % ~ 200 % ※すべて初期値 100 %
出力ブライトネス	出力映像の明るさを調整します。	80 % ~ 120 % ※初期値 100 %
出力ガンマ	シンク機器に合わせて出力映像をガンマ補正します。	0.1 ~ 3.0 (0.1 単位) ※初期値 1.0

※1 出力解像度の設定範囲は以下のとおりです。

- |                 |                 |                |                |
|-----------------|-----------------|----------------|----------------|
| ・ 4096x2160p@59 | ・ 1920x1080p@59 | ・ 2560x1440@60 | ・ 1360x768@60  |
| ・ 4096x2160p@50 | ・ 1920x1080p@50 | ・ 2560x1600@60 | ・ 1280x1024@60 |
| ・ 4096x2160p@29 | ・ 1920x1080i@59 | ・ 2048x1152@60 | ・ 1280x960@60  |
| ・ 4096x2160p@25 | ・ 1920x1080i@50 | ・ 1920x1200@60 | ・ 1280x800@60  |
| ・ 4096x2160p@23 | ・ 1280x720p@59  | ・ 1920x1080@60 | ・ 1280x768@60  |
| ・ 3840x2160p@59 | ・ 1280x720p@50  | ・ 1680x1050@60 | ・ 1024x768@60  |
| ・ 3840x2160p@50 | ・ 720x576p@50   | ・ 1600x1200@60 | ・ 640x480@60   |
| ・ 3840x2160p@29 | ・ 720x480p@59   | ・ 1600x900@60  |                |
| ・ 3840x2160p@25 |                 | ・ 1440x900@60  |                |
| ・ 3840x2160p@23 |                 | ・ 1400x1050@60 |                |
|                 |                 | ・ 1366x768@60  |                |

※初期値 1080p@59

※2 テストパターンは下記の 11 種類です。



[図 4.42] テストパターン

## 4.4.19 位置・サイズ・音声出力の設定を行う

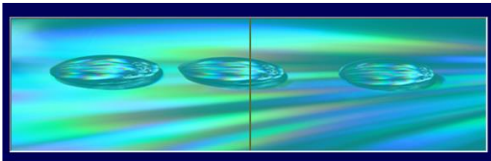
【DFS Series / FDX-S Series 分岐】

入力映像の表示位置や表示サイズ、音声の出力レベルを設定します。

[Ctrl] キーを押した状態で [ビデオウォール構成] から複数の画面位置を選択することで、同時に設定を変更することができます。

### ■ DFS Series の設定

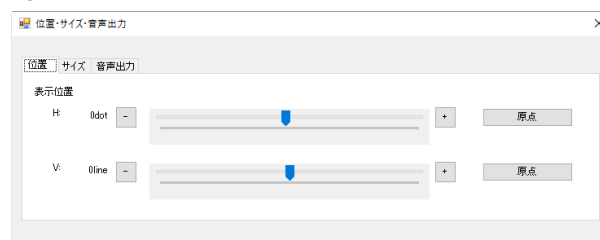
- ①設定するDFS Seriesが割り付けられた画面位置を選択する



- ②[位置・サイズ・音声出力] ボタンをクリックする



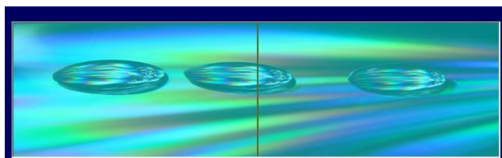
- ③[位置・サイズ・音声出力] 設定画面が開く



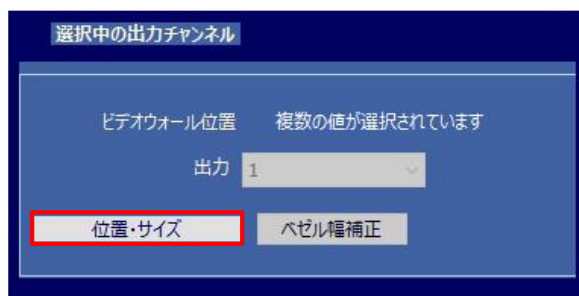
[図 4.43] 位置・サイズ・音声出力の設定 (DFS Series)

## ■ FDX-S Series の設定

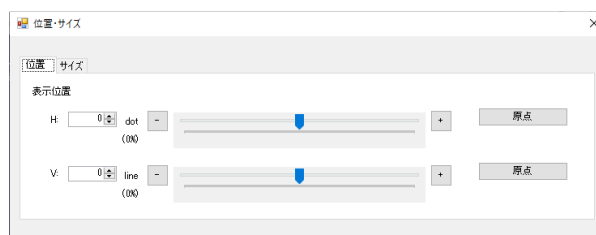
- ①設定するFDX-S Seriesの出力チャンネルが割り付けられている画面位置を選択する。



- ②[位置・サイズ] ボタンをクリックする



- ③[位置・サイズ] 設定画面を開く



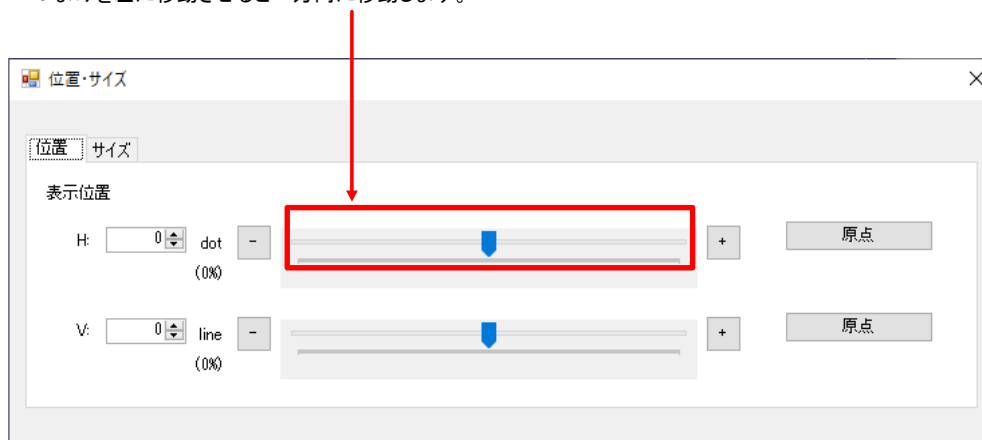
[図 4.44] 位置・サイズの設定 (FDX-S Series)

## ■ 表示位置

入力映像信号を移動します。

[H] をプラス (+) の値に設定すると出力映像は右に、[V] をプラス (+) の値に設定すると下に移動します。つまみの移動により、出力映像の表示位置が変化します。微調整する場合は [+] ボタン、[-] ボタンを使用します。これにより、出力解像度の 0.1 % (ファームウェア Ver.1.05 以降の FDX-S Series は 0.01 %) 単位で移動させることができます。[+] ボタン、[-] ボタンを押し続けると、出力映像を設定方向に移動し続けます。[原点に戻る] ボタンをクリックすると、値が [0 dot]、[0 line] に設定されます。FDX-S Series の dot、line の値は直接入力することもできます。設定範囲は [H]、[V] とともに出力解像度の -2000.0 % ~ 2000.0 % (ファームウェア Ver.1.05 以降の FDX-S Series は -2000.00 % ~ 2000.00 %) です。

つまみを右に移動させると出力映像は+方向に移動します。  
つまみを左に移動させると-方向に移動します。



[図 4.45] [位置] 設定画面

## ■ 表示サイズ

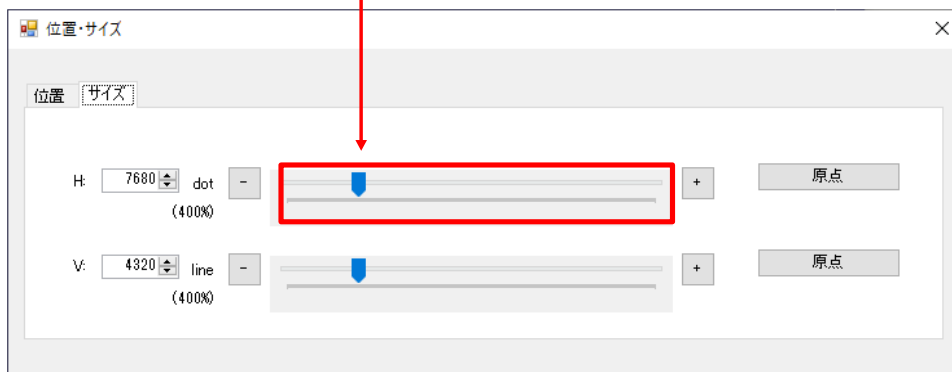
入力映像信号の左上を基準に出力映像を拡大 / 縮小します。

[H] をプラス (+) の値に設定すると拡大、[V] をプラス (+) の値に設定すると縮小します。

つまみの移動により、出力映像の表示サイズが変化します。微調整する場合は [+] ボタン、[-] ボタンを使用します。これにより、出力解像度の 0.1 % (ファームウェア Ver.1.05 以降の FDX-S Series は 0.01 %) 単位で表示サイズを変化させることができます。[+] ボタン、[-] ボタンを押し続けると、出力映像を拡大 / 縮小し続けます。[原点に戻る] ボタンをクリックすると、値が出力解像度の大きさに設定されます。

FDX-S Series の dot、line の値は直接入力することもできます。設定範囲は [H]、[V] とともに出力解像度の 20.0 % ~ 2000.0 % (ファームウェア Ver.1.05 以降の FDX-S Series は 20.00 % ~ 2000.00 %) です。

つまみを右に移動させると出力映像を拡大します。  
つまみを左に移動させると縮小します。



[図 4.46] [サイズ] 設定画面

## ■ 音声出力

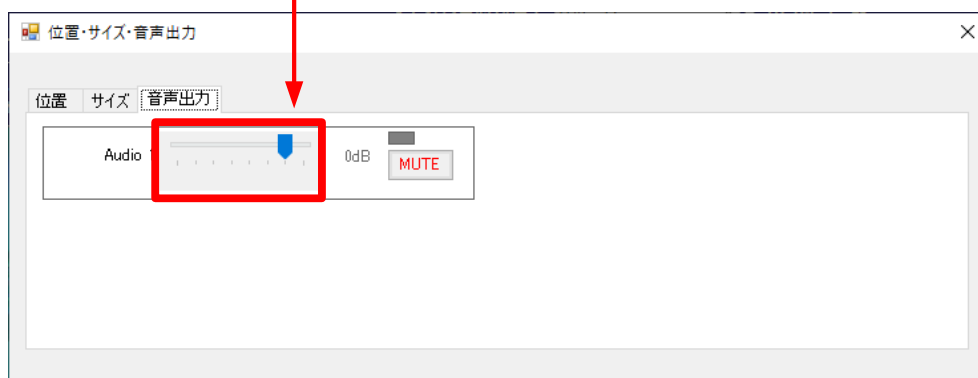
音声出力レベル、音声出力ミュートの ON / OFF を設定します。

つまみの移動により、音声出力レベルが変化します。設定範囲は -60 dB ~ 10 dB です。

[MUTE] ボタンをクリックすることで、音声出力ミュートの ON / OFF が切り換わります。

つまみを右に移動させると音声出力レベルが上がります。  
つまみを左に移動させると音声出力レベルが下がります。

ミュート (オン状態): 赤色表示

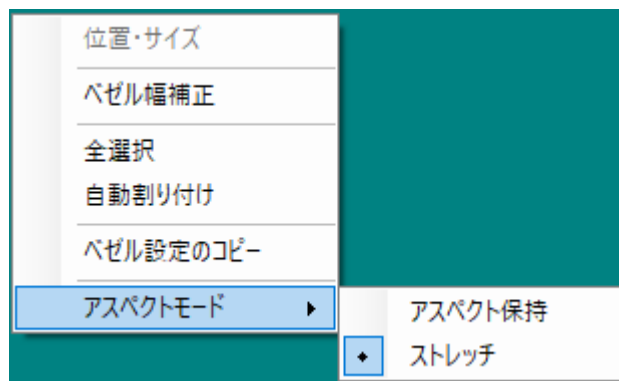


[図 4.47] [音声出力] 設定画面

#### 4.4.20 ビデオウォールのアスペクトモードを変更する

【DFS Series / FDX-S Series 共通】

ビデオウォールに出力する映像のアスペクトモードを変更します。  
アスペクトモードは、ビデオウォールグループごとに設定を行います。  
右クリックでショートカットメニューを開くことで、[アスペクトモード] から設定を変更することができます。



【図 4.48】アスペクトモード

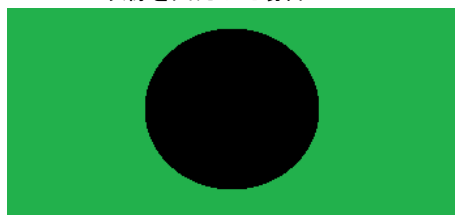
【参考】ビデオウォールグループの初期状態では、アスペクトモードは“ストレッチ”に設定されています。

ビデオウォールに出力する映像は、1×1 の出力映像を拡大したものです。  
アスペクトモードが“ストレッチ”の場合、4.4.5 ビデオウォールの分割数設定 (P.33) の分割数に応じて横・縦それぞれ映像を拡大して、ビデオウォールに出力します。

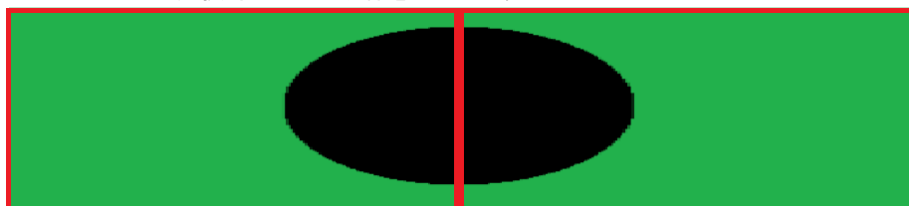
例：分割数を横 2・縦 1 に設定した場合

1×1 の出力映像に対して、横 200 %・縦 100 %に映像は拡大されます。

1×1で映像を出力した場合



“ストレッチ”選択時に2×1で映像を出力した場合



【図 4.49】アスペクトモードが“ストレッチ”の場合のビデオウォールの映像出力

アスペクトモードが“アスペクト保持”の場合、まず **4.4.5 ビデオウォールの分割数設定 (P.33)** の分割数の小さい方の数に応じて映像を拡大します。そして、1×1 の出力映像とアスペクト比が一致するようにサイズを調整して、映像をビデオウォールに出力します。

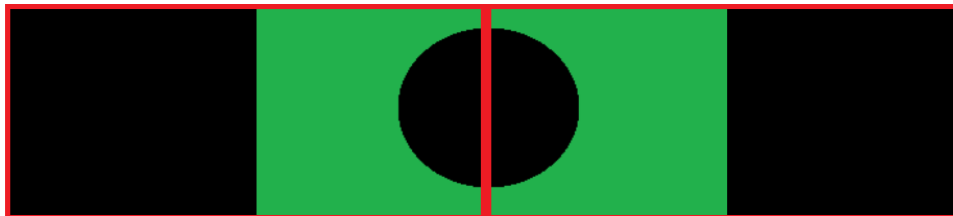
例：分割数を横 2・縦 1 に設定した場合

1×1 の出力映像に対して、映像は 100 % で表示されます。

1×1で映像を出力した場合



“アスペクト保持”選択時に2×1で映像を出力した場合



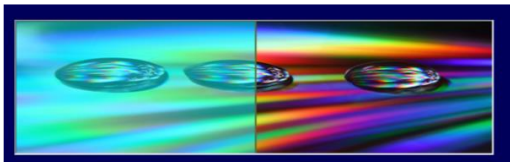
[図 4.50] アスペクトモードが“アスペクト保持”の場合のビデオウォールの映像出力

## 4.4.21 その他 DFS Series の設定を行う

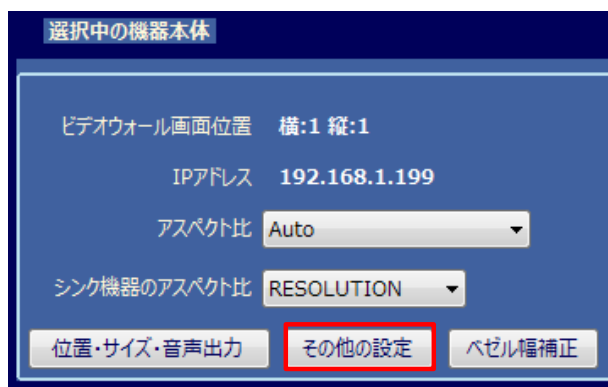
### 【DFS Series 対象】

DFS Series の各種設定を行います。設定画面を呼び出すには [ビデオウォール構成] の画面位置を選択します。[選択中の機器本体] の [その他の設定] ボタンを押すことで、設定画面が開きます。

①設定するDFS Seriesが割り付けられた画面位置を選択する



②[その他の設定] ボタンをクリックする



③[設定] 設定画面が開く



【図 4.51】 その他の設定



画面左のメニュー一覧の選択されているメニューを変更することで、設定対象となる項目を変更することができます。

設定画面を開いた直後は、“OUTPUT TIMING”が選択されています。

**[表 4.13] ツリーのノード名と選択時の設定画面**



メニュー名	選択時の設定画面
OUTPUT TIMING	出力タイミング設定
OUTPUT SETTING	出力設定
INPUT TIMING	入力タイミング設定
INPUT SETTING	入力設定
VIDEO WALL	ビデオウォール設定
AUDIO	音声設定
EDID	EDID 設定
PRESET MEMORY	プリセットメモリ設定
OTHERS	その他設定

## ■ 出力タイミング設定



[図 4.52] 出力タイミング設定の設定画面

[表 4.14] 出力タイミング設定の設定項目

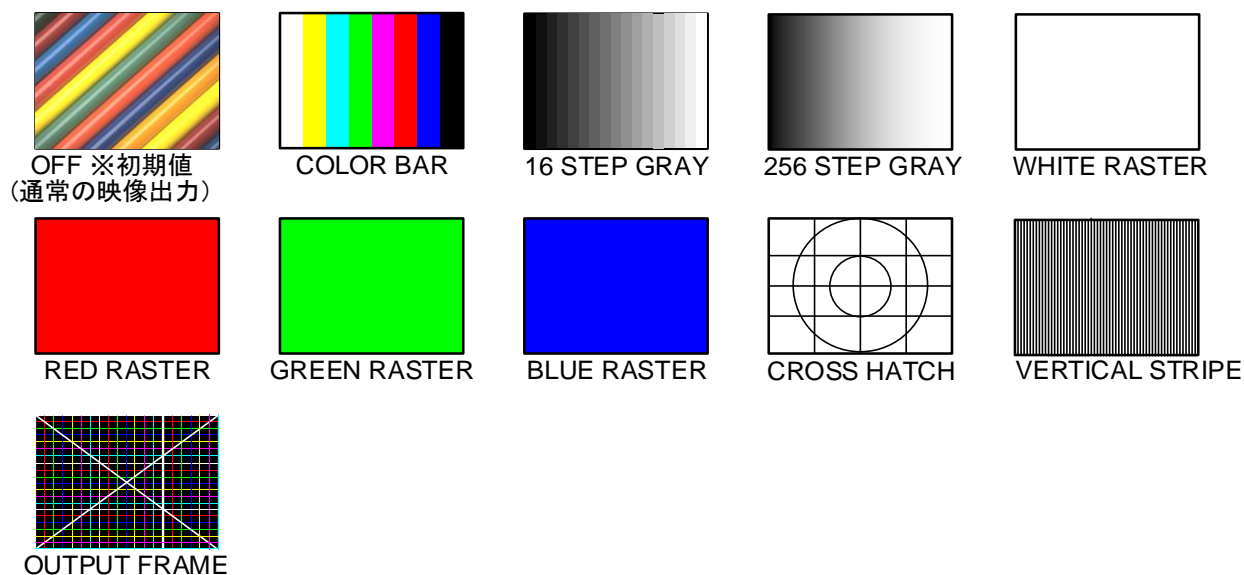
項目	内容	設定範囲
出力解像度	出力解像度を設定します。	※1
シンク機器アスペクト	接続するシンク機器のアスペクト比を設定します。	RESOLUTION ※初期値 4:3 5:3 5:4 16:9 16:10 256:135
テストパターン出力	映像出力に、テストパターンを出力します。	※2
回転	映像信号の回転を設定します。	0°※初期値 90° 180° 270°
反転	映像を左右反転します。	 反転なし ※初期値  反転あり
ブランクカラー	映像信号が未入力の際の出力映像の背景色を設定します。	黒※初期値 ～ 白
バックカラー	映像余白部分の背景色を設定します。	黒※初期値 ～ 白
コントラスト調整値	出力映像の明暗比 (%) を調整します。	R:0 % ～ 200 % G:0 % ～ 200 % B:0 % ～ 200 % ※すべて初期値 100 %
ブライトネス調整値	出力映像の明るさを調整します。	80 % ～ 120 % ※初期値 100 %

※1 出力解像度の設定範囲は以下のとおりです。

- ・ AUTO
- ・ 640x480@60
- ・ 800x600@60
- ・ 1024x768@60
- ・ 1280x768@60
- ・ 1280x800@60
- ・ 1280x960@60
- ・ 1280x1024@60
- ・ 1360x768@60
- ・ 1366x768@60
- ・ 1400x1050@60
- ・ 1440x900@60
- ・ 1600x900@60
- ・ 1600x1200@60
- ・ 1680x1050@60
- ・ 1920x1080@60
- ・ 1920x1200@60
- ・ 2048x1152@60
- ・ 2560x1440@60
- ・ 2560x1600@60
- ・ 720x480p@59
- ・ 720x576p@50
- ・ 1280x720p@50
- ・ 1280x720p@59
- ・ 1920x1080i@50
- ・ 1920x1080i@59
- ・ 1920x1080p@50
- ・ 1920x1080p@59
- ・ 2048x1080p@60
- ・ 3840x2160p@23
- ・ 3840x2160p@29
- ・ 3840x2160p@59
- ・ 4096x2160p@23
- ・ 4096x2160p@29
- ・ 4096x2160p@59
- ・ 3840x2160p@25
- ・ 3840x2160p@50
- ・ 4096x2160p@25
- ・ 4096x2160p@50

※初期値 1080p@59

※2 テストパターンは下記の 11 種類です。



[図 4.53] テストパターン

## ■ 出力設定

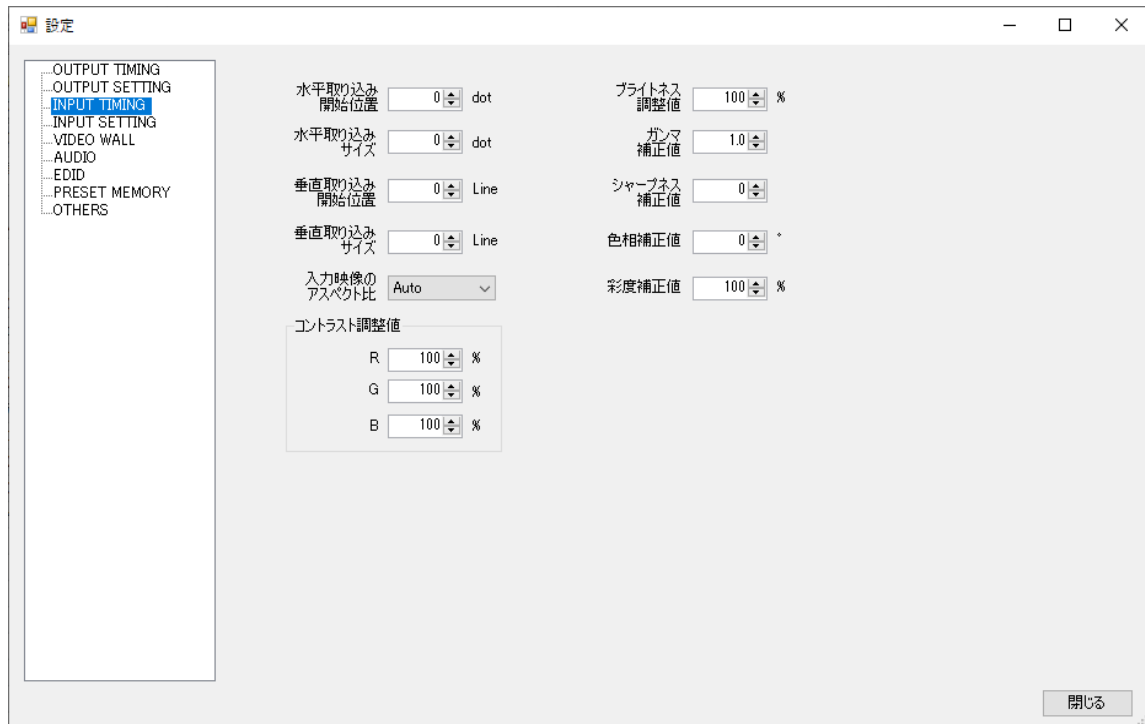


[図 4.54] 出力設定の設定画面

[表 4.15] 出力タイミングの設定項目

項目	内容	設定範囲
出力モード	出力する映像の色空間とモードを選択します。	HDMI RGB※初期値 DVI HDMI 422 HDMI 444 HDMI 420 ※※  ※※ DFS-01UHD のみ設定可能です。
シンク機器 EDID チェック	シンク機器 EDID のチェック方法を設定します。	OFF※初期値 ERROR1 ALWAYS1 ERROR2※※ ALWAYS2※※  ※※ DFS-01UHD のみ設定可能です。
HDCP 出力	HDCP に対応したシンク機器が接続されたときの、HDCP 出力を設定します。	AUTO※初期値 INPUT ONLY
ホットプラグ オフマスク	シンク機器から送られてくる映像出力要求信号を無視する時間を設定します。	OFF※初期値 2 秒 ~ 15 秒
Deep Color	HDMI 信号の色深度を選択します。	24Bit ※初期値 30Bit

## ■ 入力タイミング設定



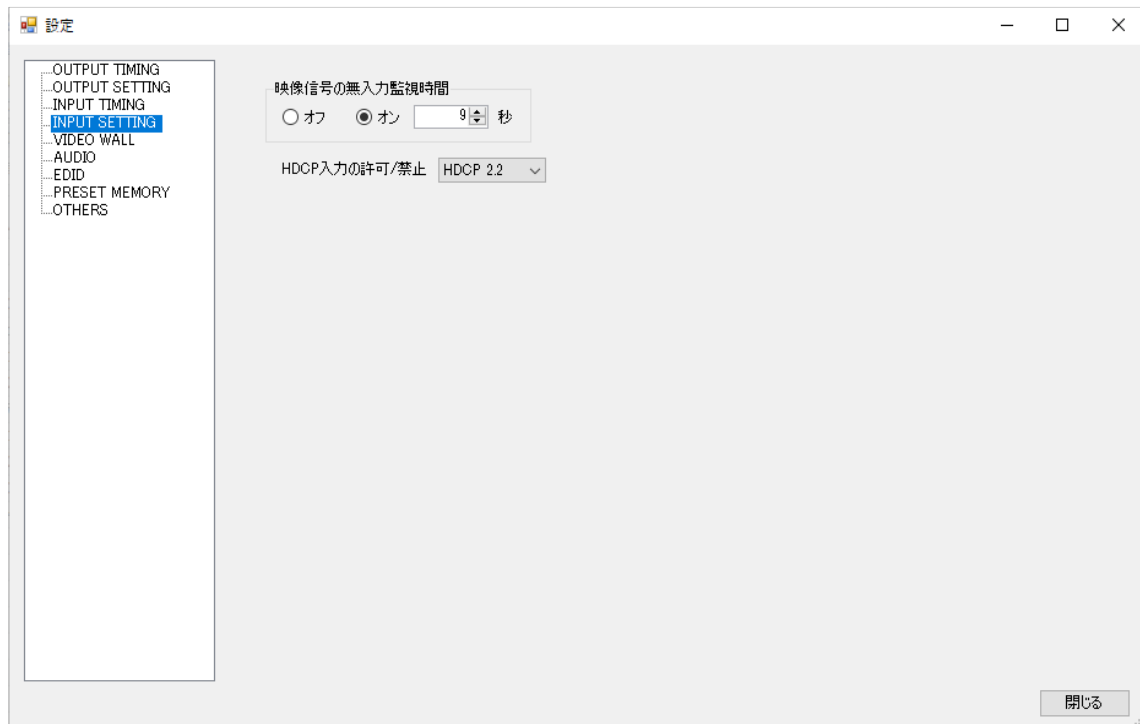
[図 4.55] 入力タイミング設定の設定画面

[表 4.16] 入力タイミング設定の設定項目

項目	内容	設定範囲
取り込み開始位置	入力映像の水平 / 垂直の取り込み開始位置を設定します。	水平取り込み開始位置: -100 DOT ~ 100 DOT ※初期値 0 DOT 垂直取り込み開始位置: -30 LINE ~ 30 LINE ※初期値 0 LINE
取り込みサイズ	入力映像の水平 / 垂直の取り込みサイズを設定します。	水平取り込みサイズ: -100 DOT ~ 100 DOT ※初期値 0 DOT 垂直取り込みサイズ: -30 LINE ~ 30 LINE ※初期値 0 LINE
アスペクト比	入力映像のアスペクト比を設定します。	AUTO ※ 初期値 5:4 FULL 16:9 4:3 16:10 5:3 16:9 LETTER BOX
シャープネス	入力映像のシャープネスを設定します。 マイナス値に設定すると輪郭がソフトな映像となります。プラス値に設定すると輪郭がシャープな映像となります。	-5 ~ 15 ※初期値 0
コントラスト	入力映像の明暗比 (%) を調整します。	R:0 % ~ 200 % G:0 % ~ 200 % B:0 % ~ 200 % ※すべて初期値 100 %
ブライトネス	入力映像の明るさを調整します。	80 % ~ 120 % ※初期値 100 %
色相	入力映像の色相を調整します。	0° ~ 359° ※初期値 0°
彩度	入力映像の彩度を調整します。	0 % ~ 200 % ※初期値 100%
ガンマ	入力映像のガンマを調整します。 設定数値を小さくすると黒の階調があがり、暗くなったように感じます。設定数値を大きくすると白の階調があがり、白っぽくなったように感じます。 ブライトネスの設定と異なり、ガンマ補正では白レベルと黒レベルは変化せず、中間調が変化します。	0.1 ~ 3.0 ※初期値 1.0



## ■ 入力設定

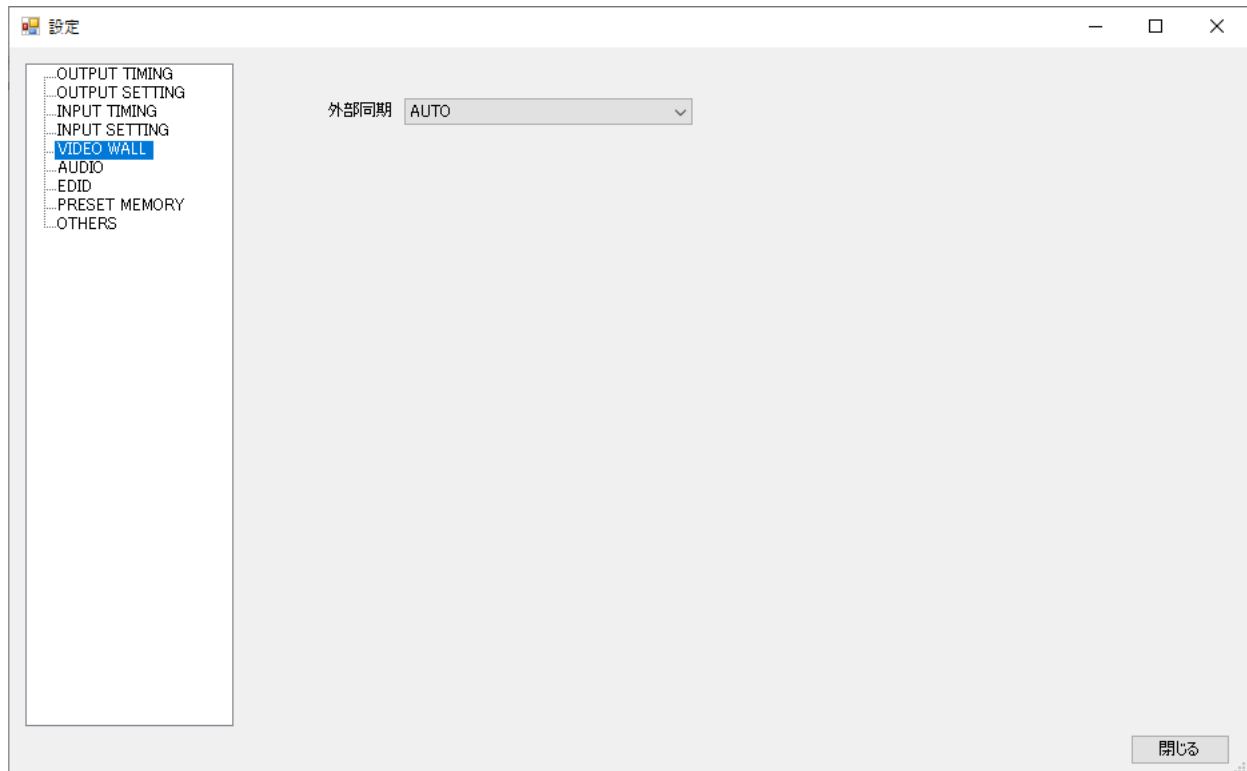


[図 4.56] 入力設定の設定画面

[表 4.17] 入力設定の設定項目

項目	内容	設定範囲
映像信号の無入力監視時間	DFS Series の EDID 設定の変更や電源の ON / OFF を行った場合、ソース機器は映像信号を出力しないことがあります。 このとき、ソース機器に映像信号の出力を要求するまでの時間を設定します。	OFF 3 秒 ~ 15 秒 ※初期値 10 秒
HDCP 入力の許可/禁止	一部のソース機器は、接続されるシンク機器が HDCP に対応しているかどうかを判断し、HDCP 出力の ON / OFF を決定します。 DFS Series は HDCP に対応しているため、HDCP に対応していないシンク機器を接続した場合、映像が表示されないときがあります。このような場合、ソース機器に対して HDCP 出力を禁止する設定をすると、映像が表示されます。	HDCP 2.2※※ ※初期値(DFS-01UHD) HDCP 1.4 ※初期値 (DFS-01HD) DISABLE  ※※ DFS-01UHD のみ設定可能です。

## ■ ビデオウォール設定



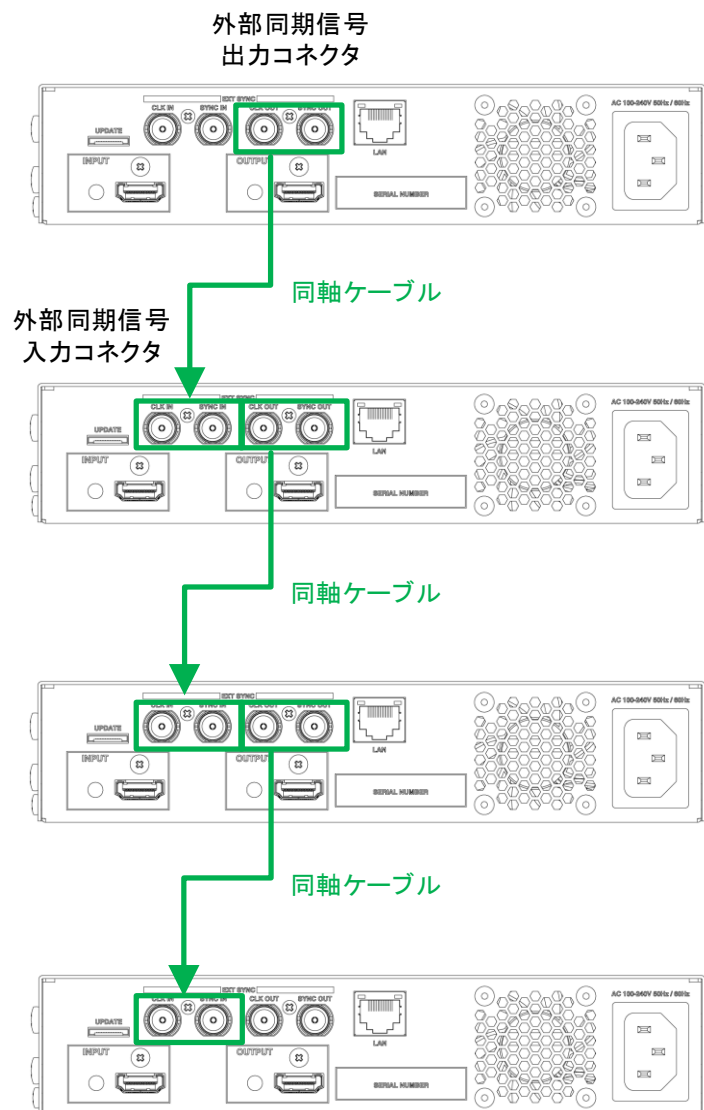
[図 4.57] ビデオウォール設定の設定画面

[表 4.18] ビデオウォール設定の設定項目

項目	内容	設定範囲
外部同期	<p>外部同期機能を設定します。</p> <p>“AUTO” に設定した場合、外部同期信号入力コネクタに同期信号が入力されると、本機の出力映像は外部機器と同期します。</p> <p>“OFF” に設定した場合、外部同期機能は無効になります。</p> <p>“ON” に設定した場合、外部同期機能は常に有効になります。</p>	<p>AUTO：外部同期信号の入力を検出する ※初期値</p> <p>OFF：外部同期信号の入力を検出しない、外部同期機能は無効</p> <p>ON：外部同期信号の入力を検出しない、外部同期機能は常に有効</p>

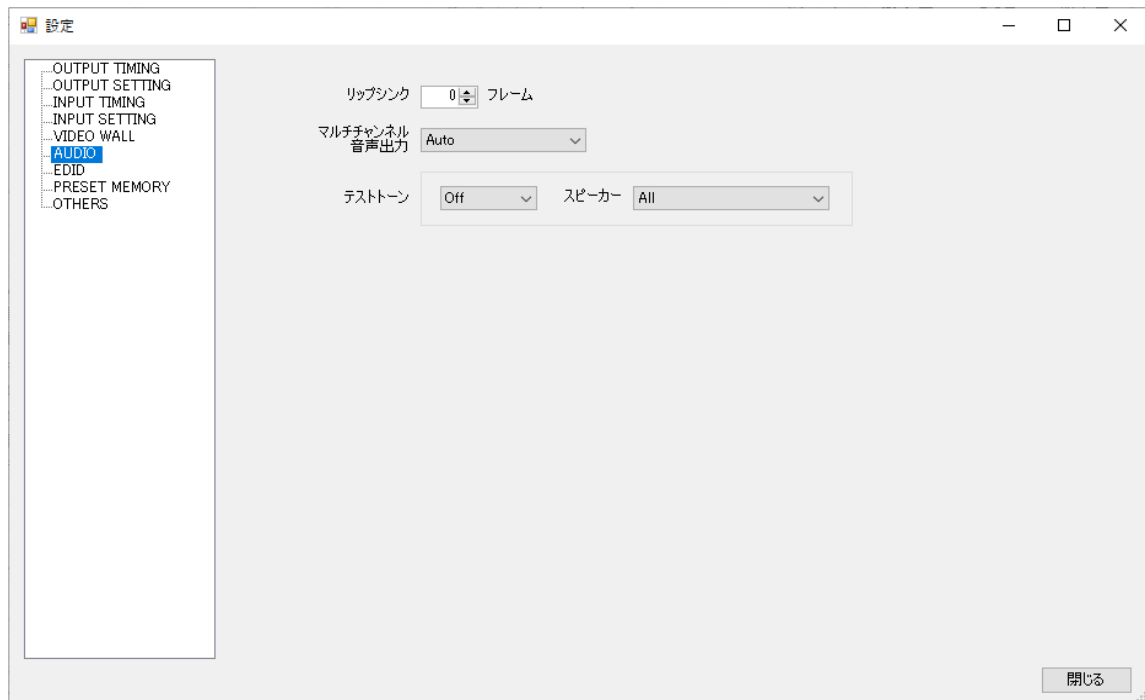
外部同期機能を使用するときは、外部同期信号出力コネクタと、同期させる DFS Series の外部同期信号入力コネクタを同軸ケーブルで接続してください。

なお、同軸ケーブルは、特性インピーダンスが 75  $\Omega$  のものを使用してください。



[図 4.58] 同軸ケーブルの接続方法

## ■ 音声設定



[図 4.59] 音声設定の設定画面

[表 4.19] 音声設定の設定項目

項目	内容	設定範囲
リップシンク	映像と音声の時間のズレを調整します。	0 フレーム ~ 16 フレーム ※初期値 0 フレーム
マルチチャンネル音声出力	HDMI デジタル音声にマルチチャンネルリニア PCM 信号が入力されたとき、シンク機器へ出力する音声を選択します。 音声設定は、マルチチャンネルの音声をダウンミックスした音声 (DOWN MIX)、ステレオ音声 (STEREO)、モノラル音声 (MONO) および “AUTO” から選択できます。  “AUTO” に設定すると、自動的に接続したシンク機器に最適な音声を出力します。	AUTO ※ 初期値 DOWN MIX CH1/CH2 STEREO CH3/CH4 STEREO CH5/CH6 STEREO CH7/CH8 STEREO CH1/CH2 MONO CH3/CH4 MONO CH5/CH6 MONO CH7/CH8 MONO
テストトーン	テストトーンを出力します。テストトーンは特定のスピーカーのみに出力することもできます。 これにより、スピーカーの配置チェックや接続確認ができます。 Low Frequency Effect は 30 Hz のテストトーンが出力されます。	※1

※1 テストトーンの設定範囲は以下のとおりです。

テストトーン：

OFF ※初期値、1000Hz、400Hz

スピーカー：

- ・ ALL ※初期値
- ・ FRONT L/R
- ・ REAR L/R
- ・ REAR L/R CENTER
- ・ FRONT LEFT
- ・ FRONT RIGHT
- ・ LOW FREQUENCY EFFECT
- ・ FRONT CENTER
- ・ REAR LEFT
- ・ REAR RIGHT
- ・ REAR LEFT CENTER
- ・ REAR RIGHT CENTER

## ■ EDID 設定



[図 4.60] EDID 設定の設定画面

[表 4.20] EDID 設定の設定項目

項目	内容	設定範囲
EDID の解像度	ソース機器に対し、出力要求する解像度を設定します。 この設定は、ブルーレイディスクプレーヤーなどの AV 機器を HDMI で接続したときに、出力解像度を制限する場合に有効に機能します。	※1
Audio フォーマット	ソース機器から出力されるリニア PCM Audio 、 Dolby Digital Audio 、 AAC Audio 、 Dolby Digital Plus Audio、 DTS Audio、 DTS-HD Audio 、 Dolby TrueHD Audio の最大サンプリング周波数を設定します。	※2
Deep Color 入力	ソース機器から出力される色深度を設定します。	24Bit ※初期値 30Bit
スピーカー構成	マルチチャンネル音声のスピーカー構成を設定します。 この設定は、 [EDID の解像度] で内蔵 EDID (設定 値：外部 EDID、コピーEDID 以外) を選択した場合 に、有効となります。	2ch 2.1ch 5.1ch 7.1ch
EDID コピー	シンク機器の EDID データを読み取り、本機に記憶 します。 このEDIDをコピーEDIDとして本機に登録すること で、EDIDの解像度で“コピーEDID”を設定したと きに内蔵EDIDと同じ扱いとなります。	



※1 EDID の解像度の設定範囲は以下のとおりです。

- ・ 外部 EDID
- ・ コピーEDID
- ・ 1080p (1920x1080)
- ・ 720p (1280x720)
- ・ 1080i (1920x1080)
- ・ 1080p 24/25/30/50 (1920x1080)
- ・ SVGA (800x600)
- ・ XGA (1024x768)
- ・ VESA720 (1280x720)
- ・ WXGA (1280x768)
- ・ WXGA (1280x800)
- ・ Quad-VGA (1280x960)
- ・ SXGA (1280x1024)
- ・ WXGA (1360x768 / 1366x768)
- ・ SXGA+ (1400x1050)
- ・ WXGA+ (1440x900)
- ・ WXGA++ (1600x900)
- ・ UXGA (1600x1200)
- ・ WSXGA+ (1680x1050)
- ・ VESA1080 (1920x1080)
- ・ WUXGA (1920x1200)
- ・ QWXGA (2048x1152)
- ・ WQHD (2560x1440)
- ・ WQXGA (2560x1600)
- ・ 2160p @30 (3840x2160)
- ・ 2160p @60 (4:2:0) (3840x2160)※※
- ・ 2160p @60 (4:4:4) (3840x2160)※※
- ・ 4096x2160 @30
- ・ 4096x2160 @60 (4:2:0)※※
- ・ 4096x2160 @60 (4:4:4)※※

※※ DFS-01UHD のみ設定可能です。

※初期値 DFS-01UHD	2160p @60 (4:4:4) (3840x2160)
DFS-01HD	1080p (1920x1080)

※2 Audio フォーマットの設定範囲は以下のとおりです。

**[表 4.21] Audio フォーマットの設定範囲**

音声フォーマット	最大サンプリング周波数
リニア PCM	32 kHz / 44.1 kHz / 48 kHz / 88.2 kHz / 96 kHz / 192 kHz
Dolby Digital	— — / 48 kHz
AAC	— — / 96 kHz
Dolby Digital Plus	— — / 48 kHz
DTS	— — / 96 kHz
DTS-HD	— — / 192 kHz
Dolby TrueHD	— — / 192 kHz

■ プリセットメモリ設定



[図 4.61] プリセットメモリ設定画面

[表 4.22] プリセットメモリの設定項目

項目	内容	設定範囲
プリセットメモリ番号	表示するプリセットメモリの番号を設定します。	No.1 ～ No.16
プリセットメモリ名	[プリセットメモリ番号] で選択されたプリセットメモリの名前を表示します。	
プリセットメモリの内容	[プリセットメモリ番号] で選択されたプリセットメモリの内容を表示します。	

■ その他設定



[図 4.62] その他の設定画面

[表 4.23] その他の設定項目

項目	内容	設定範囲
オペレーションロック	DFS Series のメニュー操作ボタンをロック (またはロック無効) に設定します。	<div><input type="checkbox"/> ロックする</div> <div>ロックしない ※初期値</div> <div><input checked="" type="checkbox"/> ロックする</div> <div>ロックする</div>
機器のバージョン情報	DFS Series のファームウェアのバージョン情報を表示します。	

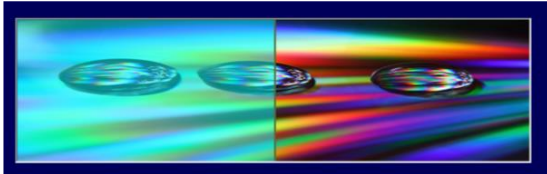
## 4.4.22 DFS Series の設定のコピー

### 【DFS Series 対象】

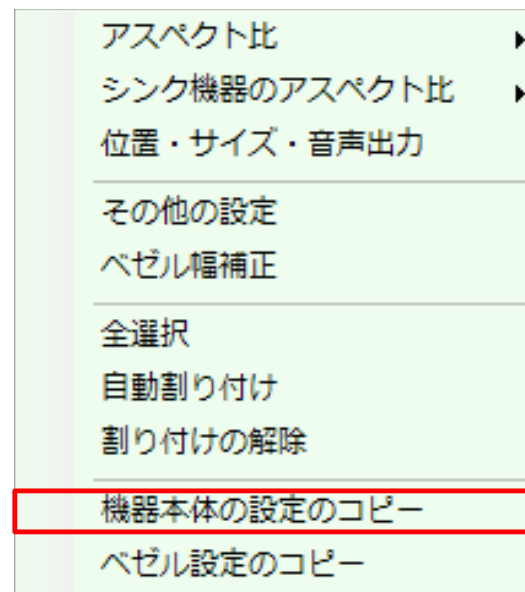
選択した DFS Series の設定をビデオウォール上の他の DFS Series にコピーします。

[ビデオウォール構成] からコピー元にする DFS Series が割り付けられた画面を選択し、右クリックを行います。ショートカットメニューが開くので、[機器本体の設定のコピー] をクリックします。設定画面が開きます。

#### ① 設定する画面を選択する



#### ② 右クリックでショートカットメニューを開き、[機器本体の設定のコピー] をクリックする

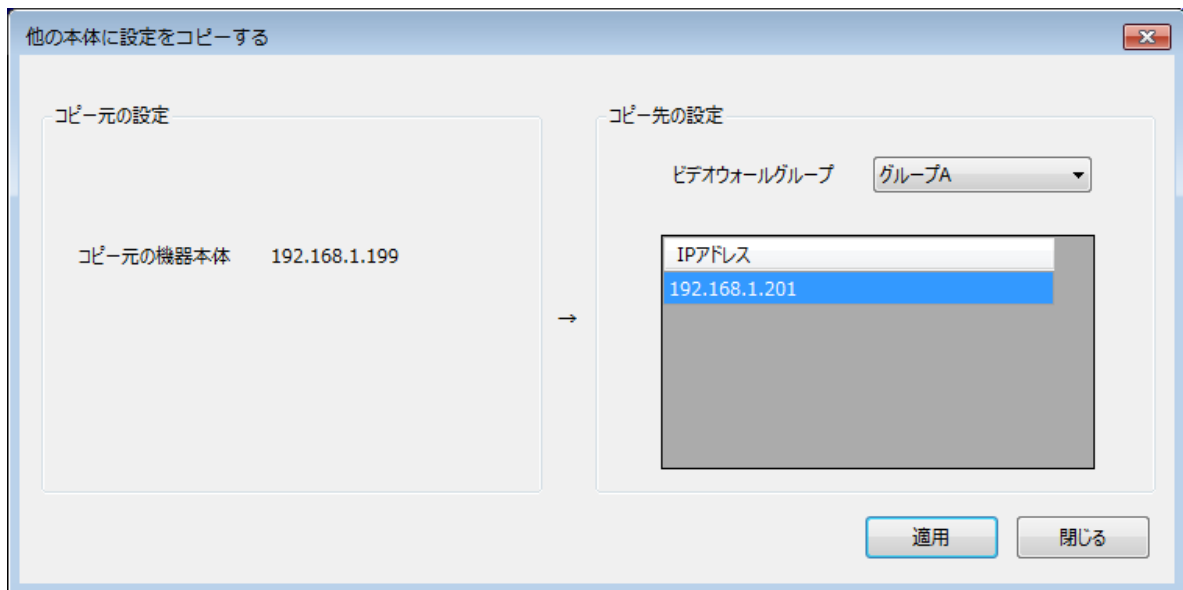


#### ③ [他の本体に設定をコピーする] 設定画面が開く



[図 4.63] 他の本体に設定をコピーする

設定のコピー先となる DFS Series を [IP アドレス] から選択して、[適用] ボタンを押してください。  
 [Ctrl] キーを押しながら選択することで、複数のコピー先に設定をコピーすることができます。  
 また、[ビデオウォールグループ] を変更することで、異なるビデオウォールグループの DFS Series に対しても、設定をコピーすることができます。



[図 4.64] [他の本体に設定をコピーする] 画面

---

【注意】 表示位置、表示サイズ、IP アドレス、サブネットマスク、TCP ポートの設定はコピー先の設定には反映されません。

---

## 4.4.23 IDK 製品のステータスを表示する

【DFS Series / FDX-S Series 分岐】

### ■ DFS Series の場合

ビデオウォール上の DFS Series の各種ステータスを表示します。

[ステータス表示] ボタンをクリックすることで監視画面が開きます。

次のステータスを表示します。

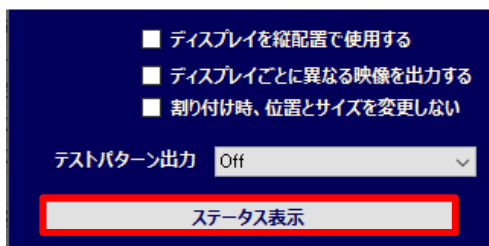
- ・ 入力信号、解像度および音声
- ・ ディスプレイとの接続状態と、そのディスプレイの HDCP 対応状況
- ・ 内部温度状態
- ・ 放熱ファンの回転数、本体の電源電圧の状態

[ステータス] 画面のステータス表示は、約 10 秒単位で自動更新されます。

[更新] ボタンを選択すると、自動更新時間を待つことなく画面の表示内容が更新されます。

また、[ビデオウォールグループ] を変更することで、ステータスを表示する DFS Series を変更することができます。

#### ①[ステータス表示] ボタンをクリックする



#### ②[ステータス] 画面が開く



[図 4.65] ビデオウォール上の DFS Series のステータスを表示する

## ■ FDX-S Series の場合

FDX-S Series の各種ステータスを表示します。

[ステータス表示] ボタンをクリックすることで監視画面が開きます。

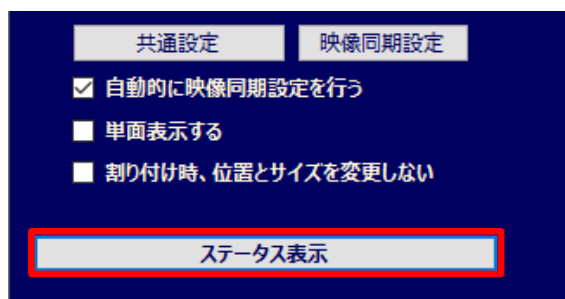
次のステータスを表示します。

- ・ 入力信号、解像度および音声
- ・ ディスプレイとの接続状態と、そのディスプレイの HDCP 対応状況
- ・ ボードの温度状態
- ・ 放熱ファンの回転数、本体の電源電圧の状態

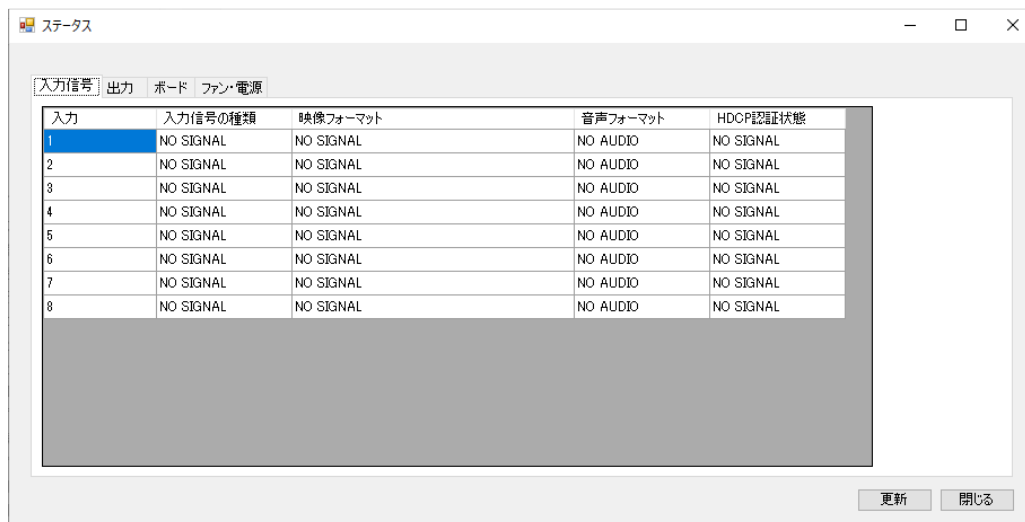
[ステータス] 画面のステータス表示は、約 10 秒単位で自動更新されます。

[更新] ボタンを選択すると、自動更新時間を待つことなく画面の表示内容が更新されます。

### ①[ステータス表示] ボタンをクリックする



### ②[ステータス] 画面が開く



[図 4.66] FDX-S Series のステータスを表示する



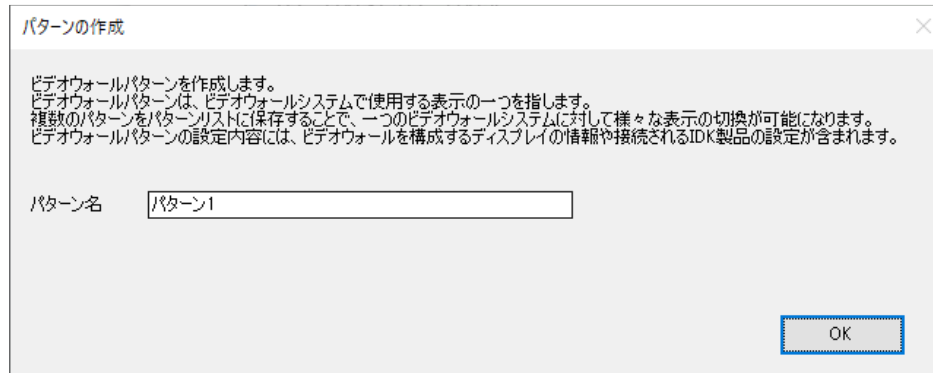
#### 4.4.24 ビデオウォールパターンを新規作成する

【DFS Series / FDX-S Series 共通】

現在設定中の画面を初期化して、新規にビデオウォールパターンを作成します。

[ファイル] メニュー - [新規] - [パターン] を選択します。 [パターンの作成] 画面が開きます。

[パターン名] に任意の名前を入力して [OK] ボタンを押してください。



[図 4.67] パターンの新規作成

## 4.5 表示パターンの保存

### 【DFS Series / FDX-S Series 分岐】

現在のビデオウォールパターンから、表示パターンを保存します。表示パターンとして保存される設定は以下のとおりです。

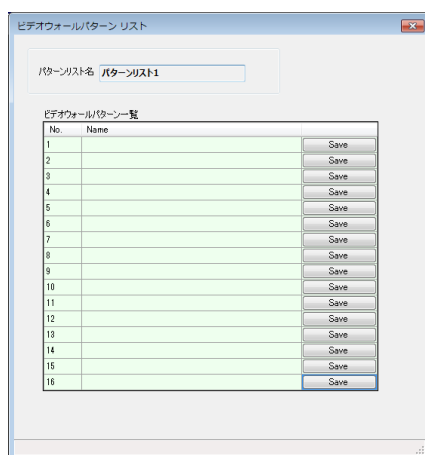
#### ■ DFS Series の場合

- ・ 4.4.5 ビデオウォールの分割数設定 (P.33) の分割数
- ・ 4.4.8 ビデオウォール上の画面と IP アドレスの割り付け (P.39) のビデオウォール上の画面位置
- ・ 4.4.19 位置・サイズ・音声出力の設定を行う (P.67) の映像の位置とサイズ、音声出力レベル、音声出力ミュート
- ・ 4.4.21 その他 DFS Series の設定を行う (P.72) の出力解像度、回転、反転、出力コントラスト、出力ブライトネス、テストパターン

#### ■ FDX-S Series の場合

- ・ 4.4.5 ビデオウォールの分割数設定 (P.33) の分割数
- ・ 4.4.9 ビデオウォール上の画面と出力チャンネルの割り付け (P.42) のビデオウォール上の画面位置
- ・ 4.4.19 位置・サイズ・音声出力の設定を行う (P.67) の映像の位置とサイズ
- ・ 4.4.18 ビデオウォール共通設定を行う (P.64) の出力解像度、アスペクト比、テストパターン、バックカラー、出力コントラスト、出力ブライトネス、出力ガンマ
- ・ 4.4.13 マルチウィンドウ設定を行う (P.47) のウィンドウ表示位置、ウィンドウ表示サイズ、映像表示位置、映像表示サイズ、背景色、ウィンドウ優先順位、映像切換効果、ウィンドウ非表示、オーバーレイテキスト表示位置、オーバーレイテキストサイズ、ウィンドウ枠色、ウィンドウ枠サイズ
- ・ フレーム遅延、映像信号無入力時の出力映像、エンベデッドオーディオ、オーディオディエンベデッド、ビットマップ画像の出力、背景色、アスペクト比、表示位置

[ビデオウォールパターン] メニュー - [パターンリストへの保存] を選択します。保存画面が開きます。登録先にする番号を [No.] から選択し、[Save] ボタンをクリックすることで保存が完了します。



【図 4.68】 [ビデオウォールパターン リスト] 画面

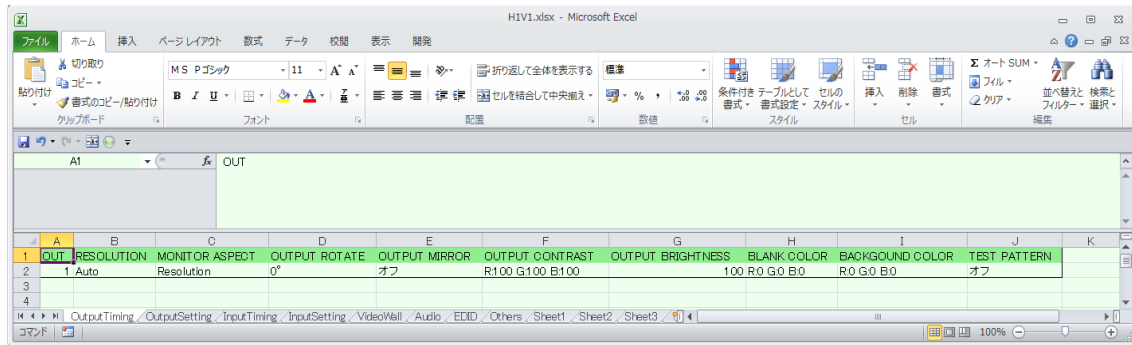
【注意】 本機能は IDK 製品のプリセットメモリを利用しているため、IDK 製品の初期化やプリセットメモリの保存内容を変更すると、保存した内容を読み出せなくなります。

## 4.6 Excel ファイル出力

### 【DFS Series / FDX-S Series 分岐】

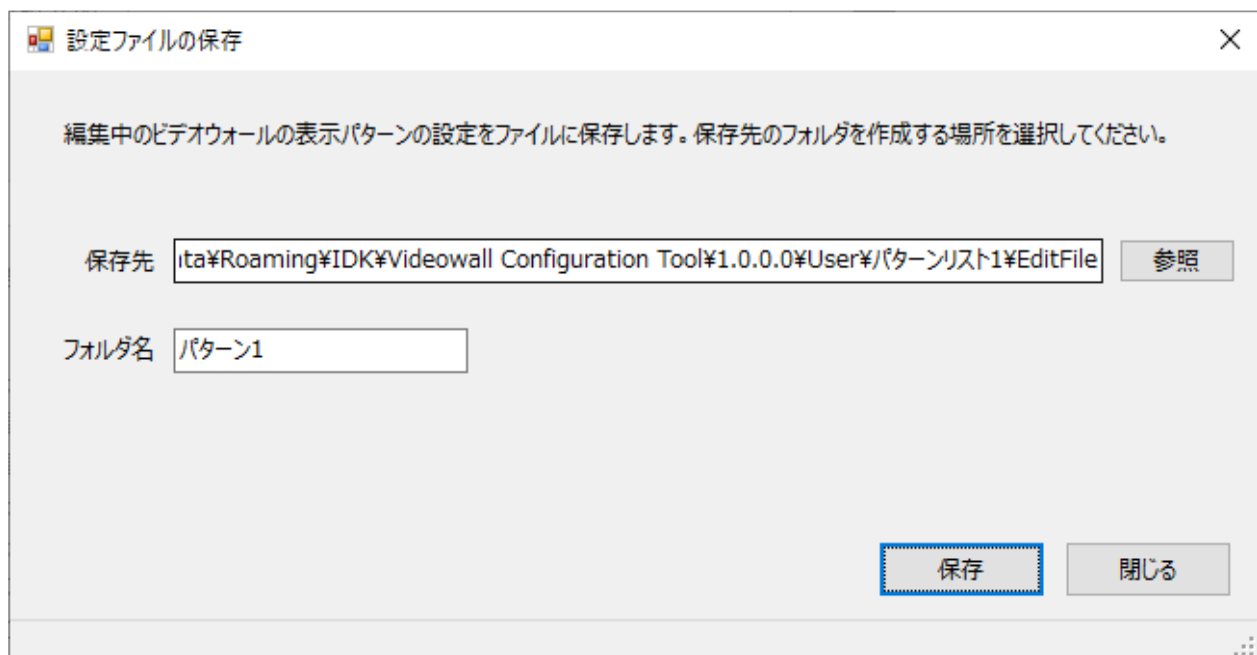
機器本体の設定を Excel ファイルとして出力します。

[ファイル] メニュー - [書出] を選択します。 [設定ファイルの保存] 画面が開きます。



[図 4.69] 機器本体の設定ファイル

[保存] ボタンを押すことで、ファイルの保存が実行されます。



[図 4.70] 機器本体の設定の保存

## ■ DFS Series の場合

ビデオウォールに割り付けられた DFS Series の機器本体の設定をファイルに保存します。

**4.4.5 ビデオウォールの分割数設定 (P.33) 、4.4.8 ビデオウォール上の画面と IP アドレスの割り付け (P.39) ～ 4.4.21 その他 DFS Series の設定を行う (P.72)**で各 DFS Series に設定した内容が保存されます。

すべてのビデオウォールグループの全画面位置に IP アドレスが割り付けられている場合のみ、保存することができます。

[表 4.24] Excel ファイル出力される機器本体の設定

設定	項目
出力タイミング設定 (P.74)	出力解像度、シンク機器のアスペクト比、テストパターン出力、回転、反転、ブランクカラー、バックカラー、コントラスト調整値、ブライトネス調整値
出力設定 (P.77)	出力モード、シンク機器 EDID チェック、HDCP 出力、ホットプラグ オフ マスク、Deep Color
入力タイミング (P.79)	取り込み開始位置、取り込みサイズ、アスペクト比、シャープネス、コントラスト、ブライトネス、色相、彩度、ガンマ
入力設定 (P.81)	映像信号の無入力監視時間、HDCP 入力の許可 / 禁止
ビデオウォール設定 (P.83)	分割数※1、ビデオウォール上の画面位置※2、表示サイズ※3、表示位置※3、外部同期
音声設定 (P.85)	音声出力レベル※3、音声出力ミュート※3、リップシンク、マルチチャンネル音声出力、テストトーン
EDID 設定 (P.87)	EDID の解像度、Audio フォーマット、Deep Color 入力、スピーカー構成
その他の設定 (P.92)	オペレーションロック

※1 4.4.5 ビデオウォールの分割数設定 (P.33) で設定される項目です。

※2 4.4.8 ビデオウォール上の画面と IP アドレスの割り付け (P.39) で設定される項目です。

※3 4.4.19 位置・サイズ・音声出力の設定を行う (P.67) で設定される項目です。

## ■ FDX-S Series の場合

接続した FDX-S Series の機器本体の設定をファイルに保存します。

[表 4.25] Excel ファイル出力される機器本体の設定 (FDX-S Series)

設定	項目
映像を出力する	入力チャンネルの選択※1
出力画角設定	出力解像度※2、シンク機器のアスペクト比※2、テストパターン出力※2、バックカラー※2、分割数※3、ビデオウォール上の画面位置※4、表示サイズ※5、表示位置※6、同期モード設定※6、映像同期処理※6
出力設定	HDCP 出力モード、出力フォーマット、Deep Color 出力、映像切替効果、シンク機器 EDID 判別、ホットプラグ オフ マスク、SDI 出力フォーマット変換、SDI 出力ギアボックスモード
入力画角設定	アスペクト比
入力設定	映像信号の無入力監視、HDCP 入力の許可 / 禁止、SDI 入力音声グループ、3G-SDI Dual Stream 入力信号時のストリーム、SDI 入力ギアボックスモード
入力タイミング設定	水平 / 垂直取り込み開始位置、水平 / 垂直取り込みサイズ
画質調整	出力ブライトネス※2、出力コントラスト※2、出力ガンマ※2、入力シャープネス、入力ブライトネス、入力コントラスト、入力色相、入力彩度
出力音声設定	ミュート、出力リップシンク、エンベデッドオーディオ、オーディオディエンベデッド、音声選択※7、SDI 出力音声グループ
入力音声設定	音声入力時の安定待ち
EDID 設定	入力解像度、EDID 読み取りチャンネル、フレームレート、Deep Color 入力、音声フォーマット、スピーカー構成
RS-232C 設定	RS-232C 通信の設定
LAN 設定	IP アドレス、サブネットマスク、TCP ポート番号
プリセットメモリ設定	クロスポイントメモリの内容
ビットマップ設定	ビットマップ画像の出力、背景色、アスペクト比、表示位置、電源投入時のビットマップ画像出力
マルチウィンドウ設定	ウィンドウ表示位置※7、ウィンドウ表示サイズ※7、映像表示位置※7、映像表示サイズ※7、背景色※7、ウィンドウ優先順位※7、映像切替効果※7、ウィンドウ非表示※7、オーバーレイテキスト表示位置※7、オーバーレイテキストサイズ※7、ウィンドウ枠サイズ※7、ウィンドウ枠色※7
システム設定	ボタンロック、ボタンロック対象の設定
ボードステータス	入力ボード、出力ボード、音声ボード

※1 4.4.15 ビデオウォールの入力映像を設定する (P.62) で設定される項目です。

※2 4.4.18 ビデオウォール共通設定を行う (P.64) で設定される項目です。

※3 4.4.5 ビデオウォールの分割数設定 (P.33) で設定される項目です。

※4 4.4.9 ビデオウォール上の画面と出力チャンネルの割り付け (P.42) で設定される項目です。

※5 4.4.19 位置・サイズ・音声出力の設定を行う (P.67) で設定される項目です。

※6 4.4.12 FDX-S Series の映像同期設定を行う (P.46) で設定される項目です。

※7 4.4.13 マルチウィンドウ設定を行う (P.47) で設定される項目です。

## 4.7 パターンリスト

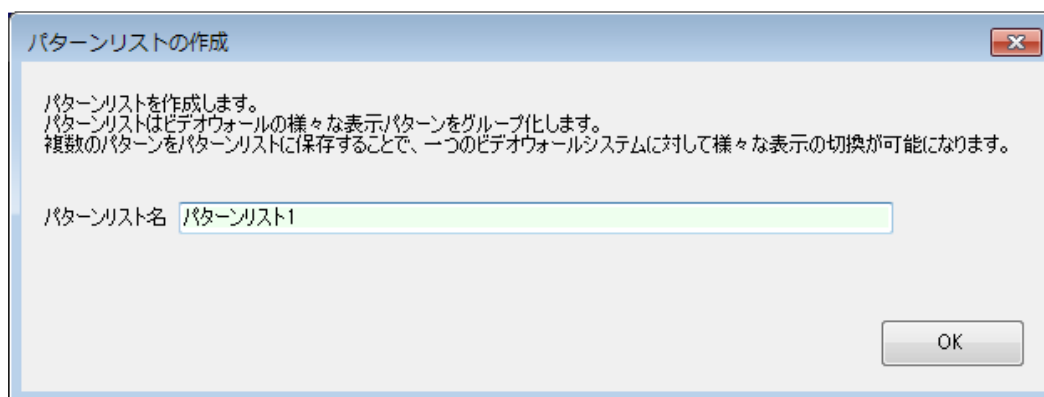
パターンリストを複数作成することで、Videowall Configuration Tool で複数のビデオウォールシステムの表示パターンを切り換えることができます。登録先のパターンリストを変更するには、現在のパターンリストとは異なるファイルを読み込んでください。

### 4.7.1 パターンリストを新規作成する

【DFS Series / FDX-S Series 共通】

パターンリストを新規作成します。

[ファイル] メニュー - [新規] - [パターンリスト] を選択します。[パターンリストの作成] 画面が開きます。[パターンリスト名] に任意の名前を入力して [OK] ボタンを押します。



【図 4.71】現在の機器本体の設定の保存

作成したパターンリストのファイルは、C:\Users\【ユーザー名】\AppData\Roaming\IDK\Videowall Configuration Tool\1.0.0.0\User\【パターンリスト名】に保存されています。



【図 4.72】パターンリストファイルの保存場所

## 4.7.2 登録先のパターンリストを変更する

【DFS Series / FDX-S Series 共通】

既存のパターンリストのファイルを読み込んで、**4.5 表示パターンの保存 (P.98)** で表示パターンを保存するときに登録先となるパターンリストを変更します。

[ファイル] メニュー - [読込] - [パターンリスト]を選択することで [パターンリストを読み込む] 画面が開きます。

[ファイル] の [参照] ボタンをクリックして [開く] ダイアログを開き、パターンリストのファイルを指定して [OK] ボタンを押します。[読込] ボタンを押すことで、登録先のパターンリストが変更されます。



【図 4.73】 パターンリストの読み込み

## 4.8 バックアップ / リストア

IDK 製品の設定可能な全内容を、パソコンにファイルとしてバックアップすることができます。Pattern Editor で設定を行わない項目も含めて、バックアップを行います。

バックアップしたデータは、IDK 製品の設定のリストアに使用することができます。

また、他の同一機種に設定のコピーをすることもできます。

### 4.8.1 DFS Series の全設定をバックアップする

#### 【DFS Series 対象】

DFS Series の設定可能な全内容をファイルにバックアップすることができます。

[参照] ボタンをクリックして [フォルダーの参照] ダイアログを開き、バックアップファイルの保存先を選択して [OK] ボタンを押します。

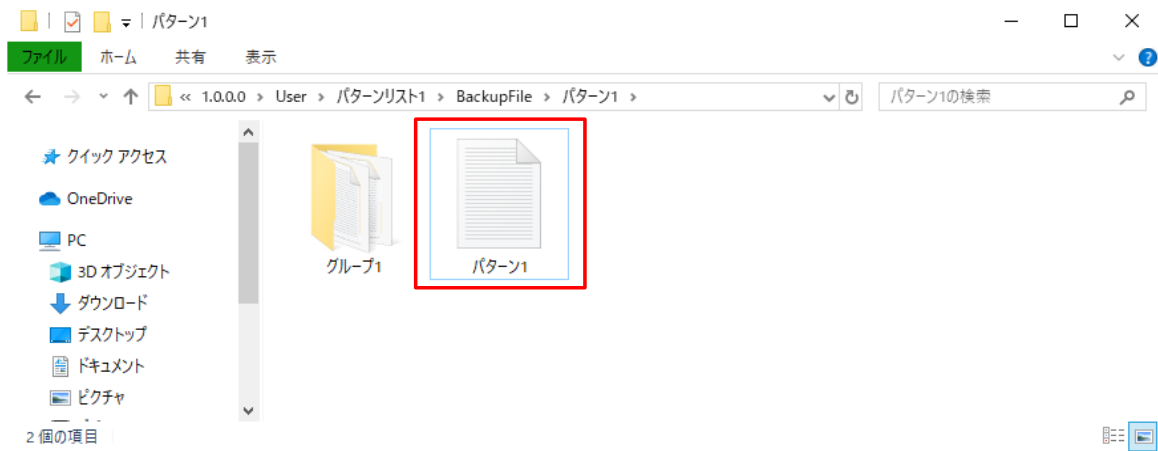
バックアップは、[バックアップ] ボタンをクリックしたときに実行されます。



[図 4.74] [バックアップ] 画面



選択されたフォルダには、ビデオウォールパターン名と同名のテキストファイル（管理ファイル）が保存されます。バックアップファイルに保存した設定を DFS Series にリストアする場合は、この管理ファイルを指定します。

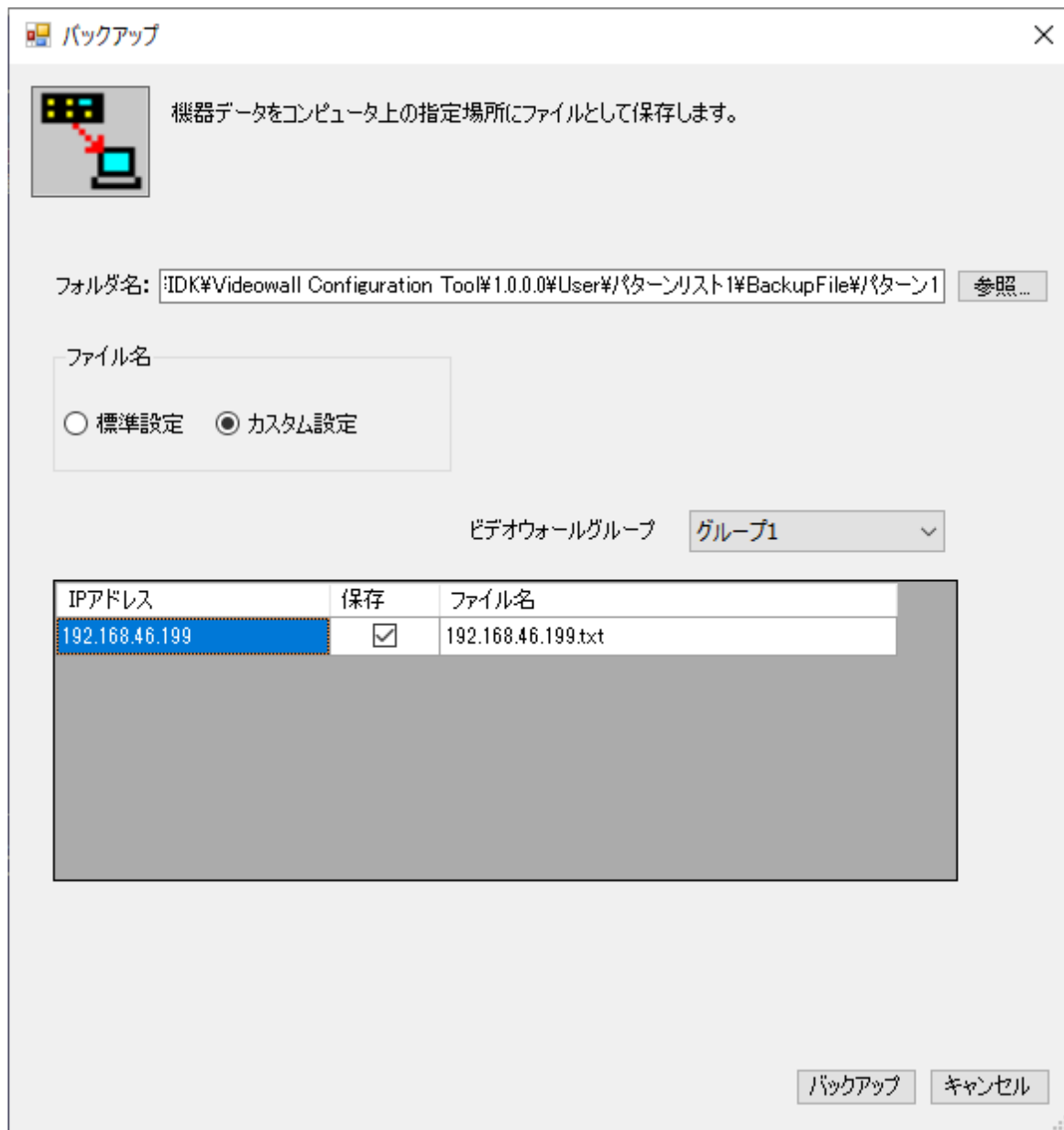


[図 4.75] 保存ファイル

[ファイル名] でカスタム設定を選択した場合、ビデオウォールグループ内の一部の DFS Series のみをバックアップ対象とすることや、各バックアップファイルの名前を変更することができます (初期値は IP アドレスと同名)。

[保存] のチェックを外すと、該当の IP アドレスを持つ DFS Series からのバックアップはされません。

[ファイル名] のセルをクリックすることで、該当の IP アドレスのバックアップファイルの名前が編集可能になります (最大 30 文字)。



[図 4.76] カスタム設定

## 4.8.2 パソコンに保存したバックアップデータを DFS Series にリストアする

### 【DFS Series 対象】

バックアップファイルとして保存した設定を DFS Series に適用します。

バックアップ時に選択したフォルダから管理ファイルを指定します。

[参照] ボタンをクリックして [開く] ダイアログを開き、ファイルを指定して [OK] ボタンを押します。

リストアは、[リストア] ボタンをクリックしたときに実行されます。

【参照：4.8.1 DFS Series の全設定をバックアップする (P.104)】



[図 4.77] [リストア] 画面

【注意】 リストアを行うと、DFS Series の通信設定が変更され、Pattern Editor との通信が行えなくなる場合があります。

再度 Pattern Editor との通信を確立する場合には、DFS Series の通信設定を DFS Series のフロントパネルまたは Web ブラウザから変更してください。

### 4.8.3 FDX-S Series の全設定をバックアップする

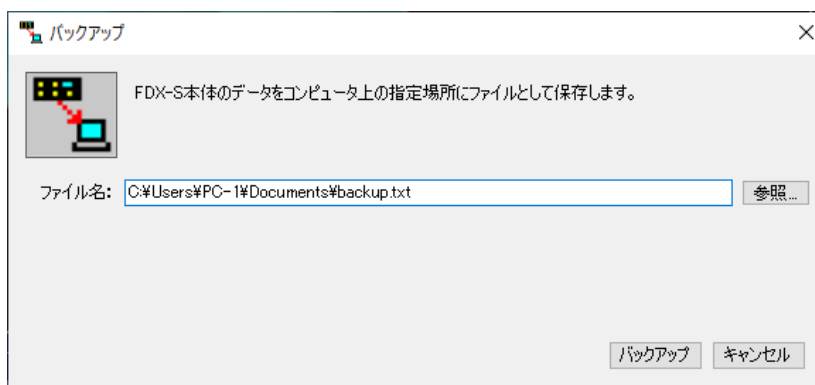
---

#### 【FDX-S Series 対象】

FDX-S Series の設定可能な全内容をファイルにバックアップすることができます。

[参照] ボタンをクリックして [フォルダーの参照] ダイアログを開き、バックアップファイルの保存先を選択して [OK] ボタンを押します。

バックアップは、[バックアップ] ボタンをクリックしたときに実行されます。



[図 4.78] [バックアップ] 画面

### 4.8.4 パソコンに保存したバックアップデータを FDX-S Series にリストアする

---

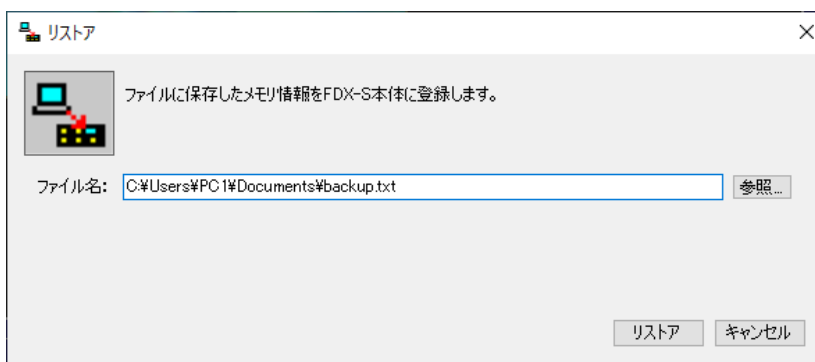
#### 【FDX-S Series 対象】

バックアップファイルとして保存した設定を FDX-S Series に適用します。

[参照] ボタンをクリックして [開く] ダイアログを開き、ファイルを指定して [OK] ボタンを押します。

リストアは、[リストア] ボタンをクリックしたときに実行されます。

【参照：4.8.3 FDX-S Series の全設定をバックアップする (P.108)】



[図 4.79] [リストア] 画面

---

【注意】 リストアを行うと、FDX-S Series の通信設定が変更され、Pattern Editor との通信が行えなくなる場合があります。

再度 Pattern Editor との通信を確立する場合には、FDX-S Series の通信設定を FDX-S Series のフロントパネルまたは Web ブラウザから変更してください。

---

## 5. ビデオウォールシステムの表示パターン切換

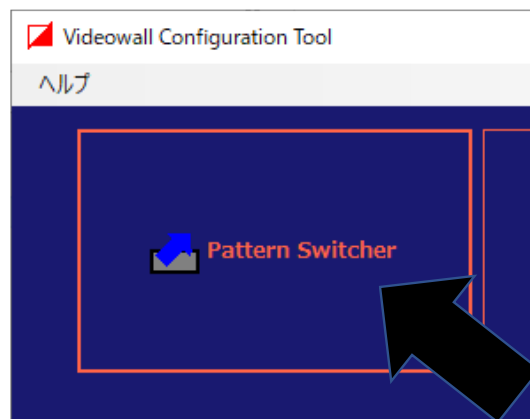
本章では、4.5 表示パターンの保存 (P.98) で保存したビデオウォールシステムの表示パターンを呼び出して、ビデオウォールの表示を切り換える方法を説明します。

### 5.1 Pattern Switcher

Pattern Switcher は、ビデオウォールシステムの表示パターン切換のためのソフトウェアです。表示パターンを保存するには、「Pattern Editor」を使用してください。

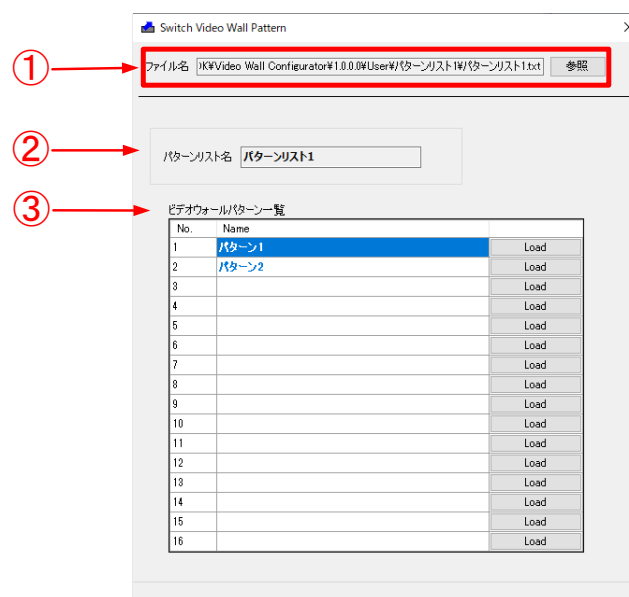
【参照：4.1 Pattern Editor (P.13)】

Pattern Switcher を起動するには、Videowall Configuration Tool の [Pattern Switcher] ボタンをクリックします。



[図 5.1] [Pattern Switcher] ボタン

Pattern Switcher のメインパネルは、パターンリストのファイル選択、パターンリスト名、ビデオウォールパターン一覧から構成されます。パターンリストとビデオウォールパターンについては、4.1 Pattern Editor (P.13) を参照してください。



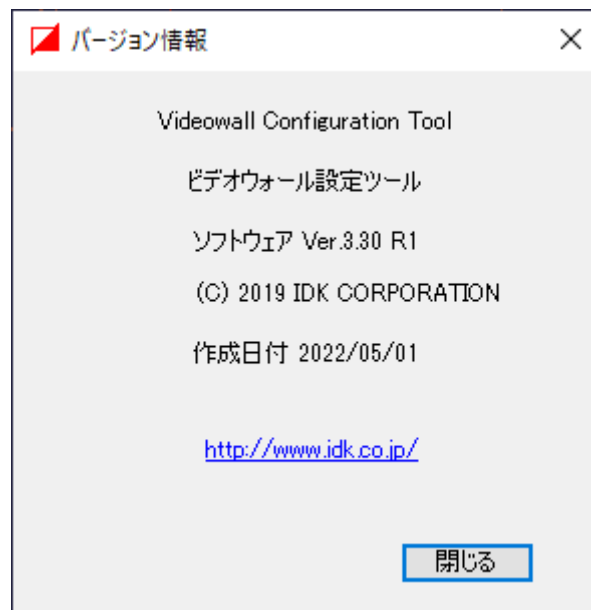
[図 5.2] Pattern Switcher の画面構成

[表 5.1] Pattern Switcher の説明

番号	名前	説明
①	パターンリストの ファイル指定	使用するパターンリストのファイルを指定します。 [参照] ボタンを押してダイアログを開き、そのパターンリストのファイルを指定してください。
②	パターンリスト名	選択したファイルのパターンリスト名が表示されます。
③	ビデオウォールパ ターン一覧	パターンリストに登録されたビデオウォールパターンを表示します。 ビデオウォールパターンの [Load] ボタンを押すことで、 <b>4.5 表示パターンの保存 (P.98)</b> で保存された設定が呼び出されます。

## 6. Videowall Configuration Tool のバージョン情報表示

Videowall Configuration Tool のバージョン情報は、[ヘルプ] メニュー - [バージョン情報] から確認ができます。



[図 6.1] Videowall Configuration Tool のバージョン情報

---

## Videowall Configuration Tool 取扱説明書

Ver.3.4.0

発行日 2022 年 12 月 21 日

---



**株式会社 アイ・ディ・ケイ**

**本 社** 〒242-0021 神奈川県大和市中央 7-9-1  
TEL (046) 200-0764 FAX (046) 200-0765

**関西営業所** 〒564-0063 大阪府吹田市江坂町 1-23-5 大同生命江坂第 2 ビル 5 階  
TEL (06) 6192-0764 FAX (06) 6192-0906

**九州営業所** 〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前 4-9-2 八百治センタービル 3 階  
TEL (092) 431-0764 FAX (092) 431-0906

**E メールアドレス** [info@idk.co.jp](mailto:info@idk.co.jp) **ホームページ** [www.idk.co.jp](http://www.idk.co.jp)